
第3章

くらしの各分野・県政に対する意見・提案

～第3章 暮らしの各分野・県政に対する意見・提案～

表3-1 集計結果

(単位：件)

1. 福祉・保健・医療	1,751
(1) 「『結婚したい』、『子どもが欲しい』と思える社会」とは	446
(2) 「安心して子育てができる社会」とは	327
(3) 「高齢者や障害者などだれもが地域で生活しやすい社会」とは	305
(4) 「健康的な生活を送れる社会」とは	251
(5) 「安心して医療を受けることができる社会」とは	281
(6) 「福祉・保健・医療」分野全般についての意見・提案	141
2. 教育・文化・スポーツ	853
(1) 「子ども一人ひとりにとって望ましい教育環境」とは	280
(2) 「歴史や文化にふれ、楽しめる社会」とは	157
(3) 「生涯学習を楽しめる社会」とは	143
(4) 「スポーツに親しめる社会」とは	179
(5) 「教育・文化・スポーツ」分野全般についての意見・提案	94
3. 交通基盤・社会基盤・情報化	538
(1) 「人や物、情報の交流がスムーズにできる社会」とは	188
(2) 「暮らしやすいまち」とは	235
(3) 「交通基盤・社会基盤・情報化」分野全般についての意見・提案	115
4. 安全・環境	821
(1) 「安心して消費生活を送れる社会」とは	127
(2) 「安全・安心な社会」とは	212
(3) 「災害に対して安心できる社会」とは	232
(4) 「環境が保全されている社会」とは	151
(5) 「安全・環境」分野全般についての意見・提案	99
5. 産業	666
(1) 「望ましい農林水産業の姿」とは	169
(2) 「望ましい県内企業の状況」とは	147
(3) 「県外の人にとって魅力ある佐賀県」とは	248
(4) 「産業」分野全般についての意見・提案	102
6. 雇用・労働	316
(1) 「望ましい労働環境」とは	194
(2) 「雇用・労働」分野全般についての意見・提案	122
7. その他国際化など	312
(1) 「だれもが国際的な視野を持ち、外国人と共生できる社会」とは	128
(2) 「だれもが個性や能力を発揮できる社会」とは	120
(3) 「その他国際化など」全般についての意見・提案	64
8. 県政情報の発信	68
9. 県政に対する意見・提案	499
総計	5,824

※具体的な内容は、次ページ以降に一部抜粋して掲載しています。

1. 「福祉・保健・医療」分野

(1) 「『結婚したい』、『子どもが欲しい』と思える社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	大企業や公務員のように保障が充実している会社を増やし、それが当たり前になること。
		妊婦健診は人それぞれ受診する回数は違うので、決まった回数にするのはおかしい。すべて無料にしてほしい。
		婚活の場を行政で設けたり、子どもがほしいと思う人向けに子どもたちとのふれ合いの場を設けるような社会。
		安心して子どもを産み育てる環境、教育、子育て支援の充実。
	女性	結婚したいと思える社会よりも、子どもが欲しいと思える社会作りが重要だと思う。子どもを産んでも職場に勤め続けることができる環境が大切。
		現在、不妊治療をしています。まだなかなか現状が知られていない中、精神的、体力的、経済的にも辛いものがあります。どうかもう少し助成制度の見直しを考えてください。
		素敵な結婚式場があり、子どもから大人まで遊べる場所がある社会。
		婚活イベントが多く開催されているが、周囲があまりよいイメージを持っておらず参加しにくい。もっと参加しやすい環境になればいい。
		子育てを助ける保障を増やし、金銭面での支えをしてくれる社会。
30代	男性	今現在、離婚率の増加や少子化が進んでおり、それが減少し、家庭を作ることの満足感が実感できるような社会だと思う。
		子どもを育てる良い環境。全面的なお金の面(医療など)の支え。
		会社側が出産、子育てに対して冷たい目線と態度でいるから、結婚や子育ては楽しいというイメージを作ったほうがいい。
		結婚＝子ども、ではないが、結婚したら当然子どもをもうけるもの、というような感覚が根強く、一部の人には息苦しいと思う。子育て環境＋多様性を認める社会がいい。
		職場での子育て支援の確立、男性の育児休暇の取得の確立。
		女性が仕事を辞めなくて、安心して育休、産休が取れる環境作りを。
		雇用と社会保障が充実していると実感できる社会。
	女性	結婚出産育児はお金がかかるので、出産後も安心して仕事ができるしくみや、子育て世代の収入のアップが期待されるような社会。
		不妊治療をしている施設が少ないと感じたので、子どもが欲しいと思ってもなかなか難しいと思っている方が多いのではないのでしょうか。
		出会いの場があり安定した企業があること。安心して子どもを預けられ仕事ができる環境。
		産婦人科が近くにあること。育休がとれやすい環境。収入があること。出会いの場があること。この4つがある社会。
		病児も含め、子どもを預かってくれる所があれば働きやすいと思う。
		みんなが今は多忙で日々の生活に追われている。ゆとりのある仕事としっかりとした賃金体制を整えることで、結婚・子育てに目を向けられる人が増えると思う。
		子育てと仕事の両立がしやすい社会。医療費助成など経済的な面でも支えてもらえる社会。
女性	保育施設の充実はもちろんだが、子どもを自分で見たい母親もいる。夫の給料のみで生活できるように賃金が上がる社会。	
	女性にも職の求人が多くあり、福祉の面で充実されていて、学校教育にも力を入れている社会。	
	結婚出産しても仕事を続けられるような環境があること。	
	第2子以降の資金援助、保育園・幼稚園の充実、共働き家庭への子育て支援(学童保育や夜間・休日の預かりサービス)のある社会。	
		結婚後出産後も就職できるよう会社の制度の充実、保育施設の充実が図られた社会。
		働く時間や雇用体制に関係なく、希望すれば保育園に必ず入ると子どもを産んでもいいと思う。

年代	性別	内容
30代	女性	地域全体が子育てに協力的な社会。
		子どもの医療や福祉が充実している社会。
		教育費や予防接種や医療の負担が少ない社会。
40代	男性	働ける場があり、生活が安定し、経済的にも安定し、未来が明るいと思える社会。
		子どもと同居している家には、補助金等与える。結婚して子どもがいると優位な位置付けとなるようにする。
		仕事、学校などの生活する環境や子育てする環境が整備されて、佐賀に住みたいと思える社会。
		一人であるより結婚している人たちが幸せそうな社会であり、子どもたちがかつてのように地域でイキイキと遊んでいる姿を見かけるような社会。
		育休、産休がきちんと取れること。
		子どもが出産してからの環境や支援が充実していること。
	女性	子どもを産むことで、社会から取り残されたような感覚のない社会。
		産前、産後のお休みがとれるような環境。子どもの病気時など預けやすいところがほしい。
		不妊治療への金銭的なサポートを増やしてほしい。
		子どもが成人するまでにかかる費用を考えると、安定した収入があり、女性が仕事を続けながら、子育てできる環境(労働時間、休日のある程度調整できる)があればと思います。
		結婚して自分の自由がなくなっても、子育てが大変でも、それが自分自身の成長につながる面もあるという意識が浸透した社会。
		小さい子どもを安価で預かってくれる施設があること。安心して遊べる場所が近くにあること。
		男性の家事の協力。
		子どもが3歳までは両親のどちらかが家で育てられる社会。
		子どもを育てるうえでの経済的負担支援や環境があること(医療費、保育料、職場環境、教育)。
		経済的にある程度安定し、若い夫婦や幼い子どもたちを見守ることのできる成熟した社会。
		”結婚⇒子ども”の前提で相談できる、又は育児サポートを利用しやすい社会。
		50代
子育ての施設・設備が十分整った社会。		
男性の労働時間が多く、家事など手伝う協力の時間が少ないのを改善して、夫婦2人で協同できる環境。		
2世代以上が近所で家を持ち職を得て生活できる社会。親子が独立後も近所に住んでいること。		
女性	子どもが育つのに社会が協力的で、温かい支援があること。	
	結婚できる環境と安心感が持てる社会。結婚に希望と夢が持てる社会。	
	企業や職場が出産、子育てをするのに休みが取れない。どんな職場でも安心して休みが取れるようにしてほしい。残業を減らしてほしい。	
	出産後も安心して職場復帰ができる社会。	
	昔は青年団活動などが多く出会える場があったが、かしこまらずに自然に男女が出会える場があると良いのでは。	
	子どもを出産しても、保育園などに安心して預けて働ける社会。	
	出産・子育て・家事は男性も女性も同じようにするものという意識がある社会。	
	周りに、既婚して子どもを育てながら幸せな家庭を築いていっている人達が多くいること。	
	ワークシェアリングが根付いた社会。	
	子どもが小さい頃は母が働かなくても生活が送れる社会。	
	婚活応援課等、市町単位でなく、県・市・町を超えた婚活の機会を設けてはどうか。	

年代	性別	内容
60代	男性	結婚適齢期の若い人が巡りあえる社会。
		雇用がしっかりしていて、生活が安定してすごせる社会。
		共働きでも子どもが育てやすいように、保育所などを充実してほしい。
		身近に気軽に相談できる年輩の人が沢山いる社会。
		子育ての環境がいろんな面で無料になった社会。
		子どもの時の教育が大事。子ども達が成長しても「結婚したい」「子どもを持ちたい」という願望を持ち続けられるような社会。
		子どもがいても安心して働ける社会。
		正社員としての採用並に、出産後も働くことのできる職場の充実。子どもは国の宝という意識を持って環境で育むことのできる地域の意識の高さのある社会。
	女性	めぐり合う場が非常に佐賀は少ない。若者達は福岡まで出て行って福岡の人と結婚しているケースも多い。婚活の場を市、県でもっともっと作ってほしい。
		家族をもつことの精神的な幸せや、子どもをのびのびと育てられる競争のない心の満足感を得られるような社会。
		企業が産休や育休を実施し、子どもを必ず保育園に入園できるようにしてほしい。
		今は子どもが少ないので自分たちが子ども時代のように子ども同士外で遊べる社会であってほしい。
		結婚しても仕事と家庭が両立できるよう、職場の理解が得られる環境が確立されている社会。
		若い人の働く職場が安定して、女性も働きながら安心して子育てができる社会。
70代以上	男性	子どもを3人ぐらい産んでも心配しなくて良い(子育て保障の充実)社会。
		共稼ぎしなくても主人の収入だけで生活できる生活給の保障、妻が子育てに専念できる社会(生活にゆとりと潤いのある社会)。
		子どもは国の宝だという意識が高まってほしい。
		子育てと会社勤めが両立できる環境作り。
		若者が結婚・出産して、満足して将来に希望が持てる社会をつくること。生活を支える賃金を得られる仕事や就職先が必要。
		若いカップルに出産や育児のための休暇や経済支援等をもっと配置すべきである。
		子どもを欲しいと思って不妊治療が必要な場合の助成が少ない。県単位では難しいかもしれないが、治療なのだから保険でできるようになれば少子化予防に繋がるかもしれない。
		向こう三軒両隣の社会。
	女性	農村では未婚男子が特に多い。県でも婚活に力を入れるべき。
		男女の出会いの場を作ってもらいたい。
		私の子ども時代6~8人の兄妹がいるのは普通でした。その頃のようにあまり競争のはげしくない社会。
		共働きしやすい職場環境。
		子どもができたら預ける所をもっとあってほしい。
		女性だけではなく、男性の子育ても支援してくれる社会。
70代以上	女性	出産・子育てのための休業補償の充実を。
		企業が少ないため結婚相手にめぐまれないので、県内に就職ができること。
		若者が働く場が多く給料がもう少し多いこと。

(2) 「安心して子育てができる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	子どもの医療費は無料が良い。夜間に働く人もいるのでその人達のための保育所も作ってほしい。
		仕事をしていても子どもを預けられる施設や環境が整備されている社会。
		性別・年齢を超えて住民が子どもの安全を見守る社会。
		低犯罪率やある程度の自然環境があること。
		子どもが多くても安心して育てられるようにするため、お金がかからないよう学校の道具なんか、おさがりでもいいような社会に。
	女性	障害児・病児・病後児を預けることができること。
		治安、交通量など安心して子どもが遊べる場所がある社会。
		入りたい時に保育園の利用ができる社会。保育料の減額を一律にすべき。
		子どもが病気の時などに安心して休める、働ける環境。
		母親が子どもと一緒に孤立せず、地域と良いコミュニケーションをとれる社会。 ひとり親への支援。
30代	男性	未成年者に対する保安や自然環境、子育て支援がしっかりしていること。
		0～6歳まで病気するのは分かっているので、医療費負担を0にする。
		企業が安定存続できて収入面も生活できる水準までが見通せる社会。
		困った時に支え合うご近所つきあいのような社会。
		会社や組織などが子育てに理解を持っている社会。
		0歳から預けられ、病児、病後児を預けられること。
		子ども向けの医療の充実と子ども達が遊べる場、そして同世代の家族が周りに居ること。
	女性	企業に保育所がある社会。
		学童保育や保育所の利用時間や、病児・病後児保育の充実をしてほしい。
		女性、男性共に子育て世代の人がゆとりを持って仕事ができること。休暇制度などが権利としてあるだけでなく実際に取りやすい職場環境づくり。社会全体で、子育てしているという意識がほしい。
		治安が良い社会。
		いざという時にまわりに頼れる人がいる、助けてくれる人や機関があること。
		働きながらも子どもを安心して預けられる場所があり、各家庭の収入が安定していること。
		他人の子どもにも目を向けることのできる心に余裕のある大人がたくさんいる社会。
		母親が働くか否かは本人の自由だが、基本的に夫の賃金のみで生活ができるように賃金を上げてほしい。母親が働くのは本当に大変です。子どもにもさみしい思いをさせます。
		急用や病気の時などの一時預かりのサービスはあるにはあるがサービスの質が不安。子どもを安心して預けられるか、安全かどうかと悩まないでよい社会。保育園の待機児童がいない社会。
		手続き、登録をしていないと子どもを預ける場所が利用できないため、普段は大丈夫でも緊急時に預ける場所がないので、緊急時に預ける場所があること。
		男性も、育児休暇を取れるようになり、2人で子どもを育てやすい環境が必要です。
子どもにかかる費用負担が大きいため補助の充実。医療費や学校費負担の軽減があれば子どもが数人持てると思う。		
40代	男性	核家族化が進んで顔みしりが少ない中で孤立して子育てをしている人が多いので、地域ぐるみで安心して子育てをするために、子育て相談や地域の高齢者との交流を増やして、内にこもらないようにして、自分の親だけでなくご近所交流を増やしていける社会。
		中学生までは携帯電話を規制する。
		金銭面で負担の少ない社会。
		父子家庭にも母子家庭と同様の扱いであってほしい。

年代	性別	内容
40代	男性	防犯がしっかりできており地域で子どもを守るといった体制ができている。
	女性	子どもの登下校時間に、地域の人達が見守ってほしい。散歩などをその時間に合わせたり。人の目があると子どもも安心するし、事件、事故にも対応できるから。
		子育てに関する助成は、お金の助成(親の収入別)ではなく、現物支援(学校で使うものや教育に関わる人や物の支援など)にして、全ての子どもに平等に支援する社会であってほしい。また、子育て世代は、小学生まででなく、中3までは手がかかります。就労の育児時短制度や残業免除などの制度が、中3までを対象にあれば良いと思います。
		土日に休みがとれて、男性も子どもとかかわれる子育てに参加してくれる社会。
		病気の子どものために仕事を休むことが当然だと受けとめられている社会。次世代を育ててもらっているという感謝と尊敬の念が母親に向けられる社会。
		母親だけでなく父親も育児休暇が取りやすい社会であってほしい。
		15歳以下の医療費を無料にしてほしい。お金がかかると病院にも行けない。
		ひとり親家庭での場合経済的に無理があり、それを支えてくれる安心して生活ができるような社会。
		核家族やひとり親家族が増えているので、気軽に相談できる窓口や場所があり、親も経済的精神的に充実した生活ができる社会。
		親が仕事等で大変な時に、ベビーシッター等、夜間でも子どもを安心して預けることができる施設があれば良いと思います。
仕事はどうしても休めない時に病気をしている子も安心して預けることができるなど仕事と両立できる社会。		
50代	男性	1歳半健診から3歳児健診までの間の言葉の遅れなどの発見が遅れてしまいます。幼稚園に入るまでに、子育て支援サークルなどが週1回ぐらいあればいい。
		家庭が役割分担し、1人が働き収入を得、1人が家庭を守り子育てに専念する社会。
		不条理な犯罪等が起こらない社会。
		子どもの教育費、医療費の負担が少ない社会。
		一世帯当たりの子どもが少なく、子どもに対する時間を必要以上にかけ過ぎるため、子どもが自立できないでいる。やっぱり一軒当たりの子どもを増やす社会を。
	女性	保育所や学童保育が充実している社会。企業や職場が子育てに協力的な社会。
		いつでも子育て相談などができ、家庭だけではなく、地域全体で子育てをするという気持ちの大人が沢山いる社会。
		障害児の5歳児健診の充実。入学後学校が、発達障害の子どもに対応に追われ学力向上にその人材を使えない。LD(学習障害)やHFPDD(高機能広汎性発達障害)に早期に気付くシステム作りをお願いしたい。
		シングルマザーでも経済的負担がもっと少なくなるような社会。
		いつでも気軽に子育てについて多方面にわたって相談できて解決してもらえる社会。
女性	どの企業でも育休産休が安心してとれる社会であってほしい。子どもができると退職とならないようお願いしたい。	
	幼稚園や保育園に対する保育料の無料化。	
	幼少の時は小児科を充実して、学生の頃は学校で安心して勉強ができること。	
	医療費も18歳までは無料にしてほしい。	
	世代間交流があり、みなさんが見守りやしつけをしてくれる社会。	
	子どもはみんなの宝物。家庭環境に縛られず、貧しくても受けたい教育が受けられるしくみや支援。	
	女性が仕事をして、子どもが病気をしたり、低年齢(小学6年)位の時まで、大人が見守ることができる(一緒にいられる)こと。	
犯罪が少なく、地域の人達が子どもの安全に気をつけてくれる社会。		
自由な時間に働ける場所が少ないので、子どもを産んでも安心して預けられる場所等が多くあるといい社会だと思う。		

年代	性別	内容
60代	男性	人口増にある程度目安がたつまでは、保育から小、中、高までは公私立問わず、全て無料にして、この政策は全てに優先させる。
		子どもが急に病気になった時、休みを取るのが当然のことと、各世代が認識している社会。
		男性、女性にかかわらず産休がとれる社会。子どもの医療費の無料化。
		子どもを保育所等に預けて、親が安心して仕事ができる社会。
		地域参加が下手な人が公共の場を利用しやすいようにもっと窓口を広げ、相談場所を身近に設置する社会。
		地域の大人が、子どもが悪いことをすれば、わが子のように叱ったりして見守る社会。
		両親が揃っていて、1人は家を守れるような環境であれば安心して仕事もできるし子育ての時間も十分とれる。
		治安が良く、子ども達のみで近くに遊べる場所があること。また、24時間対応できる病院が近くにあること。
	女性	生まれ育った地域で家族の支援が受けられる社会。
		安価で安心して子どもを預けられる場があること。
		子どもの医療費が無料であってほしい。医療施設が充実していること。
		職場が育児に理解を示し、休暇を取りやすかったり、時短勤務ができる環境があること。
		共働きで働く場合、仕事場や商工団地の中に児童クラブや保育所がついているような社会。
		高校までを義務教育にし授業料の無料化。
		今は結婚しても親とは同居せず核家族になっているのでなるべく同居がいい。
		子どもにとって母親は必要不可欠なものである。「3つ子の魂百まで」と昔いわれたように乳幼児期こそお母さんは一番。一番必要な時のお母さんまで社会に取られない社会にしてほしい。
皆で子ども達を見守っていく地域社会。企業誘致等により、安定した収入がある社会。		
70代以上	男性	子育て支援センター等に出掛けてママ友を作れる人は良いが、家から出られず子育てに悩む人のためにもっと保健師を増員したり、保育の経験のある人へサポートを頼んだりしてほしい。
		核家族の減少(親を使う)社会。
		気軽に子どもを預けられる保育園や幼稚園がある社会。
		子育て後の職場の確保。
	女性	結婚したら責任があり母親になるのだから、頑張るだけではなく、相談できる良き隣人、良き先輩と共にある社会。
		次世代に対する施策が優先する社会。少子化対策をあらゆる側面から見直す。
		親が経済的理由から働きに出ざるをえないのが実態。子育てにかかわれる余裕を持てる社会に。
		小中校では学校行事が各学期ごとにあり、勤める両親としてなかなか行けないこともあるため、企業なども小中高の親にゆとりの時間を自由に取れるようにしていただきたい。
女性	他人が悪いことをした子どもに注意したことに対し、その子の親が感謝する雰囲気になった社会。	
	低年齢児や障害時、病児・病後児を安心して預けられる場所がある。	

(3) 「高齢者や障害者などだれもが地域で生活しやすい社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	自動車と歩行者、自転車のエリアがきちんと分かれている社会。
		いろいろ働く場所は作られていると思いますが、実際働くことができない障害者の方は沢山いると思います。もっとそのような施設に行ってみてほしい。その人その人に合った仕事を一緒に探してほしいと思います。
		高齢や障害に偏見を持たず、共存できる地域社会。
		病院や福祉施設の充実。近隣にスーパーなどあれば尚良し。

年代	性別	内容
20代	女性	デイケアがあると安心して生活しやすくなる。
		高齢者や障害者の足となる公共交通機関の手段の便を増やし、外出の機会を増やす。また、高齢者などの立ち寄りやすいお店が多い社会。
		ユニバーサルデザインなどが普及している社会。
		高齢者、障害者の方でも仕事ができる状態にある方は結構いらっしゃると思います。活躍できる場を作してほしい。
		どんな方でも活動しやすく、コミュニケーションがとりやすい社会。
		一人ひとりが地域の一員として参加見守りのある社会。
30代	男性	高齢者や障害者の持ち味を引き出せるように地域住民と一緒に支え合う社会。障害者だからと枠におさめようとするのは良くない。
		高齢者や障害者の雇用が充実し、医療、補助の面でも安心できる社会。
		地域の見守り等など、今までであれば子どもの親がやっていたことを高齢者にやらせている。あまり過剰に高齢者に頼ってもいけないと思う。
		義務教育の過程で介護や障害者等の授業を取り入れ学ばせることも大切だと思う。
		公共交通の充実。障害者割引の事業者の増加。
	女性	民生委員が高齢者に対してもっと接する機会を多くすればよいと思う。
		高齢者や障害者の特性を個性とみなせる社会。
		障害者の就職の支援・介護支援などいつでも相談できる場所があること。
		一人暮らしのお年寄りの方などを近所の方が温かく見守り支えていけるような社会。
		県民全員が困っている人に優しくできる社会。
40代	男性	バスや電車等の公共機関が充実していて、お年寄りや体が不自由な方でも利用できるトイレや階段(エレベーター等)が一般的に普及している社会。
		医療、行政、民間が連絡しあえる社会。例えば役場に行ったら相談にのってくれ、そこでいろんな情報がわかればよいと思う。また、将来的にケアマンションが増えてきてほしい。
		高齢者、障害者の方たちが、それぞれできることを見つけてそれを活かせる場を作っていくと、生活しやすくなると思う。
	女性	障害者を変な目でみない社会。
		高齢者、障害者を弱者と見なして、手厚く保護しなければという発想ではなく、どうしたら彼らが活躍できるようになるのかという視点でやってほしいと思います。
		介護者の負担軽減。
		高齢者と障害者が近所で集える場所があったらいい。公民館を開放するなど、人とのコミュニケーションをとれるように。
		必要な時に、すぐにサポートしてもらえ環境があり、差別のない社会。
		高齢になることは誰でもイメージできると思うけど、障害を理解することは、やはりなつた者しかわからない所はあると思う。大きく理念を言うとその壁をなくすことだと思います。
		もっと介護保険など使いやすい基準にしてほしい。
高齢者が年金の範囲内で生活できる施設が増加すると良い。		
PRが足りない。真に手助けを要する人の元へ制度が行き届いているか疑問。行政はどうあるべきか考える必要あり。		
高齢者や障害のある方が自分のことをして、社会の役に立っていると実感を持ち自信を持つ場所がある社会。		
一人暮らしの高齢者や障害者への心配り。		
無料で楽しめる企画、イベントが少ない。平日にあればいい。		
高齢者の方、障害者の方がタクシーを利用しないで病院、スーパーに行けるような社会。		
地域ぐるみで互いを支え合えること(若いも関係なく)。		

年代	性別	内容
50代	男性	核家族化が進みすぎている。同居世帯に対し何らかの優遇策を。
		憩の広場など、気軽に地域の人々が集える場所などがある社会。
		高齢者や障害者の方に、もっと仕事や地域に根付いた役割を与えて活動をしてもらうことを考えて下さい。
		障害者の方々に逆に元気をもらうことがあります。ユニバーサルデザインが普及して社会参加がしやすい環境だと思います。
		健常者と障害者との交流ができる環境整備が必要である。
		相談窓口はあると思うが、それを知らない人が多いと思うので情報提供が必要だと思う。
		地域住民の横のネットワーク化がされている。
		高齢者用福祉施設の充実が図られた地域社会。
		弱者に対する配慮や優しさのある社会。
	女性	高齢者や障害者の方達が「お役に立っている。」という充足感を味わえるような仕事やお手伝いの”場”がある社会。
		近くに子どもも住んでいない一人で暮らすお年寄りが、老後を楽しく安心して暮らせる社会。
		生活していくうえで不自由がないよう病院や買い物に行く場合の手段を整える。
		本人の手続きがあつてのみ受けられる支援が多いので、公的機関の援助がもれなく行なわれる社会。
		地域での高齢者の集う会等を月一回でも設けてほしいですね。なかなか他の人と会う機会がない。家族だけでは手に負えない。
		高齢者・障害者を支える側への配慮、情報等があればいいですね。
		介護施設や在宅支援サービスなどが充実している社会。
		民生委員をもっと増やして高齢者への在宅訪問を増やしてほしい。
		高齢者や障害者も普通の人(いろいろな人の一人)という考えが小さい頃から培われ、普通になっている社会環境。
60代	男性	高齢者や障害者が行事等への参加を行い、地域との交流がある社会。
		老人クラブの充実。
		高齢者や障害者が気やすく出向ける設備を整備された施設が多く見られる社会。
		今後高齢者が多くなるので、健康のために何でも良いのでボランティア活動を増やすと良いと思う。
		高齢者や障害者がスポーツなどをしようと思うとお金が必要となる。低金額で利用できる施設等がたくさんある社会。
		低所得者への県営の介護老人ホーム等。
	女性	高齢者、障害者雇用の促進。
		地域の活用で昔は隣同志で助け合っていたけど、今は子ども達も都会に出ていないため、お年寄りは1人家の中でじっとして情報が分からないようになっている。民生委員さんなどもっと活動していただきたい。
		誰もが年齢を重ね高齢になるとどこかしら(体や心)不自由になるものです。相手を思いやる心をもって接することができる社会。
		地域又は近所の人々が声をかけたり見たりしてあげる環境ができればと思います。

年代	性別	内容
60代	女性	今はあまりにも老人施設が多いので施設に預けるのが当然のようにになっている。三世代同居ができれば良いと思う。
		定年後に安定した生活が送れるようにしてほしい。
		高齢者とか障害者は長時間の拘束が無理なので、午前中に3時間とか午後に3時間とか働ける場であったり、急に休んだり、失敗をとがめないという環境の職場が近くにあれば望ましい。
		人と話すことは大事。1日1回出かけて昼食を食べる場所(デイサービスみたいな)が町内に1つほしい。
		弱者である障害者が偏見や疎外感なく平穏に暮らしているような道路状況やバリアフリーが整っていること。また、高齢者が十分なケアやサービスが受けられる社会。
		障害者、健常者がへだてなく自由に集える所が随所にあり、地域の中で共に生活できる社会。
		高齢の方が入る施設の料金が高いので、もっと国や県、市等が金額面を補助していけば良いと思う。
70代以上	男性	自家用車がなくても高齢者が安心して生活できるような環境整備。
		一人ひとりが不自由な人や障害者などに気を配り、手をかすことができる社会に。
		身体・精神障害者が自立して生活できるように、仕事場と生活場所をつくること。
		介護保険の非該当者、軽度支援者のための制度を充実させるべき。
		高齢者や障害者などが自由に行き、相談や生活を楽しめる場所を行政で考えてほしい。
	程よい距離を保つべきである。行事等の積極的参加を呼びかけられても行きたくもないのに無理強いすべきではない。	
	女性	タクシーの半額以下位で自宅まで送り迎えしてくれる乗り合いタクシーがあつたらいいなと思います。
		障害者に対して障害者の心情や立場で接する、やさしさ溢れる社会。
		障害者が地域にもっととけこむ社会であってほしい。
		障害をかかえた人も役割を持ち、社会と共存する社会(職種を増やす)。
相手のことを理解しようとする社会であってほしい。		

(4) 「健康的な生活が送れる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	定期的に健康診断を気軽に受けられ、なるべく料金が安いこと。
		健康に対する不安や疑問を気軽に相談できる専門家がいること。
		地域でのクラブや活動の場に進んで参加できたり、体育施設が整備されている社会。
		県民が健康を維持できるように、健康についてのセミナーや、体を動かせるイベントが多い社会。
	女性	がん検診だけでなく、年に1度の無料定期検診を実施する。職場での検診はなく、病院で受けるには費用が高すぎる。
		地域で規則正しい生活をするよう呼びかける。
		若い人達が感染症、がん予防の情報を知る場は少ない。今の50~60代の人と同じ位、関心を持って家族皆で健康に気をつけることができる社会。
		若い時からできる運動してねたきりにならないようなことなど指導してほしい。
30代	男性	学校や家庭での教育が大切。手料理や手作り弁当などの習慣があれば、食については健康的に考えられるようになると思う。
		介護予防教室やがん検診等がどこで行われているのか情報が少ない。色々な情報を共有できる社会。
		週40時間の労働が守られてる社会。佐賀県内は禁煙にする。
	女性	生きがいを持ち、一人ひとりが居場所のある社会。
		体、精神的なことなど色々と相談する場所が増えることで、病気や自殺を未然に防ぐことができる社会。

年代	性別	内 容
30代	女性	女性のガンは若年齢化している。30代後半でマンモグラフィーなど低価格でうけることができれば良い。
		食の大切さを訴えるようなメディア、学校給食などが手本となるようにするなど、社会全体で食の大切さを進めていく取組みと意識改革が必要。
		定期的な健康診断があることや、スポーツができる公共設備(施設)の充実。
		生活習慣病などの知識がないために、防げる病気も自分で予防できない。そうならないために、職場などで病気について知る機会を増やすべきだと思う。
40代	男性	健康に対する知識が普及している社会。
		将来に向けて準備していない者が多い「アリとキリギリス」状態。自分の健康は自分で管理することを教育し、実行すること。
		運動施設が一部地域に偏っているので、町区レベルで利用できる施設が欲しい。
		子どもがきちんと毎日朝食を食べ、心も体も安定した生活が送れること。
		スポーツをする機会の確保。忙しすぎ。積極的なスポーツ休養。
	人件費を単なる無駄だとは考えず、仕事量に応じて、適正な人数の労働者を雇用する社会。	
	女性	高齢者宅、障害児宅、小さい子ども宅に栄養士や保健師が訪問し、病気の予防や栄養指導を積極的に行ってほしい。
		子どものうちから生活習慣病にならない食生活や運動方法を学んで、ストレスの対処法を知る。精神的にも健康でいられる社会。
		薬のない社会。薬を飲むことで病気がまた他の病気を作りだしている。医者より、生活アドバイザー的な職業が必要では。
		健康増進のための施設の充実。プール・ジムなど簡単に安価で使える社会。
ワークライフバランスのとれた社会。		
健診や人間ドックなど個人で受診した時の料金を安くしてほしい。また、個人の健康に対する考え方の意識を高めなければいけないと思う。		
難病患者が安心して治療できる環境(治療費援助や精神面の相談等の支援)。		
乳がん等検診の無料チケットが病院が地域で指定されて、病院が選択できない。住んでいる地域で差がないようにしてほしい。		
不安や悩みを相談することができる社会。		
50代	男性	地域住民が気軽にスポーツを楽しめる環境設備。
		働いている人だけでなく、専業主婦、パート、無職であったりしても健診を無料に近い料金で受けることができ、早期発見できること。心の病、自殺も含めて相談できる社会。
		がん、生活習慣病を予防する方法の冊子(保存版)が欲しい。食事(食習慣)は子どもも受け継ぐので、若い人が見直すべき。食習慣の情報が知りたいです。
		自らが目的をもって畑仕事などを実践することが健康に良い。
		まず第一に食生活。添加物の害など市民の側についた情報を得られるようなシステムにする。
	女性	健康診断がもっと安く受診できるようになり、早目に重病発見ができるような社会。
		生活習慣病を自らなおす風習を作る。お金をかけて治療する前に、家庭の基盤をしっかり作り、食生活をしっかりしていくのがいいと思う。
		自殺者を減らすゲートキーパーを養成する。例えば、相談員を養成する講座も有料だし、積極的に取り組もうとする姿勢はまず感じられない。
		会社員ですが職場での検診がないので健康かどうかわからない。小さな会社でも強制して全員受けさせるようにして下さい。
		週1回地域でバレーボールなどのクラブ活動があっっていて運動できること。
県総合グラウンドのような、ウォーキングができるような施設が各地にあれば、危険な道路(山間部等)を歩かなくて済むので、近場があれば足が向くかもと思う。		

年代	性別	内容
50代	女性	年齢問わず食事と生活習慣は健康と直結しているので、定期的に指導を受ける機会をシステム的に作るべきである。
		便利になり過ぎて身体機能を使い損ねています。若いうちから学校や企業等でスポーツや栄養指導を推進するにすれば少しずつ要介護者の減少につながるのではないかと思います。
		仕事があつて適度な運動をし、休養も十分に取れる生活が送れる社会。
60代	男性	グループでの交流や、軽い運動のできる楽しみ場がある。
		体の健康も大事ですが心配事悩み事の相談する場が少ない。相談しても噂を流される等の相談員への不信感があるので、守秘義務の徹底を望みます。
	女性	健康と言えば食生活からだと思う。佐賀県だけでも県産の野菜を多くとるよう推進する。野菜を作る畑を多くの人に貸し出してもらいたい。
		子どもの時からしっかりと食育教育をやって健康の大切さを教えること。日々の食事が健康的な身体を作ると思っています。
		難病患者の家族が一人で悩まないで、手助けできる人々がいる社会。
		スポーツレクリエーション旅行など、近所付き合いや友人などとの交流がある社会。
		地域だけではなく、職場でも定期健診の推進を考えるべきと思う。
		栄養がバランスよく取れていないので地域で高齢者向けの料理教室等サポートがほしい。
お金がかかる所は限界があり続かない。買い物に行く範囲にちょっと運動回数券を使えるような曜日、時間にとらわれない場所があれば良い。		
70代以上	男性	スポーツ行事などに多くの人々が参加している社会。
		がんになった場合、誰に相談したらいいのかわからないので、質問などに答えてくれる施設があるといいと思います。
		24時間営業なんて必要ない。早く寝ること。
		健康福祉に力を入れ、要介護にならない運動指導をお願いしたい。
		定期的に健康診断を受け、日常的に軽スポーツが容易に行える生活環境。
		自分の体は自分で管理する。例①食事の管理②体のケア(毎日継続して運動を行う)
	女性	毎日の食生活に心配りをし、常に健康チェックをする。
		ガン治療後、同病者の会があれば励まし合って治療ができるのではないかと思います。
		無料検診などが実施されている社会。
		高齢者にもわかりやすい説明を各集会所でもしてもらい、安心して健康的な生活の知識が得られる場所を増やしてもらおうこと。
		子宮がん、乳がん検診が毎年受けられるようにしてほしい。認知症の早期発見及び対処法の指導。
		カラオケ、サロン、その他皆さんと集まって色々話をしたりすることが大変良いと思います。

(5) 「安心して医療を受けることができる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	体調が悪い時、どこの病院も受け入れをしてくれ、医療費の心配などしないで治療ができるようになればいいと思います。
		医療事故や新生児の取り違えが起きない社会。
	女性	夜中でも受診できる病院があること。子どもに関しては、22時以降受診できる場所を知らないのでは、多少不安。
		医者の情報について、治療を受けた人達の意見が聞ける社会。
		信頼できる医者が多く、満足できる治療をしてもらえる社会。
		医療費に負担のない社会。

年代	性別	内容		
30代	男性	医療費が上がっている。医者も薬だけ渡して医療と語る。医療費の見直しや医師・看護師のマンパワー不足の解消を。		
		子どもの医療費が無料である社会。		
		健康保険制度の充実、安定性が約束される社会。		
		信頼できる医者がある社会。		
	女性	他県のように高校生まで、医療費補助があったら嬉しい。		
		医者のスキルにバラツキが無い社会。医療事故死が無い社会。		
		救急要請した時にすぐ救急車が来てくれ、救急搬送してもらえる社会。		
		地域にクリニックなどの病院もありながら総合病院もある社会。		
		無料で医療が受けられる社会。実際、海外ではその制度がある。		
		日曜、祝日、夜間でも診察してもらえる社会。		
		複数の病院に通院していても何かあった時すぐに診断状況が分かる社会。		
		体調が悪い時に、どの診療科を受診すればよいか、どの病院に行けばよいか迷うことが多い。インターネットの情報も主要な医療機関以外はあまり詳しく書かれていないので、もっと整備してほしい。		
		高齢になった時に安心して通院できる社会。		
		40代	男性	産婦人科が少ない。医療費のことを考えて、お金がないから病院にいかないような人が多いので、一部立替や貸付など医療費負担について考えてほしい。
国民健康保険制度の安定した社会。				
医師の待遇改善。				
地域で医療を安心して受ける体制ができている。必要な診療科目の病院が地域でそろっている。				
女性	ここしかないから仕方なくではなくて、病院を患者が選ぶことができる環境。			
	夕方以降に診療が受けられる医療機関が増えると、子育て世代、介護世代も働きながら、家族の受診や自分の治療が受けられる。			
	医療費を心配しなくてもよい社会。			
	症状が出た時に、どこに行けば(専門科とか病院等)良いか教えてもらえ、つなげてもらえる総合窓口があると嬉しい。			
	医師不足の解消。県内は大型病院も少なく特に脳を診る所は少ない気がするので大型病院は大切だと思う。			
	医療においては都心部との不公平感があることは問題です。財源のかかる分野ではありますが、近県(九州とか)ぐるみでメディカルステーション化などできればいい。			
	医師と適切なコミュニケーションがとれ、不必要だと思われる治療については拒否することも可能な社会。			
	地域格差があるのではないかな。田舎でも安心して医療を提供してほしい。			
	50代		男性	安心して受けられる医療機関がある社会。
				地域の中核病院となっても医療技術や設備が全国と比べて低い。また、救急の受け入れを拒否しないなど、救急時の対応を向上させる。
市街地に医療機関が集中し、郡部は車がないと利用に不便。高齢者になると免許返納で更に不便になるので訪問医療が必要。				
どんな地域でも、いろんな医療が受けられる医療環境が整備された地域社会。				
必要な治療を受けたくても高額で治療できないで困る。低額でも受けれるようになれば良いと思う。				

年代	性別	内容
50代	女性	社会保障で支えてもらえること。個人負担が高いとなかなか病院にもかかりづらい。
		自分の身や家族に何かあった時、安心できるかかりつけの病院や医師がいること。
		高齢者が不安なく医療機関に通院でき(交通手段等)、安全な薬、治療を費用の心配なく受けられる社会。
		住んでる所の近くに病院があること。内科外科すべて何でも受け入れる総合病院があること。急を要している人を優先すること。
		医療機関が選択できる程あること。レベルの高い医療を地元でも受けられること。
		本当に信頼できる医師スタッフがいる病院ばかりの社会。
		高齢者医療制度をよくする社会。
60代	男性	住んでいる地域に医療を受ける場がないのは大変。診療科目の充実が望ましい。
		高度医療が保険の範囲で受けられることができる制度。
		高度な医療技術、体制を整える。
		国民健康保険制度が十分に活用できる社会。
		自分のかかりつけの医院があること。また、夜間など緊急な場合の受け入れ先があること。
		各人が安心して低廉な料金で受診できる体制づくり。個人病院を集約して総合病院にすることが必要。
		医療機関において診療を受けた際、費用がどれくらいかかるか教えてくれないので、事前にどれくらいかかるか指導してほしい。
	専門医師の地域への常駐化。	
	女性	患者のことを良く知り、薬を増やすのではなくその前に患者にできること、たとえば、食事のとり方やカロリーの制限が必要とかそのようなアドバイスが聞けること。
		往診してくれる所が少なく、高齢化社会の現在、往診システムの推進をしてほしい。
		いなくなると住んでいると高い水準の医療が受けにくく不安なので、都会のように大学病院が多くあればと思います。
		患者の不安や疑問に誠実に答えてくれる医師が増えることと、命を守ってくれる医師をサポートのできる体制がある社会。
		身近なところに安心できる病院があるということ。
		所得別の負担にしてほしい。必要な受診、与薬治療を制限し、医療費の見直しをしてほしい。
夜中でもいつでも必要時に受診ができる社会。		
70代以上	男性	各地域毎にそれぞれ専門医の配置。
		紹介状なしで高度な医療が手遅れなく安価で受けられる社会。
		公立病院の医療の充実。
		信用できる医療施設が近辺にあること。
		少し体調が悪くても病院は仕事を休まないで受診できない。せめて18時～18時半まで受診できる病院があればと思う。
		個人宅に往診してくれるかかりつけ医を増やし、安心して暮らせる社会。
		大学病院での診察を受ける時の紹介状はもっと簡潔な方法で気軽に書いてもらえるようにしてほしいし、費用も高すぎる。
	医療費のことを心配しないで済むことだと思います。	
	女性	移動手段のない高齢者のために訪問診療などのサービスを考えた社会。
		小さな診療所を多くし、入院が必要な時は入院専門の病院に送るようにすれば、正しい良い医療が受けられると思う。
		年金生活で医療を受けることのできる社会。
		自分のかかりつけの病院を持って先生と気楽に話し合える社会。

(6) 「福祉・保健・医療」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容	
20代	男性	高齢化が進むので若い人の協力が必要になります。医療に関係する仕事の人口が増えるように受け入れもしっかりしてもらいたいです。	
		必要な医療はすべて無料になれば良い。	
		訪問リハビリを充実してほしい。	
		日本は健康保険制度があり助かりますが、なるべく病気にかからないように自分で健康管理をすることが大事。低所得者は医療費を軽くしてあげたい。子どもは病院代がかからない時代になってきたので良かった。	
20代	女性	医療が発達すぎて高齢者は増えていくが、それを見れる者が少ない。	
		全ての地域において、子どもや老人を受け入れてくれる医療環境が整っていれば、安心して子どもを産むこともできると思います。	
30代	男性	福祉、保健、医療で莫大なお金を使っている。国の借金も半端じゃなくその負担は今の若者、子ども達に影響が来る。根底から一度見直してほしい。	
		どの分野においても、専門職員の育成や接遇面を向上させないと、施設や医療機関の運営が厳しくなり、対象者(利用者)も行き場を失う。	
		医療費の負担が大きすぎる。	
		2025年には団塊の世代が75歳以上になり、医療介護の役割が大切になると思います。少子化の問題もありますのでよろしくをお願いします。	
		病院は薬の出し過ぎが多すぎる。	
	緊急(救急)医療機関を増やしてほしい。		
	30代	女性	婦人科等女性医師で、休日でも対応している個人病院等があれば働く女性は検診を更に受けやすい。
			中・高等学校で、授業の中に介護・看護の基本的な部分だけでも取り入れてみてはどうか。
			子どものインフルエンザ等の任意の予防注射を、高齢者と同じ値段でうけることができしてほしいです。何人も子どもがいて2回しないといけないので負担が大きいです。
			仕事が忙しいのかもしれませんが、医療にかかった際、医療関係者の対応について疑問に思う時があるのでそこを改善してほしい。
医療機関を受診して最近思うのは、高齢者の方が多く、病院の中で楽しそうに世間話をしている方が多い。本当に時間がなくて、出勤時間を遅らせて行っているのに、そのために待ち時間が長くて困ります。診療時間を分けたり、何か対策をお願いします。			
出産・育児の助成や高齢者・障害者の活用など、地域全体を輪でつつむようなサポートが必要です。産婦人科や小児科が減っているので、増やすような取組みが必要。田舎では病院の減少により高齢になって行く病院がなく、病気が悪化して死亡するなどある。もっと県が力を入れることがたくさんある。			
40代	男性	福祉・保健・医療全てに関し、もっと細やかな情報を早めに知らせてほしい。	
		必要以上に薬をもらうイメージがあります。個人経営の病院に傾向が多いと思います。	
		将来の健康保険制度に不安がある。	
		駅前に病院を作るといった、医療をコアとしたまちづくりをすべきだと思う。	
	40代	女性	結婚・出産に対して佐賀の男性と高齢者は理解が少ないので、もっと研修やイベントなど啓発活動をしてほしい。
			障害者など社会的弱者に対する理解が社会全般で進んでいない。
			乳幼児や子どもの医療費が佐賀は高いので子育てしにくいと思います。
			違法な生活保護者を摘発して処罰してほしい。正直者が馬鹿を見る社会ではだめだと思う。
			これからどんどん高齢化がすすむ。もっと、「医療費のかからない健全な社会」とはどんな社会か考えるべき。対処療法では限界があります。
			救急車等のたらい回し等がなく、すぐ受け入れてくれる病院や高齢者施設の整備。

年代	性別	内容
40代	女性	健康保険の負担が増加しているの、県民のがん検診等の利用を促進する政策を考えてほしい。
		小学生の医療費は窓口で3割支払いですが、月ごとに市役所に補助金申請して後月に振り込まれるのは面倒。500円支払いで、市役所が病院へ支払ってくれれば助かる。
		働きながら病気の治療をしたり、介護しながら仕事も両立できる仕組みと、それぞれの職場への理解を深め実践につなげる取組みが必要。いくら大切だとわかっている、協力的でないと家族や自分の健康を犠牲にしてしまう。
		特に高齢者の方で、必要以上の検査をしたり、薬をもらっている人がいる。無駄な医療費を抑えて、これ以上健康保険料の値上げをしなくていいようにしてほしい。健康維持のために努力している人と、何も努力をしない人との差別化も必要なのではとも思う。
50代	男性	病院代や薬代などが高すぎる。
		介護認定があいまいではないかと思う。
		老後用施設を充実し、安価で利用できる機関にしてほしい。また、地域医療の充実を図ってほしい。
50代	女性	小中高の子ども医療費の補助がもう少し充実してほしい。
		乱立している小規模多機能所やグループホーム、宅老所の質の担保はどうなっているのでしょうか。例えば看護師常時1名滞在などが必要。床ずれにシップを貼付、食事はレトルト多し、坐薬の使い方がわからない、病院へ受診のタイミングなどなど、これでは在宅へという厚労省の政策も意味不明。
		市内中心部に住んでいない者たちの損な部分が「福祉・保健・医療」かなと。年をとるたびに、不安が多くなる部分です。環境には感謝していますが、田舎のつらいところ。
		自分が高齢者になった頃の福祉・保健・医療はどうなっているか不安です。
		高齢者の多い佐賀県、もっと安心して生活できれば。福祉の面で、4月オープン聴覚障害者サポートセンターは、街中すぎて行きにくい。車社会の佐賀ではちょっと失敗だったようですね。場所は郊外がよかったのでは。
		病院にかかる費用が高く通院できない。
		低料金で、幼児が遊べる所をもっと増やしてほしい。
		健康に生活している人は健康ポイントで医療を受けることができるという特典を作ることで、病気にならない人を増やす。
		介護分野では、要支援～自立だと受けられない、要介護だと受けられるが利用料が高い、という傾向。リハビリは使える身体の機能を長持ちさせるために介護保険を使って受けられるとか、高齢認知症予防に高齢者同士がカルチャーを楽しみながら喋り合う場があったら良いのにとおもいます。高齢者で障害者の場合、医療費助成を受けている人で「医療費はかからない、タダだから病院行かないと損」と間違った考えを持つ高齢者もいらっしゃるようです。自己負担はあってもほとんど助成するというのはどうなのかと思うことがあります。
		夜間急な病気、けががだったりしても診てもらえる場所に行くまで時間が掛かり、不安になる時がある。
		健康で長生きできるような取組みをもっと推進してほしい。65歳以上もパートが行えるなど、心の健康面での働くことの意義を伝える。食生活改善推進協議会の方が定期的に地域で料理教室を開催するなどしてほしい。単発で終わっているのが残念です。予算化があればよいと思います。
		今のところ、いろんな面で安心と思います。提案は一つ、小さい子どもたちを預かる人や場所を作ってあげて下さい。
		年老いて一人になった時、楽に暮らせるように考えてほしい。また心身共に健康な老人は介護保険を納めても恩恵がないので、一年に一回でも健康御祝金のようなものをあげても良いのではないかと思います。
		高齢者は運転できなくなって、側に頼れる者もない時に身動きとれない状態になるが、そういった時の支援がないので困る。
ひとり親家族で子どもが成人すると医療の請求ができなくなるのはおかしい。本当に医療を払うために働かざるをえない人(ひとり親)がかなりいます。		
医者も看護師も少ないので、余裕がなく働いておられると思う。		
将来年金が少ないと思うので、老後どのような暮らしができるか心配。一人暮らしができるだけの年金が欲しい。施設に入れたら幸せな方だと思う。年金の少ない人もどこの施設でも利用できるようにしてほしい。		

年代	性別	内容
60代	男性	高度先進医療を受けたい時に金がないのが不安。保険に入るにも余裕がない。若年時に保険の説明を十分受ける必要がある。
		老人ホームの充実。
		68歳になって、病院は行かず薬も飲んでいないので、保険料の額が同じことに疑問がある。
		老人ホーム等を視察することがあったが、入所者のわがままが多いと思う。職員が腹を立てるのも無理ないと思うことがあった。
		福祉、保健、医療の県の施設等もっと県民にPRしてほしい。
		看護師の不足が言われています。もっと働く条件をよくしてあらゆる面で医療分野を充実してほしい。
		田舎に住んでいる高齢者や障害の方で、老々介護や独居老人となる方や、近くに公共交通機関もなく当然車にも乗れない方が今からどんどん増えていくと思われます。今後の対策を懸念するものです。
		病気や医師の信頼性に不安がある。
	女性	安心して医療を受けられる環境についてですが、都会に比べたら満足いかない点があると思うけど地域の中では特別に不満はない。体の健康はまず自分自身の自己管理からだと思っている。
		若者より高齢者が多くなってる昨今、体力の減少、成人病の増加をくい止める手だてとして、スイミング(プール内の歩行など)が健康回復をしやすいと考えます。とり立ててスポーツを習慣にしていない高齢者には、水中での浮力が足腰に負担をかけず、また、室内であればPM2.5や黄砂などの空気汚染から守られ、全身運動ができると思います。使用料も町立、市立で安価で利用できればなお良い。
		道路についてですが、車いすで行く場合道路がななめになっていて非常に動かしにくい。
		新しい医療機関ではほとんどが紹介状がないと受診できにくくなり、近くでの受診ができにくい。もう少し融通すべき。
		医薬会社との関係や医療システム等の都合で、予防的に薬を出されることが多いと感じる。
		国民健康保険料が高いと思う。
70代以上	男性	現在の医療制度がTPPによりどのように変わるのか不安。
		個人病院よりも総合病院があればいいと思います。
		今の日本は本当に私たちの子どもの頃と比べると豊かに贅沢になっている。それに気づいていない。それも老人の方に多い。感謝する心をもってほしい。
		不必要な延命治療の見直しをしてほしい。
		医者と医術の向上。
		紹介状なしで大病院に行った時の別料金が高すぎる。
		身近に手軽で楽しく健康作りができる場所やインストラクターを増やしてほしいと思います。
		福祉のためにもっとお金を使ってほしい。
70代以上	女性	一人住まいの家や、病人のいる家庭には非常用の電話の設置をもっと普及させてほしい。
		少子化対策のため、人工中絶の禁止、赤ちゃんポストの拡充、高齢出産の危険を中学女子に徹底的に教育すること。
		核家族という風潮を減らし、色々な面で二世帯同居を進めた方が良くと思いました。
		孫の世代まで安心して福祉、保健、医療を受けられるような社会を願いたい。
		健康保険料が高すぎます。
		何事も個人、家庭の努力が必要だと思う。頼りすぎはだめ。
		病院から追い出し、必要以上に在宅介護を目指している。老老介護が生じないような施策を望む。
		子どもの少子化補助、支援にばかり目が行き過ぎている。高齢者はこれまでの人生で長年負担をしてきているのに、老後になってまで負担を要求されるという仕組みは断じて許されない。高齢者をいじめすぎ。子どもを過大に保護しようとしている。

年代	性別	内容
70代 以上	女性	今は医療制度が整っているし、自分自身不自由な点はない。
		低料金で利用できる老人ホームの整備。
		治らない病気は何年も治療しないようにする。医療費が増えるだけ。
		処方薬が多すぎるように思う。
		救急病院の夜間の診察の場合に、専門の先生がおられない。
		年金生活の私には医療費が高いと思います。

2. 「教育・文化・スポーツ」分野

(1) 「子ども一人ひとりにとって望ましい教育環境」とは

年代	性別	内容
20代	男性	学びたいと思った者がその分だけ学ぶことのできる状態。またそれ以外の者にも最低限の知識や常識を教えられる。
		もう少し底上げの勉強をやってほしい。モンスターの親も増えていますが、先生にまかせてばかりじゃなく家庭でもしっかり教育してほしい。
		不登校の学生でも勉強のサポートや相談を受けてもらうことができる施設が増えるといいと思う。自分もそのような施設を利用して、大学進学までできた。
	女性	一人ひとりを見る大人がそばにいること。
		生徒数に対する先生の人数。より深く生徒と関わるためにも先生の人数は多めに必要だと思う。
		いじめとかがなく、子どもたちがみんな仲良く楽しく勉強できること。
		外での環境も大事だが、家庭環境がやはり一番重要だと思う。
		あまり大人数のクラスでひとまとめにするのではなく、適度な人数での行き届いた指導が受けられると良いと思います。学校と親の連携も必要。
		正しい正しくないことより、常識に個性をプラスした教育ができていく環境。社会に出て役立つ個人が育っている教育。
		目標(夢)を持って生活できる環境、過保護すぎない(家族愛)。
	一人ひとりがのびのびと学校生活が送れること。生徒・教員・親同士が信頼しあっている。	
	30代	男性
家庭環境と学校教育において連携が各々確実にとれる環境。		
モンスターペアレントに毅然とした対応が取れる教育環境。		
信頼できる大人に囲まれて生活できる環境。		
女性		不況により子どもが苦しめられていることがある。子どもでも気軽に相談できる環境になるといい。
		本人が自主的に学べる家庭環境(本人のやる気次第)。
		1クラス少人数体制、もしくは担任の人数を増やし、一人ひとりに目が届きやすい環境。
		周囲の大人達(親、祖父母、教師、地域の人)が全体で子どもを見守り育てていく環境。
		少しでも多くの子どもが基礎学力のレベルを上げられる環境。
		自分の子どもが一年生ですが、33人ということであと3人いれば2クラスになります。でも3人足りないの1クラスです。サポートとして教員が1人はいますが、はたしてこれで子どもの教育は大丈夫でしょうか。もっと柔軟な対応はできないのでしょうか。今はとても不安です、環境を整えてほしい。
		保護者のクレームや教育委員会のことばかり気にして消極的な対応ばかりする教職員がもっと少なくなるとういと思う。
		今、発達障害児が増加傾向にあるが、交流での理解が乏しい場面も見受けられる。研修等をして共有してほしい。
まず、基礎学力の定着と、勉強が楽しいと思うような教育のカリキュラム。1人わからない子がいるとグループになって教え、国際化に向け、英語やパソコン、歴史の教育も増やす。障害のある子どもも、勉強することによって、基礎学力や社会へのコミュニケーション力をつけさせる。		
40代	男性	基礎学力を学ぶために、塾に通う子どもたちが増えている中、先生方は現実を見ているのだろうか。特別な進学校に行かないのであれば、学校だけで大丈夫な指導をしてほしい。先生方にもっと外の社会を知ってほしいです。
		ゆとり教育からの脱却により授業時間は増えているなかで、できる子とできない子の差がどんどん開いているので、補助の先生を増やしても、遅れている生徒の指導をしてほしい。親の経済状況によって子どもの学力が変わる社会はおかしいと思う。
		教師や保護者が子どもにゆとり向きあえるゆとりのある環境。
		学力は大切だがそれに重きをおきすぎている。中学ではそれに加え部活ばかりさせている。これからの多様な社会に生きるためにもっと様々な経験と視野を持てるようにしてほしい。教育があまりに狭いところでこう着しているように感じます。

年代	性別	内容
40代	男性	勉学の向上と同時に心理面(カウンセリング)が充実した環境。
		個性を大切にし、あらゆる選択肢が整っている環境。
		教職員が子ども一人ひとりときちんと向き合えるだけのゆとりのある環境。
	女性	基礎学力ができないまま、進級してしまう。先生がそのままにしている。1学年の内容が多すぎる。
		学校の先生の数を増やして、給料も上げることで、優秀な若い先生を全国から集める。子育て・教育なら佐賀で、というイメージがもてるようにしてほしい。
		発達障害等近頃増えているにもかかわらず、病院も少なければ、療育施設も少ない。施設、専門家がたくさんいる環境。
		家庭できちんと躾をし勉強や集団生活を学ぶ環境であってほしい。
		いじめや不安なく、楽しく学校へ通える環境。必要な支援を必要な時にすぐ、いくらでも受けられる環境。
		少人数制学級が実現できる環境。ゆとりある教室の広さが確保できる環境。
		公立の学校であっても基礎学力がしっかり身につく環境。いじめのない安心して学校へ通える環境。
		先生たちも子どもたちもゆとりをもって将来をみすえながら人を育てていける環境。
		小学生は1クラス40人となっているが、見直してもらいたい。不可能であれば少人数ティームティーチングを4教科で実施し、理解に時間のかかる子ども達の底上げをしてほしい。
		塾に通うことなく学力があり豊かな心が育つこと。
		進捗度別クラス編成など一人ひとりにあった学習環境が提供できる環境。
地域ぐるみで子どもの教育を支える。		
50代	男性	家庭環境(親の考え方)でだいぶ変わってくると思うので、むずかしい。
		地域や地区がもう少し教育環境の研修をすべきである。行政機関にもいえる。
		子ども達としっかりと向き合った教員が必要と思う。教育マニュアルとか○○○リストとか役場の住民サービスの教育が見られる。教員の質の向上を望みます。
		家庭環境を整える、地域と協力し合う、個々の個性を伸ばせる環境づくり。
		「情報化社会への対応＝パソコン操作」のような表面的、短絡的な方法論を見直してほしい。ゲームに熱中する子どもを増やすことは社会的損失の増加につながっている。
	女性	各市間で格差があり、障害のある子どもへの支援員を含めて特別支援の要員が不十分である。
		みんな同じことを教えるのではなく、一人ひとりに合ったことを教える(やらせる)。本当にやりたいことが見つかるまで見守る。「生きがい」につながるのでは。
		地域ごとにある程度の人員が確保できる環境で、勉学、スポーツにと、自由に選べる学校施設である環境(一定定員の確保された学校施設であること)。
		多くの子ども達が互いに協力し合って、競争できる環境にあること。少人数では競争心が育たないのではないか。
		子どもは親の鏡であるので、まず第一に大人が猛省すべき。望ましい教育とか表面だけ変えても意味がない。
女性	ニーズに対し、まなびの教室の設定数が少ない。各校1学級設定が望まれるが、少なすぎて個の支援が不十分である。小学校低学年の子どもが不登校になった際、学校の対応が保護者任せで十分な支援が受けられないという話がある。SC(スクールカウンセラー)配置が現在月1回の小学校というより、教育委員会に行けば会える体制を作れないか。有資格の教員を他県のように利用できないか。	
	相談をする場はあっても学校のそういう場は利用しづらいので、医療関係で安く相談できる場を設けてもいいのではないかと思う。	
	学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てていく環境。	
	ゆとり教育と言われた時期に子育てしたが失敗したと思う。土曜日も、しっかり勉強させてほしかった。今、子ども達から言われる。	
	少子化で学級は少なくなっているが発達障害児が多くなっている所以先生(専門)の増員が必要。	
力のある教員が少ない。不登校を相談しても何の処置もとらない。障害のある子への専門知識をもった教員が不足しているので理解も不足している。		

年代	性別	内容
50代	女性	不登校の子どもでも同じように教育を受けられるように、また、学校での居場所と先生が理解できる教育をしてほしい。
		少子化に対しての対策がもっとできるのではないかと思います。減っているからこそ、変えるところがあるのでは。
		女性の社会進出は進めてほしいのですが、小学校入学前までは子どもと向き合える時間があるほうがいいと思う。幼児教育は大変重要だと思います。それが子どもの成長目標になるのでは。
		保・幼・小・中などの先生たちの精神面は大丈夫だろうか。子どもの小さなサインに目がとどいてないと思う。不登校になる子の支えは、うまくできてないと思う。
		発達障害(グレーゾーン含む)の子どもが増えており、その専門の教員を増やさないと1クラス1教員では対応できてないと思う。
		今の考えさせることに重点をおいた授業を行う中、担任ひとりではとても不可能。小学校ではワークシェアリングの考え方で、午前中のみ担任補助として基礎教科のみ配置するなどできれば、もっと一人ひとりに対応できるのではと思います。
		落ちこぼれだけでなく、吹き上がりというIQの高い生徒にも対応可能な環境。フランスでは吹き上がりも対応して、学習意欲を失わせないようにしているらしい。
60代	男性	教育の専門家としての教職員が伸び伸びと教育に集中できるような環境をつくりあげること。
		不登校、いじめ、などがない学校。PTAがあまり強くなく先生が自由に教えることが必要。
		昔は教育熱心な先生が多かったが、保護者や教育庁の顔色ばかり気にする態勢の先生が増えたので、もう一度考え方を直してほしい。
		教職員の仕事を減らし、児童との自由時間を多くしてやる。親、社会が学校に対して意見を言いすぎ。
		勉強ばかりじゃなく人間としての教育が必要だと思う。受験勉強に追われ就職してから一般の社会生活ができない人が多い。
		競争する教育でなく一人ひとりの子どもが自由に学習に意欲を持って取り組む教育環境、作文とかが発想できる子ども。
		教職員がもっと熱意を持って個人個人を指導できる社会。
60代	女性	いじめは悪いことという認識を正しく持ちいじめのない環境になってほしい。
		授業についていけない子どもにも基礎をちゃんと教えてほしい。
		つめこみ教育ではない教育です。成績も大切ですが子ども一人ひとりの個性をのばせる教育を望みます。
		社会や先生に頼らずまず子育てをする親に子育ての教育をしてほしい。
		皆一同に行動し、生活しなければいけない集団生活なのですが、一人ひとり能力の差があることを認めて、それを非難せず、上手にのばしてあげられるゆとりのある指導をしたらいいのにはと思います。
		まずは安全な学校施設があり、社会性を育てる(道徳、食等)教育を重点にできるような現場であってほしい。
		子どもたち二人は運動しているので家に帰ったら特に夏はとても疲れて帰ってきます。でも自分のためだと思います。先生たちの努力も大変だと思います。
		教師が一人ひとりの生徒に対して目を向けるゆとりがない制度があるのでは。教師は大変忙しいと聞くが子どもたちに目を向けるゆとり(精神面)と時間的余裕が必要ではないか。また、そういう教師を取りまく制度の改革が必要では。
		1クラス35人~40人位いる子ども一人ひとりに望ましい教育環境というのは私もわからない。お互いの個性を認めあい一人ひとりが自分に自信をもてる教育環境を作ることかな。
		あまりにも急激な教育改革で子ども達は大変な環境に置かれているのではと思うので、子どもの特性、現状をきっちり把握して丁寧に整えられていく教育環境。
		先生の教育に対する気持ちがサラリーマン化している。もう少し子どもとのコミュニケーションを大事にして学校教育して、子ども時代を楽しく過ごせる環境を作してほしい。
子どもさん達が心身共に育っていけるようスポーツや勉学を通して各自の能力や長所を伸ばしていけるよう大人が働きかけ見守っていける環境。子どもは国や地域の宝だと思う。		

年代	性別	内容
70代以上	男性	管理された教育環境ではなく、例えば広々とした野外で思う存分遊べる。子ども達が群がって走り回れる森や川がある環境。
		道徳、人としてのあり方などをしっかりと身につけるような教育環境が必要。
		個人の個性を伸ばす。高学歴中心である。
		考えられないような事件が多く、子ども一人ひとりに皆の目が届くように、地域で子ども達を見守る必要がある。
		戦前の生まれであるので、今の子ども達は恵まれた環境で幸福な教育を受けている。これ以上の欲はいらない。
		学力偏重に値する傾向が気になる。国際的という言葉の乱発にも気になる。英語力より、まず国語表現力であろう。全国学力テストに一喜一憂しすぎる。
		保護者の負担能力と切り離して本人の能力に応じた教育が受けられること。できない子(不登校等含む)は教科カリキュラムを離れ実社会で生きて行く術の伝授。
	女性	地域で育てるといふか、大人も子どもも信頼して生活できるようにしたいです。
		少人数学級で教師の目が行き届く学級運営。
		テレビに殺しの場面や残虐なストーリーなど多すぎる。刺激的なゲームソフトも疑問。大自然にもっと学べる場を。
		感性や社会性は親が主と思いますが、今は親の方にも問題有りが多い。指導する側も自信を持ってピシッと言える方が少ないと感じる。
		子どもの性格をよく知って良い方へ導いてもらうこと。
		人間一人ひとり個人差があり又個性があります。その人の個性が伸ばせる環境。

(2) 「歴史や文化にふれ、楽しめる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	地元の歴史教育が不十分。地元の歴史がわかればもっと好きになり、文化活動にも取り組んでいけると思う。
	女性	情報、現場が充実していること。身近に文化に触れる機会があること。
		いろんな県の人達にもっと佐賀を知ってもらうために、伝統文化、食等、各市が力を入れて活性化する必要があると思う。市民にも活気が出て、より住みやすい町になると思う。
		資料館などそういう施設を増やす。
	地域の活動を子ども達に伝える社会。	
30代	男性	他県と比べると、かなりアピールが下手。もうちょっと、営業したほうが良いと思う。
		佐賀、もしくは地元の文化を県外や国外の人にきちんと説明できるような社会。
		いろいろな見える、ふれる、楽しめる施設があるとよい。
	女性	文化活動に親しむ機会があり、それを受け継ぐ、もしくは触れるだけでもよい、そういった社会。また、大げさでなくても、こういった歴史的なことを伝える(語れる)大人がいること。
		もっとPRする文化がいっぱいある。大人が楽しむこと。まずはそういう機会を増やそう。
		部落など近所付き合いがあり、それにより昔ながらの部落祭りに参加する楽しみがある。
	地域の伝統文化を受け継いでいくために祭りなどを増やして、歴史や文化に親しめるような社会。	
40代	男性	生活の中にその地域の歴史、文化、風俗が取り込まれていることだと思います。
		最先端の情報化を習得するよりも佐賀独自の文化・歴史を子ども時代に身につけることこそがこれからの社会で自分を出せるベースになっていくと思います。
		歴史的施設の充実した社会。

年代	性別	内容
40代	女性	市町村ごとにしっかりとした公共図書館をかまえ、本に親しむ機会が全ての人にある社会。
		佐賀の歴史ある文化の保存のアピール力が欠けていると思う。もっと若い方が楽しめ、佐賀出身を誇れるような意識を持てるような大きなイベントなりお祭り式でもいいから知ってほしい。
		地域の歴史や文化を体験また学習し、地域を知ることによって誇りをもつことのできる社会。
		地域の文化と生活がうまくまじわっている社会。特別に〇〇をするというのではなく、生活の中に歴史や文化が息づいている。
		小さい頃から地区の祭りや四季の行事に参加したり、老若男女問わず一同に集まれる催しのある社会。
50代	男性	地元の歴史、文化は後世に伝えるべきです。
		自分自身が住んでいる町の歴史をもう少し散策して楽しみながら学んでいく。
		郷土の歴史を体感できる環境があるので、恵まれている。地域社会の日常のつながりが絶対に必要。継承できない。
		無料化にしてほしい。(美術館など)
		歴史建物など保管、維持する施設の充実と文化イベントの企画された環境作り。
50代	女性	自分が住んでいる地域には、少なからずとも歴史あるものがあります。子どもたちには学校の教育の中で場を設けて楽しく地域の歴史を知る時間がとれる社会であってほしい。
		安定した収入があって文化を楽しむ余裕があること。
		伝統受け継ぐ人がいなくなっている。地域の夏祭りでさえ、ふえ、タイコ等、三夜待の仲間達も同居等仕事と一緒に住んでなく、祭りを支える人がいなくなっている。
		身近で、テレビなどで話題になっている歴史的人物などの展示会などがあつたらいいと思う。
		現実化して目先のことだけに囚われていることから、文化にふれるという余裕が失われていっている感があります。学校や地域の行事で取り組み、保護者まで巻き込んで実施するようにしていったらどうでしょう。
60代	男性	地域の伝統文化、行事、祭り事がなくなっている。今、自分達の生活優先(時間が無い)のため廃止されている(歴史遺産を継承させる勉強会、社会)。
		興味がないと踏み込めない。何かのきっかけで楽しめるようになればそういう機会が欲しい。
		今よりもっとマクロ的な歴史、文化等の掘りおこし、PR(例、各集落単位、大学単位)などできないだろうか。各集落の歴史、文化と市、県、国等のむすびつきなど。
	女性	自分の生まれ育った地域に誇りを持てる教育をしてほしい。
		社会教育で歴史・文化にふれる機会はあるが、学校教育の中でも日本、世界の歴史だけでなく地域の歴史を学ぶことができれば楽しいのでは。
70代以上	男性	住居地の歴史・文化を知ること、その地への愛着が増し、人口の流出防止となる。公民館活動等で住居地の歴史・文化講座を楽しめる社会。
		歴史文化遺産が多い所は教育特区がほしい。子ども達が少ない地域ではいいのではないかと思います。
		美術館や博物館等が身近にあり、絵画やコンサート、講演会にたまには行ったり、見たりできること。又、そういう環境であること。
	女性	伊万里地区は、海の入江が深く、古代から人の住んだ所が多くあるので、この地区の歴史を大切にしなければならない。
		全体地域の伝統文化(歴史)力を教育すること。経験者(歴史、戦争、経済活動他)活用が少ない。
70代以上	女性	文化財や伝統文化について、ある程度位でよいから知識を持った人に多くいてほしい。何も専門のガイドさんや先生でなくてよいので地元の人で気軽に話せる人がほしい。
		学んだ歴史や文化を発表する場がある。
		大人も子どもと一緒に楽しむ時間ができればよいかなあ。

(3) 「生涯学習を楽しめる社会」とは

年代	性別	内容	
20代	男性	地域で学習できる環境、各種の内容があり自由に参画できる。またそれなりの施設があること。	
	女性	個人でもレッスン等をされている所があれば、市から案内するなどの支援がほしい。	
30代	男性	まずは近所つき合いができればおのずと生涯学習につながると思う。 身心経済的にゆとりある地域社会。	
	女性	様々な分野の講座を受けることができる機会や、大学、短大、専門学校の授業を聴講できる社会。 本人の心掛け次第。IT機器や、図書館、放送大学など環境は充分だと思ふ。	
40代	男性	年配になって、取り組むものと思う意識があるため、30代から少しずつ取り組めば自然と年配になっても行動していると思う。	
		指導者・教授者の充実している社会。	
		施設の充実と近くに施設がない。	
	女性	身近な場所で、いろんなジャンルを学習できる幅広い環境があること。 市図書館は充実している、本人の意欲ではないでしょうか。施設などがあっても結局本人次第では。 生活に追われ生涯学習を受ける時間もお金もない。しかし、心を豊かにするために受けたい。料金が安く誰でも活用できる場所が少ないように思う。 学びたいと思ったときにその機会が多くある社会。 日々の生活で精一杯なため余裕がない。生活の中で必要なことが身近な施設で学べる場がある。	
50代	男性	日々の生活に追われて楽しむことがないので生活にゆとり(収入・休日)を持ちたい。又大人と子どもが一緒にできたら良いと思う。 指導員の充実。 情報が伝わってこない。 身近な場所にあること、学び続けられる魅力があること。 仕事や私生活のため時間にゆとりがない、ゆとりですかね。	
		女性	家庭や身の回りの理解が得られないとできない。 生涯学習とは何ですか。あえて、学習時間の中に身を入れないといけないのですか。その人の人生の中で興味のあること、好きなこと、楽しむことを続けてみんなとできればいいのでは。 生涯学習のための施設の講座などに参加して横のつながりをつくれることができること。 年をとってもやりたいことを学習しやすい施設が近くにある。
		男性	年代別に、また、学習内容をはっきりと明確に公共が案内指導する。 生涯学習を楽しむ、それは経済力次第。 学習環境は整備されており、後生、本人が「やる気」を出して取り組むかであり、人が与えるものではないと思う(本人次第)。 まず魅力ある告知広告が必要かと思ひます。
			女性
	70代以上	男性	施設が少ない気がしています。自由に利用できる施設のあること。 教育者の環境を良くすること。

年代	性別	内容
70代以上	男性	「自分が何をやりたいのか」が分かることが第一です。与えられて始めるものではありません。生涯かけてやりたいことがあれば県内には物、人、制度、余るほどあります。
		生涯学習に取り組む情報を多く出してほしい。
		健康で体力があってゆとりのある人であれば楽しめることができるが、生活する上でそこまで考える余裕がない。
	女性	私生活にゆとりができれば。
		参加費用が高いと感じるものもある。
		もう少し地域でも生涯学習のアピールそして講座の開講をオープンにしてほしい。

(4) 「スポーツに親しめる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	それだけの時間的・体力的な余裕を捻出できる社会。そのスポーツに親しむ絶対数は少なくとも、その少人数の人々が集まりやすい環境。
		ジムや水泳など、比較的行きやすい所など、リーズナブルな価格で利用できれば良いと思う。
	女性	やりたいスポーツが手軽にできる。
		身近にスポーツをする場、環境があること。いつでも誰でも気軽に利用できる場所づくりがあること。 健康のため、楽しむために豊かな環境で気軽にいつでもスポーツに接することができる社会。
30代	男性	しっかりとした指導者がいて好きなスポーツを楽しみながら生涯親しむ社会。 施設の場が少ないので増やして選べる環境を作るべき。
		自分に合ったスポーツを選択できるよう、様々なスポーツクラブが活動している社会。 年令相応に楽しめる施設・設備が充実している社会。
	女性	小さな低学年からでもいろいろなスポーツができる学校や幼稚園が少ない。市全体でスポーツ教室を誰でも参加できるように作り上げてほしい。
		町内に施設がたくさんある。いろんな時間帯でのサークル活動、講座がある(現在は主婦しか利用できない時間帯ばかり)。
		仕事をしているとPM8:00～PM9:00に始まるクラブであれば行けそうだけどない。都市部はそういうのがある。
		市・町民が低料金で利用できる施設がある。
40代	男性	自分がやりたいスポーツや競技の受皿がある社会。チームだったり、競技場だったり。 施設と指導者の充実している社会。
		地域や学校等の生活の中で、人との関わりが増えれば、情報交換や、誘い合って参加したり、親しむ機会も増えると思います。
	女性	スポーツ選手、クラブと交流ができる社会。体を動かせる公園や広場が整備されている社会。
		スポーツに親しむ時間が確保できるゆとりのある社会。
		もっとスポーツをする機会を増やせるよう県民だより等で募集をどんどんかけてほしい。 レベルにあったグループが多くある社会。
50代	男性	障害者も健常者もスポーツ推進員等を活用したきっかけ作りでスポーツを楽しみ、健康作りにも役立つのでは。
		社会人になってからもっとスポーツができる時間を取れるような気持ちのもてる社会。
		いつでも利用できるスポーツ施設が身近にある社会。またそこで運動指導も受けられたら良いですね。
		地域ごとの施設が充実し、使用しやすい時間帯で、体育イベントが地域ごとにある社会。過疎地域でも、行政によるスポーツイベントの企画・実行・計画。

年代	性別	内容
50代	女性	自主的に立ち向かう気力が、現在の子どもたちには備わっています。それを、もっと大人がひっぱって引き出してあげて下さい。
		1日の生活の中で、ゆとりがほとんどありません。施設が整っていても、忙しすぎる。
		地域、住民でスポーツを一緒に行なったり、指導を受けたりする。
		障害を持った人との運動会や車いすバスケなど、行政が指導者やボランティアを育ててほしい。
		スポーツの上手下手なく参加して楽しめ、親睦を深められること。
		企業や官公庁でもスポーツクラブを作り、ニュースポーツ等も紹介し、誰もが参加できる(運動が苦手と先入観がある人でも楽しめる)ようにする。
60代	男性	時間、場所、クラブ等が近くにあり仲間がいる社会。
		会員にしか、周知されないケースが多い。誰でも自由に参加できるような、広報がほしい。
		低価格で施設が利用できる環境。
		「スポーツに親しめる社会」とは、与えられるスポーツ(施設を含む)ではなく、自らが考えて行う行動であり、自発性が大事である。
	女性	市町に職員の障害者スポーツを理解指導できる人を育成。
		開放された場所がありいつでも気軽に利用できるスポーツジム等の施設があるといい。
		一部の人のみが楽しんでいるように思う。年代を越えて全員で楽しめるスポーツ社会。
		身近な施設、例えば公民館とか体育館が週に1回とかでもオープンされ、卓球やバドミントン、あるいはバレー等、レクリエーションができること。また、ウォーキング(ハイキング)などでの仲間作り。
70代以上	男性	気軽に参加できること。地域による運動会は良い。
		年令に応じてスポーツに気軽に参加できる社会。
		スポーツに親しむというより勝負、結果にこだわる練習も多く目につく。どうしても下手な人間もいるのだが、その子に対する心配りが感じられない。
		年金暮らしは、スポーツ施設利用はお金がかかる。
	女性	高齢者が関心を示すようなテーマ設定、町の一大イベント開催→区別対抗試合開催など、競争意識をうまく利用する。
		年令に関係なく沢山のプログラムがありますね。何もしない人はもったいないと思っていました。自由だものね。
		初めての人も、利用しやすいような配慮をされている社会。

(5) 「教育・文化・スポーツ」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容
20代	女性	スポーツクラブの紹介が少ない。結局友達に聞いたりしないとクラブが探せない。自分自身はテニス、子どもに柔道をさせたいが、ネットで調べてもあまり出てこない。
30代	男性	各部門のプロ選手やスタッフとの交流の場を増やすこと(イベントの増加)。
	女性	少人数クラスの授業があることは、とても良いと思います。
		この分野については、本人のやる気次第であるところによる部分が多い。環境や社会を御膳立する必要は全く無し。
		もっと、いろんな年代の方にも、教育・文化・スポーツの情報がわかりやすくしないと、わかりづらく、情報の量も少なすぎる。
40代	男性	公共のスポーツ施設は団体と個人が気軽に使えるようにしてほしい。
		施設を充実させてほしい。情報も不足していると思う。

年代	性別	内容
40代	女性	全てにおいて、仕事、仕事の毎日で、ゆとりを持つ生活ができない。せめて、週1の休みを、月6日位にしてほしい。会社に言うべきことですが、体も疲れて。
		スポーツ施設を利用する人は多いし、各種スポーツ大会等も活発に行われていると思います。やる人、やらない人の差が大きいと思います。
		教育・文化・スポーツが充実することでゆとりのある社会が実現するのだと思う。もっと自分の中でこういった時間をつくって人生を楽しみたい。
		最初は多くの選択肢が欲しい。その中から自分にあった分野があれば、始めるきっかけができると思う。その活動の目標をしっかりと示してほしい。
50代	男性	全てにおいて住民が声かけ、あいさつをして明るく住みよい生活空間を作れば、自然と情報交換ができ、サークル活動など広がっていくのではないのでしょうか。
		教育・文化にふれあえる美術館、博物館が充実していない気がする(イベント時だけ高い入場料で集め、普段は何をやっているか、よく知らない)。
	女性	年々増え続ける発達の偏りをもつお子さんに、医療も教育も追いついていません。特に保護者のニーズは、通級指導教室の設置なのですが、県からは、バランスが悪いと断われたと聞いています。子どもの率から言えば、各校1～2クラスはいる大規模校でさえない学校もあります。受診しても予約後半年以上まち、適正就学に間に合わず、支援を受けられない子どももいます。(通級指導教室が他校にあり)親が、車で送迎できない。学力向上以前の現場の状況を保護者の願いを把握してください。
		それぞれの公民館において文化やスポーツに親しめるよう、いろいろな活動や取り組みがなされていて足を運んで自分から興味を持てば何でも手が届くと思う。
60代	男性	仕事が終わっても(定年)、楽しい新しい学習を紹介し、勉強したい。費用のかからない新しいことを作り出し、パワーを集めてみんなで大きいことをしよう。
		文化活動が少ないと思う。「文化県」佐賀を目標に県民全員で佐賀の文化を充実させたい、お手伝いしたい。
	女性	地区で生涯学習、ダンス、グランドゴルフ等が月2回行われているので、希望者は活用できているので大変良いことだと思います。
		親の介護と運転ができないので気軽に外出できません。 まず何をやるにしても身体の健康と環境と時間を十分に心がけ、年をとっても“生きてることが素晴らしい”と感じることを喜びにする佐賀県にしてほしい。
70代以上	男性	やりたいことはその時々で変わってくる。いろいろなことに興味はあるがそれぞれをどこで体験したら良いのか。また、一度入ったらずっと続けないといけないイメージがあり最初の一步が踏み出せない。ワンコインで体験できるのがたくさんあれば良いと思う。
		学校での競技スポーツは最小限に留め、それは健康スポーツ中心でやるべき。競技スポーツは個々人の個性や競争の中で育成するよう。むしろ地域のクラブ活動に一任、助成するくらいの改変が必要なのは。
	女性	外部指導者を多く入れすぎている。昔は先生ができる範囲で生徒をよく知っていたので配慮もできたが、今は教師が多忙すぎる。教育委員会も現実改善に取り組むべきと思う。
	女性	地域の高齢者で週に何回と車をまわして拾って下さる人に少しでも援助があればと思います。いつもボランティアで。

3. 「交通基盤・社会基盤・情報化」分野

(1) 「人や物、情報の交流がスムーズにできる社会」とは

年代	性別	内容	
20代	男性	新幹線はいらないと思う。ただ、特急電車の本数を増やせばよいと思う。	
		ある程度の交通の利用人口がないと、人や物の移動はスムーズにならないと思う。	
	女性	物流がいつでもどこでもスムーズで、ネットや通信で希望の物事が叶えられる社会。	
		新幹線は必要ですか。西九州ルート。長崎本線の本数を増やしてほしい(JRの問題ですが)。	
		情報がすぐ入手できるシステム。 公共交通機関が少ない。	
30代	男性	最低限の交通機関が維持されている社会。	
		行政、民間等が常に情報公開し人々も周知でき意見交換できる社会。	
		交通網の整備と情報発信。	
	女性	渋滞による時間のロスが少ない社会。情報の共有を行うことができる社会。	
		電車、バスが運行していない地域がありすぎる。1日1～2本で運行していることにはなりません。	
		まず、利用する人が少ないのでその原因を突き止め、それから環境整備を進めること。人が集まりやすい、行きたくなるような駅や空港にするのが大事。	
		渋滞が少ない。どんなところでもWi-Fi環境がある。大都市と変わりなく消費ができる。山間部、島などは宅配サービス等が充実している(ネットスーパーとか)。	
	公共機関がもっと整備されていれば、人の流れも増え、情報の交流がスムーズに出来ると思う。		
	40代	男性	佐賀県東部だけ見れば、ある一定の基準は満たしていると思います。
			公共交通機関の利便性が悪すぎる。車がないと生活できない環境はどうか。
道路網の充実。			
九州広域の考え方のほうがスムーズ。一つの県に絞られずに。各県に一つの空港はナンセンス。税金の無駄。			
キーとなる地域から情報等が発信できていること。			
女性		佐賀空港が発着便も少ないし、ツアー旅行で利用しようにも割高になる。佐賀空港近辺に大きな物流センター等できれば。	
		お年寄りが車を手放すと、とたんに動きがとれなくなる。佐賀駅を中心にして一度も二度もバスを乗り換えないといけない。それが改善された社会。	
		佐賀の人口、企業からして新幹線、空港が果たして必要なのかが疑問である。それよりもっと道路を広くしてほしい。	
		子どもからお年寄りまで日常生活に不便のない社会。	
		どうしても高齢になると車の運転が危なくなってくるのでバスや電車で移動できる社会にもどるといいと思う。	
50代	男性	バスや鉄道などの公共交通機関が不便だ、改善を要する。	
		若者達は自由に情報の入手はできるが、移手段の無い人や障害者への情報を提供できるようにすること。	
		せっかく作った空港なので福岡空港に集中している便をもっと分散すべきです。福岡佐賀北九州の一体運営をして下さい。	
		人や物の流通機関が充実している社会。 自家用車優遇の交通体系になっている。バスの有効活用も。空港の駐車場整備よりバス増便の検討も。	
	女性	佐賀空港の近辺の人にとっては利用の機会は考えやすいと思うが、遠い地域の住民にとっては価値を覚えないので佐賀空港以外の交通機関の充実を期待する。	
		離島の船の時間が通勤できる時間ではない所があるので、島を離れる人が多い。交流どころではない。	
		インターネットの利用は私もするが、様々な悪い情報を聞くと、こわくて使いにくい。	

年代	性別	内容
50代	女性	交通の便が悪いので交流がスムーズにできないのはしかたないが、今はTV、インターネットなどにより情報の交流はできていると思う。
		朝夕のラッシュアワーの渋滞の減少。
		今の時代全てインターネットの利用となり、いかにスムーズに利用できるかを見るのが便利になったのでいい社会になったと思う。
60代	男性	知りたい情報、知らせたい情報が思い通りできるシステム技術が近くにある状態。
		佐賀空港の東京便やアジア近隣のアクセスは良いが、もう一度大阪(関空)や名古屋便を検討できるよう、佐賀の良さをアピール。
		高齢者でももっと頻繁に利用できる移動手段が整っている社会。各市町村コミュニティバスはあるが、便数が少ないため。
		過疎地の足の確保(高齢者対策など)等、地方が抱える課題の整備ができ、人々が助け合うことができる社会の構築が必要。
	女性	飛行機、新幹線も大事だけど、バスの利用に不便を感じます。佐賀市と神崎市では、市営バスではつながっていない。
		昨年東京行き航空のチケットをとろうとしたが、インターネットはできないし取り方が解らず断念した。高齢者にも解りやすい情報がほしい。
		現在、道路等整備が進んでいるが、必要だろうか疑問に思うことがある。
		田舎はどうしても車で移動しがちですが、公共交通をだれもが使いやすいものにする。
		佐賀空港の発着便が少ないのが残念です。環境もいいしゆったりとしてるし最高なんですけど、もったいないなあと思います。
		佐賀市報とか公民館だよりをみていますのでこれで良いと思います。情報は(ぶらざ、とかワサビ、その他)、色々ありますので。
		佐賀駅-県庁-空港をモノレールで結ぶ。佐賀駅、県庁を中心に15~20km圏内を縦・横・円で結ぶ(バスまたは電車)。
70代以上	男性	国道34号線のバイパス充実を。長崎新幹線は不要。せめて全線高架建設でなければ絶対反対。
		県外、国外からの観光客の増加や大都市圏への通勤者の流入定住化が進むような自然と生活環境に落ち着きと安心感がまず感じられること。
		インターネット利用は、高齢者はついていけない。
	女性	有明佐賀空港を県内の人々がまずは活発に利用する社会。
		高齢者にはインターネット利用は難しいと思う。
		インターネットが各家庭で使えるように助成を。

(2) 「暮らしやすいまち」とは

年代	性別	内容
20代	男性	自然と共に暮らせて、治安の良いまち。他県とのアクセス。
		近くにスーパーや店舗があり必要なものがすぐそろそろ、買える。
		災害の時の対応が整備されている。障害者の方が安心して暮らせるまちづくり。車社会なので、一人ひとりがマナー違反がないように、日頃からドライバーに対して啓発運動をする。
	女性	医療、商業施設、働きやすい職場等整っていること。県の最低賃金が上がり、働きやすい企業形態が増えるとなおよい。
		交通機関も充実していて緑の多い公園が多い。
		家の近くにスーパー、病院がある。
		働きやすく、子どもを育てやすく、楽しめるまち。
		安心、安全な社会。
		幅広い世代が安心して過ごせるまち。

年代	性別	内容
30代	男性	人と人のつながりがある。地域で子どもを守る。近所付き合いがある。
		コンパクトなまちの作り。
		憩、医療、教育、行政サービス、食文化、交通の便の良い町。
	女性	まちに活気があり、人が集まる。人と人のつながりがある。
		今から、新たに作っていく必要はさほど無いと思う。すでにある物を、どのように活用するかを考えた方が良いと思う。
		自然がほどよく残っているが活気あるまちで子ども達も大人も楽しく元気になれるまち。佐賀から都会へ人が流れているので、歯止めをかけた方が将来的にも良い。
		のどかでありつつも交通や道路等が整備されている。公園や遊歩道、電灯が整備されている。病院・医療のサービス充実。
生活に必要な交通の便や施設が充実したまち。		
40代	男性	豊かに生活できるということだけではなく、交通マナーでわかるように他人を思いやってやさしいまちづくりを期待したい。
		公共・医療・商業施設が身近にあるまち。
		高齢者にも便利で優しいまち。地域に密着した医療体制の行き届いた温もりのある官民一体型のサービス網。
	女性	小さな子どもから高齢者までが集える、芝生の公園や集会所があったらいい。公共交通機関が使いやすいこと。
		世代層のバランスがとれている社会。スーパー、病院、銀行、役場に楽にアクセスできること。
		犯罪のないまち(雇用が安定しているまち)。
		夫が働いて子どもが楽しく学校に通う。子どもと地域の活動にも参加できています。
		物価は安く、水害もなく暮らしにくくはないが、楽しいまちとはいえない。もっと佐賀にいてよかったと思える何かが不足している。
		河岸は雑草が生えっ放し。街路樹も汚い。せっかく新幹線が開通したのに他県の方々に胸をはって(住んでいるまちを)紹介できない。自然豊かさを活かすのと景観の放置は、全く異なるものだ。早急に解決してほしい。
		地域によってはバスの本数が少なかったりで出かけようにも手段が少ない。
毎年、近年は市内・外の冠水などが目立つ。余計な設備投資をするより地方の交通環境の整備、冠水などの被害を減らす整備をしてほしい。		
50代	男性	生活に必要な、金融機関、スーパー、病院などが備っていて、人口や車が過密でないまち。
		やっぱり人と人とのつながりでしょうか。
		町村合併は進んだが、排水路関係で、旧行政区の壁がとれていないため、水害等発生が多すぎる。排水路の見直し。
		今は自動車で行くので良いが、年がたてばバスは無くなり店は大型化しまわりに店が無くなっているので不安。
		どの世代でも暮らしやすいと思えるまち。古いものと新しいものの良いところがあるまち。
	女性	交通機関の整備、道路整備を改善していき、みんなが自由に使用できる施設など充実させる。
		物価が安く、生活環境が整備され、活気あるまちであること。
		ほどほど都会で、ほどほど田舎といった環境。便利で緑もたくさんあって、ゴチャゴチャしていないまち。
		地域社会の人々がいろんな活動に進んで参加し、皆で協力できること。
		路線バスが充実し若い人の働く場がたくさんあって人口が減少しないまち。自転車で働きやすいまち。
まず、自分の地域を活性化させる。それが第一。そこから県市内全体に広がればまちが活気づく。		
佐賀は一人に一台車がないと困る所。しかし、それでは成り立たない、自家用車がなくても生活できるよう、小型のバスをたくさん作り、バス停を今の5倍くらいにして、なんとか高齢者を助けてほしい。		

年代	性別	内容
50代	女性	お年寄りの毎日の食糧品の買い物をする店が中心部に少なく、郊外の大型店が増えすぎて、小売店が(専門店)が閉店していつてる。
		車を持っていない人にとって不便。バスをもっと利用できる環境にならないと特に高齢者は生活に不安を感じています。
		車依存社会をなくし、市街に小規模のスポーツ施設が点在し、自転車やバスで利用できる環境。住宅地にも各公民館があるように、公園があり、年代の差なく、交流できる環境のあるまち。
		近隣同士、仲良いこと。事が起きた時、助け合ったり連携が上手くできている。治安が良い。
60代	男性	大資本に左右されない旧態依然とした都市、町景観を保ちつつ人情味のあるまち。
		隣近所との交流(昔の井戸端会議のような)が自然にできる環境。
		地域みんなの年齢構成が平均してあらゆる年代の考え方が聞けるような社会。私どもの地域は高齢者ばかりでそう思う。
		災害に強いまちであり、そのために下水道河川の整備がなされている。
		防犯・交通安全・ふれあいの多いまち。
	災害(自然)に怯えることのない生活が一番だと思います。生活に、騒がしさ・煩わしさのない佐賀県での暮らしが最高です。	
	女性	車を運転できなくなった場合、公共の交通機関など身近な移動手段があり、自由に病院や買物等に行けるようなまち。
		美しい景観と公共交通機関の整備されたまち。
		近くに病院、商店そして自然環境があれば良いと思う。現在のCSO活動の担う地域への位置付けが確認できない。
		犯罪などなくて高齢者でも暮らせる。また、子どもさんたちを守って(子どもは宝です)いろんな事を相談したり訪問などして下さる方など、子どもも大人も集まる場所がほしいです。
人が集まって活気のあるまちに。心のゆとりや笑顔ができれば楽しく暮らせると思う。		
地域の中心部と山間部の利便性が大。山間部の一人暮らしも増えつつあり、巡回バスや福祉タクシーを格安で利用できるとうい。		
私のところ、下水道どころか上水もない。水路について農業用水優先で環境用の整備には耳もかさない。		
住民一人ひとりが老いも若きも各々教育や文化を十分に受け、生きがいをもって生き活きと活動し、相互、援助、思いやりの心をもって生活でき、未来に向かっていけるまち。		
70代以上	男性	各種の公的施設、病院、学校等が整い生活基盤が整備されたまち。人々が元気で明るく行きかうまち。
		隣人愛が希薄になっている。助け合いの精神が欲しい。
		安心して暮らせること。何をしているか分からない組織や団体を辞めさせること。
		CSOの組織体が衰退している。官と民が一体的方向性がない。活力ある地域社会とは社会教育の強力なリーダーが必要。
		高齢化生活では日常の生活圏域は小さくなっている。手頃の規模の商店や病院が手頃の距離にあること。
	女性	高齢化が進めば進むほど、買物に行くにも病院に行くにしても、目的地に行く足が絶対必要。この問題を解決することが、過疎化防止にもつながろう。
		まずご近所との交流が第1だと思います。小さな輪の中から中～大と進んで行くのが理想ではないかと思っています。
		公共交通機関が充実していて身近な移動ができること。
		地域づくりや交通の便が良い。
		近くに交通機関がないので買い物に行けません。せめてバスの運行があったらと思います。

(3) 「交通基盤・社会基盤・情報化」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容	
20代	男性	公的な交通手段、特に幹線道路から離れた地域で設置すること。佐賀は軽自動車の普及が日本一というが逆に言えばそれだけ不便ということ。	
	女性	市民が気軽に参加できて、魅力のあるボランティア活動等増えるとよい。県も市も活性化させようとする努力が市民にはあまり伝わっていないように思う。半ば佐賀県民はあきらめている所もあると思うので、市民を混じえた取組みや、他県と比較した時に佐賀県の強みがあると良いのではないかな。 佐賀の中心地(シャッター街)をもっと活気づかせて若者が活々楽しめる場所にしてほしいと思います。	
30代	男性	交通網の整備をし、まちの老朽化を防ぐ取組みをもっとしたほうが良いと思う。 小さい子どものための歩道の整備、県道の歩道整備を急いでほしい。	
	女性	街のコンパクト化、スーパーも病院も近場ですませることができたら、老後も住みたい。 車を持っていない高齢者が、バスがないと病院にも行けず困ると話しておられた。車を持っていない方が、通院や買い物など日常生活に困らないよう、細やかな整備をしていただくと助かる方が多いと思う。 子ども・お年寄りなどがもっと、安全に、自由を楽しめる環境を、整備してほしい。	
		男性	県道鳥栖川久保線を2車線にすれば栄えるのではないのでしょうか。佐賀空港が活用されていない気がします。 道路整備の重要性とインターネット環境整備の重要性は同じくらいと考える。
40代	女性	環境に配慮した、電気等を利用した小型バスを運行できないだろうか。どこへ行くにも自分で自動車を運転する必要があり、高齢者・障害者には負担が大きい。 高齢者にとっての移動手段は公共交通機関。それをもっと充実させてほしい。高齢者の車の運転はとても危険です。 冠水では、道路がいたる所で通行止めになって渋滞していたので、冠水をみこした道路整備をしてほしい。 今後増高齢化社会になるので買い物難民等にならないようバスや郊外型ショッピングセンター以外の買い物施設等も考えてもらいたい。 インターネットを利用しようという姿勢はとても前向きでいいと思います。あとは交通。通学も大変では、次世代を担ってもらえませんか。	
		男性	交通基盤は行政にさせていただくしかないと思います。社会基盤は行政、CSO、生活者との意見交換。情報化は、情報公開、インターネット社会の構築。 交通手段の充実が絶対的に必要。 公務員を中心に事務職にある者は通勤を全て、公共交通機関とすべし。
		女性	今でも特急利用者が少ないのにこれから多額の費用をかけて、新幹線の利用者が、増えるのでしょうか？ちょっと不安になります。 唐津→福岡間に関してはあまり不便を感じることがないけれど、唐津→佐賀市他の地域に行くとなると車でなければなかなか不便。生活の流れからすると当然で仕方のないことかもと思われる。 地域、田舎で暮らすことに応援をすべき。三世同居以上に家屋や土地などの助成をすとか、住宅地には各CSOの設置を義務づけるとか。 佐賀市はなぜドーナツ化になってるか。車社会だからです。駐車場の料金も高く、払ってまで行く魅力もない。楽しめるものをもっと増やしていけると、人も集まるでしょう。商工会議所ももっと考えを幅広くもってください。 交通機関の高速化は、現代のスピード化には必要でしょう。しかし、自然を崩して高速道路整備が進んでいるようですが、田舎ならではの景観が壊されていくのは淋しい感じもあります。
			男性
60代	男性	目立つ事業に税金を使うのではなく、地域密着型の整備に使ってもらいたい。 道路の整備はかなり良い状況と思うが、草、木の管理が不十分な所も多い。バスも自動車社会のせいで乗者数が少ないが、ないと困る人がいる(小型で良い)。 交通網が不十分。唐津住民としては、福岡へは便利だけど、佐賀や長崎方面はバス、鉄道は不十分である。防災、情報は綿密なものにしてもらいたい。 有明佐賀空港の発着便をあと2往復増便してほしい。情報化については、公官庁等の共有利用・オンライン等。	

年代	性別	内 容
60代	女性	毎年でる水害(洪水)で不安がある。その前は道路に水がたまることはなかった。なんとかしてほしいです。
		ホームレスの方などの対応を、もっとして頂きたい。人が住んでいない所に、ダンボールとかしいて、住んでいる、恐れ思いをしている。
		鳥栖に住んでいると有明佐賀空港よりも、福岡空港のほうがどうしても利便性が良い。新幹線も関東に行くときは博多で乗り換えるので新鳥栖の利便性が生かされていない。
		田舎に住むと、人口は減り、若者が少なくなっているにもかかわらず、昔からの行事は、そのまま引き継がれているので、休日が行事でつぶれてしまうことが多く、サラリーマンにとって、体を休めることが難しい状態で暮らしにくい。
70代以上	男性	県東部は福岡市の通勤圏として、県北部は福岡市の日帰りのレジャー圏域として、交通、住宅、産業の充実を図る。
		車があるのがあたりまえの世の中になってしまっている。車がなくても暮らしやすいまちに。
	交通基盤は交通機関の利用促進ばかり目が入っているが、むしろ自転車専用道路を全県下に整備するなど実現をぜひ願いたい。	
70代以上	女性	基盤はできるだけ努力して下さってるのだから、あとは県民各人が上手にやれる範囲で行い進むしかないのではないかと思います。
		以前は各家庭に防災無線があり災害時等わかりやすかったのですが、今は役所からの放送なので全然分かりません(家の中では聞けません)。

4. 「安全・環境」分野

(1) 「安心して消費生活を送れる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	被害にあった際に一番に相談できる窓口がある社会。
		不当な値上げや詐欺のような訪問販売がない社会。
	女性	アレルギーを持つ人も選べるくらいに食品が沢山ある社会。
		口に入れる物が一番こわいので、表示や安全性などが一番大切にされる社会。 市町村の相談窓口が多い社会。 地域で育てたものなど、食品の安全性に不安のない食品をいろんな場所で見える社会。
30代	男性	悪徳業者等、トラブル防止が施されている社会。
		物価と給与面がバランスよく機能している社会。
		メーカーが責任を取れる社会。
		消費者相談窓口でのしっかりした対応と解決できる社会。
	女性	商品の内容、中身と表示が相違なくなされている社会。
		トラブルがあっても、すぐに中立的な立場で相談できる弁護士や相談窓口がある社会。 すべてにおいて”顔”が見えるようにすれば安全。県産のものをテレビやインターネットで県から、広告していけば良い。
40代	男性	売側が嘘をつかず、信頼して物が買える社会。
		契約トラブルの情報、食品の安全性が目で見える社会。
		ペットが死んだ場合、敷地内に埋葬するしかないので、市の方で焼却する施設などがあればいい。
		情報が公開されている社会。
	女性	安全な食品が車なしでも購入できる社会。
		情報公開を十分にして、不明がない社会。トラブルの未然防止の情報が充実している社会。
		オレオレ詐欺等の詐欺にあわない社会。
		地域というより日本の食品の安全基準を考え直し、自分の子どもに食べさせたい物を作る社会。
50代	男性	消費トラブルを解決する事が大事で、身近な所に窓口を設置し消費者に知らせる社会。
		個人情報流用するのが簡単すぎるので契約トラブルが起きやすいと思う。それがなく個人情報が流れ出なくなるような社会。
		捨て犬、猫が絶えず増えつづけているので、責任を持ってペットを飼う社会。
		スーパーなどで、肉・魚・野菜などで国産とだけ記されているときがある。産地名をきちんと書き出してほしい。
	女性	行政がいち早く、情報の伝達を行う社会。
		消費税をこれ以上上げてほしくないことと、価格が高騰しない社会。給料が下がらない社会。
		偽装がない適正な表示と、食の安全性を確立した社会。
		購入する物が安心安全と保証されている社会。 相談できる人が居る。家族や身内が何でも話せる関係で居る。日頃から近隣との関係作りを心掛けている社会。
60代	男性	寂しい老人に対する詐欺の防御のため、楽しい老人会での寸劇などやって、老人が安心できる社会と若年層における道徳教育を行う社会。
		通信販売が多すぎ、トラブルの原因となっている。やはり目の前で見ると確かめて買えるよう、地域においても品物が十分調達できる社会。
		経済的に安定した生活がおくれる社会。最低限、生活できる収入が必要である。

年代	性別	内容
60代	男性	品物が安く交通便が良い社会。
		不正表示などがない社会。
	女性	カラスが多く困っているため、カラスに荒らされない社会。
		商品に販売者の名はあっても製造者の表記がない場合が多々あるので、製造者名が明記され安心して買うことができる社会。
		犬の便は持ち帰るが、尿をいたる所でさせており、花壇の花が枯れたり子どもの草花遊びができないなど大変困っているため、犬へのしつけをきちんとしてほしい。
		地域ごとのネットワークを作り、細かい情報が届くように繰り返し情報の提供を行う社会。
		犬、猫の子どもが生まれるとまだ捨てられるケースがある。捨てることがいけないが、捨て犬猫があれば、公的機関で回収してほしい。猫は特に避妊等してもっと責任を持つようにしてほしい。
信頼できるチェック機関がしっかり働き、消費者自身も判断力をみがく社会。		
食料品には消費税がつかない社会。それによりこれからの先の消費税に対する目線が違ってくると思う。		
70代以上	男性	消費増税に乗じて物品の値を上げない社会。
		食品等の基準が決まっており、食品の産地や消費期限の表示を正しくされている社会。
		スーパーまで遠いので、昔ながらの行商さんが来てくれるような社会。
		県内は後期高齢者が多くなってきているが、日頃近所付き合いがないので訪問販売員が訪れても無関心となっている。昔のように向こう三軒両隣りにならないのか。電柱には看板駄目(禁止)でも、老人弱者を守るための予防掲示板なら誰しもが認めるはず、不審者も「ちょっと」待ったと思う。
	女性	現在消費生活をおくる上で、全国でどのようなトラブルが発生しているのか広報媒体や小冊子にして一般に配布、注意を喚起、更に予防について付記してもらおうと良い。
		身近な所で買い物ができ、安心して商品が手に入る社会。
		近くに夜間のペットの病院がある社会。
被害に遭った場合も泣き寝入りしないですむ社会。		

(2) 「安全・安心な社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	小さな事件でも表に出してほしい。表に出ないと安全なんだと思ってしまう。でも知らないだけでいろいろな事件が起こっていると思う。
		山手の地域に街灯を増やしてほしい。
		歩道が広すぎるのも車が走ったり、駐車したりして危険。自転車がまだまだ車道を走っているため危険。歩道で自転車が走りやすいように、凸凹の解消をしてほしい。
	女性	警察は取り締まらなくていい自動車ばかりに目がいき、実際危険運転をしている車を見逃している。もっと情報等を基に危険運転、犯罪等に目を向けてほしい。
		警察と地域の方が一体となり、事故の多い場所などがすぐに整備をされる社会。
		自転車、歩行者のためにも街灯を増やしてほしい。
		警察や救急・火事の対応が早い社会。
外を出歩いていても犯罪がなく安心して過ごせ、買い物で、表示が不正でなく安心して購入できる社会。		
小さい時からマナーを教えあう社会。		
30代	男性	治安維持の強化実施をしている社会。
		田舎のような地域全体で見守る社会。
		有害物質の販売は一切しないこと。また近頃交番に誰もいないと聞くので連絡をとれる体制を整備した社会。

年代	性別	内容
30代	女性	安全に登下校や運転ができるように歩道の整備をしてほしい。
		地域全体で見守れる環境が整った社会。
		小学校近くに飲み屋街があり、人が少ないので夜は駅近くも暗く、事件があっても不思議ではない。パトロール強化が必要でありお店にも協力してもらい街全体で防犯に努めてほしい。
		皆がルールやマナーをきちんと守れる社会。罰則をもっと厳しくしても良いと思う。
40代	男性	警察官による、地域全体のパトロールが強化された社会。
		子どもの通学路の安全をまず第一に取り組んでほしい。
		地域で自治意識の高い社会。
		土日の交通安全の取組みがなされている社会。
	女性	自転車も免許制度やナンバープレートを付けるようにすればいいと思う。もっと自転車のルールを徹底してほしい。
		暴走バイクの取り締まりをしてほしい。
		学校通学路のガードレール整備がされておらず、非常に危険。車の往来が多くスピードを出す人が多い場所について早急に対策してほしい。
		トラブルにあった時に対応してくれる所がある社会。
		モラルのある社会。若者が道を踏み外さないよう仕事のある社会。
		一般人にも薬物使用が増加しているらしいのでそれも不安。暴力団等も撲滅してほしい。
		厳罰化される社会。
		「交通安全週間」の時だけではなく、朝の30分～1時ぐらい毎日子どもの安全のために警察官が立っていてほしい。
		交通法規が守られ、歩行者が安全安心に歩ける社会。
		一人ひとりが協力して不審者に対する情報なども把握でき、地域も連携して防犯に取り組んでいる安心感のある社会。また住民の声を聞いてもらえる社会。
50代	男性	子どもや老人、障害者など、生活弱者が事故や犯罪にあわない社会。あいさつをして明るい社会生活。
		スピード違反取締をもっと行ってほしい。
		過疎化や限界集落を無くし孤独死を無くす社会。地域にマッチした道路づくりを行い、交通事故を無くす社会。
		車道、自転車道、歩行者用がきちんと整備されている社会。自転車道は途中道がなくなったり、危ない思いをしたことが度々ある。
		地域犯罪、災害に対する連絡網の充実した社会。
	女性	防犯カメラ設置が早期解決につながっているようなので、安心のために防犯カメラの設置は欠かせないと思う。
		身近な場所で街灯が整備されていないので、変質者が出没しやすくなっている。もっと夜でも気軽に外出できるような社会。
		地域の方が責任を持って、朝から子どもたちの送り迎えをし、地域の方もイキイキされるのが感じられる社会。
		小さな子どもたちだけでも外で遊べるような社会。
		今は車も運転するが、交通手段がないところはどうなるのか。
		交通マナーで、子どものシートベルト着用等は、田舎になればなるほど、守られていない。見ていてヒヤヒヤするが、注意を促す活動もよくなされていない。
		近所の方と信頼関係があり、110番や119番がすぐにつながり対応してくれる社会。
		自転車の右側走行がまだまだできてない学生や大人が多いので、もっと広報してほしい。
		高齢者ドライバーが増えるので、高齢者の車の運転の見直しやより一層の交通ルールを守る社会。ウインカーを点滅せずの突然の右折、左折、駐車場で割り込み駐車が行けば行くほど多い。

年代	性別	内 容
50代	女性	犯罪を防止するため、一定箇所だけでなく、全ての地域を巡回する形で、少ない人材でも監視の目のある社会。最近ではパトロールしている警察官を見ない。
		地震などの災害時でも影響を受けない為、交通量の少なめの交差点をローターリー形式にしてはどうか。
		生活弱者に思いやりのある環境を整備された社会。
		地域で防犯についての研修会を行ったり、地域の隅々まで見て周り、状況や住民の事を把握し、対処できるようにする社会。また地域の代表者等他の方が良く動いてくれる社会。
60代	男性	一般社会人、通行人及び警察などとの連絡交流がある社会。自分だけでなく他人を思いやる人々があふれる社会。
		自転車安心して左側を通れる所は少ない。車中心の社会になっているので、自転車レーンの整備が必要である。
		安全、安心に住める社会。例えば戸締まりせずに外出しても支障がないような社会。
		道路や歩道が交通機関の駐車場になっている。歩く人が危険である。
		国民生活の安全安心を脅かす麻薬・覚せい剤等の不正薬物、銃器等や健全な経済の発展を損なう知的財産侵害物品、催告、クレジットカード等のない社会。
		子ども達の登下校時にもっと安心できるような社会。朝夕の通勤・通学時にまったく停止せず、歩行者優先ではないので、車中心ではなく、人を大切に優しい社会。
		歩行者道路に駐車している車が多すぎる。事故が起こってからでは遅いと思う。
	女性	警察官にもう少し相手の言葉を親身になって聞いてほしい。
		暗くて危険な場所がなく、駅等に「たむろ」する人がいなくなり、大きな音で疾走するバイクもいない社会。
		自分の住んでいる地域での犯罪やこまった問題を地域で共有できている社会。
		農業用道路が少し狭くて農繁期の時は車の離合がとても大変な道路がある。
		飲酒や薬物乱用による危険な運転や犯罪がなくなり、誰もが命を大切に作る社会。
		車優先の道路が多いので、そこで暮らす人の安全を考えた道路が整備される社会。
		街灯が少ない。道路が凸凹で、歩いたり、自転車で通るとあぶないので、人が安心して通れる歩道がある社会。
飲酒運転がない社会。危険ドラッグ等も全て違法薬物にしてほしい。		
犯罪やサギ等、交通事故や災害にあった時、自分や家族、地域の人々の生命が守られる社会。またお互いに地域で助け合える社会。		
70代以上	男性	計画されている道路などの整備がきちんと実施されている社会。
		警察署の縮小及び人数不足が心配である。警察署などが充実した社会。
		今の安全安心を保った地域を創る。空き家を整備すること。
		小さな事件、交通事故を未然防止するため防犯対策、交通取締りの強化を警察、地域住民一対となって活動推進を強化する社会。
		警察と地域がもっと情報交換できる場がある社会。
		安全のために、街の中心に歩道がある社会。
		自動車、自転車の運転中の携帯電話利用や高齢者の信号外での道路横断のない社会。
		交通や生活事故だけでなく、少子化社会の中でモラルの低下が家庭や地域の社会の安心安全を壊している。モラルある社会。
		独居老人が多くなってきている。隣近所声かけ運動や隣近所や地域のことに関心を持ち、助け合う意識を盛り上げ、自助・共助の社会。
		暗く危ない場所が多いので、水銀灯など街路灯を見直し、また、自転車道路網を計画して、佐賀県は日本一の自転車道路整備された県であり、県を一周できるというくらいの全体像を示してほしい。空港、新幹線よりも健康に良い自転車を。
女性	地域での交通安全教室などが開催される社会。	
	犯罪は家庭から。核家族じゃなく、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らす社会。	

年代	性別	内容
70代以上	女性	市内でもまだ長い間危険をとまなう歩道があり、何年か前に通報したが、まだそのままである。すべて調査をして安全を考えてほしい。
		通学道路がなく、県道等の雑草が多いので整備が必要。
		各自が交通ルールを守り人と人がやさしく思いやりをもつ社会。

(3) 「災害に対して安心できる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	被災後のアフターケア体制が整っている社会。
		災害時の避難計画、場所等が徹底され災害情報が入手できること。災害対策マニュアルが、どこでも見られるように、公共施設、交番等、どの建物にも置かれている社会。
		短期的な視点によらず、時間管理概念を持ちつつ、長期的な視野を持って計画的に取り組むこと。
	女性	原子力発電所のない社会。雨がたくさん降っても冠水しない町。
		個々で対策として訓練しても、その場かぎりで、実際に地震などが来たときの対処の仕方に困る。携帯電話などの通信機器を持っている人は安否の確認が取れても子どもなどは本当に困る。県を上げて一斉に訓練すべきである。
		早い呼びかけ、避難勧告を行ってくれる社会。
		地震や災害の際、避難場所が確保されて安全を感じられる社会。
		雨によって主に影響を受ける電車や車道についての情報をすぐに得ることができる社会。
		避難の場所を全員が知っている社会。
		30代
災害発生に対する初動対処がしっかりしていて、色々な災害に対して柔軟な対応ができる社会。		
避難情報手段、場所が確立している社会。		
女性	原子力発電は不要。いつ災害が起こるか不安であり、地震、津波その他災害が起こらないとは限らない。	
	本人が災害に対しての知識を持つ努力をする社会。原子力発電所等、人間のエゴの産物を撤廃する社会。	
	災害が起こった際に、どのようにどこに避難したり行動したら良いか明らかに提示してくれており、日頃から意識して行動できるような社会。	
40代	男性	引っ越してきた時に避難場所の伝達が行なわれたり、非常変災に対し十分な備えのある社会。
		毎年、梅雨の時期には、道路が冠水して一部通行止めになる場所があるので、水害のない街になってほしい。
		土砂くずれ等、災害対策が十分な社会。
		災害に遭った場合、助け合える社会。
		有事の際に安心して避難できる場所や被災しても県や市町村からの支援、補助がある社会。鳥インフルエンザ等の伝染病等に対して迅速な対応ができる社会。
	女性	大雨の時に冠水するので排水をしっかりしてほしい。
		災害のための準備、組織があり、災害時に正しい行動ができる社会。
		自治体が土地に応じた危険性を把握し対策する社会。
		災害の規模が拡大化し、過去の事例に基づく予想が難しいため専門家の質の向上が必要である。
		原子力発電の安全対策について具体的な内容、今後の計画などが地域住民へ十分説明がなされる社会。
40代	女性	原子力発電所のない社会。隕石の落下や想定外の災害が起こる確率はどれだけ低くても0%ではない。ミサイル攻撃やテロだって0%ではない。万が一事故が起こった時の被害が大きすぎる。
		大雨が降っても道路が冠水しない社会。
		避難所が近くにあり、声かけしてくれる人が存在する社会。

年代	性別	内容
40代	女性	災害時の避難場所を明確にして訓練を行ってほしい。
		原子力発電所のない社会。また災害時に安心して避難できて食料等がスムーズに流れることや大雨時に冠水しないような整備がされた社会。
		防災放送などスピーカーで放送しているが全く聞こえない。TVなどで個々の家庭に災害情報がわかるような配慮をしてほしい。
		個人の意識を高めて、常に最悪を考え、その時の対処方法について考えている社会。
		地域ごとに災害マニュアルがあつて、学習会や資料の配布そしていざという時に生かせる社会。
50代	男性	災害発生の基になるような環境がない社会。
		山間地域の土砂災害に対する施策が不十分である。
		公共機関にあまり頼らず、自己防衛をしっかりとする必要がある。
		原子力発電と共存する社会。「原子力反対」と言う反対派の人達は電気を使用しない生活を実行することが先ではないか。
		災害の発生の可否については住民では情報が入ってこないもので、自治体側で早い段階での内容が充実した情報提供が必要である。
		毎年の道路の冠水がある。市にまかせないで県でやるべき。
		原子力発電に頼らず発展できる社会。
		個々が災害に備え準備しておく事が第一、災害にあたっての避難、通路、場所など改めて通告すること。
		災害が起きにくい対策が整備されている、情報網が充実している社会。
		原子力発電は燃料の最終処分方法を早急に解決する必要がある。現状のままでは再稼働は絶対反対。
	原子力発電所については、伊万里地区も一体となるべきである。	
	女性	一人ひとりが災害に対しての関心を持ち、備えをする社会。
		原子力発電所に不安があり、反対。風力発電や太陽光発電に賛成です。
		一人ぐらしの老人が多いので何かあった時だけでなく、普段から声をかけ合つて地域ぐるみで守っていける社会。
		原子力発電に頼らずに、深夜遅くまで電気を使う企業は時間を規制するなど、佐賀県独自のエネルギーについての考えをまとめること。
		自治会の自主防災が確立されている社会。
		危険区域だと思われる集落にもっともっと目を向けてくれる社会。
		災害時の行動の確かなマニュアルがある社会。
		大雨の時、道路が冠水しない社会。
子どもの連絡網や町内の連絡網もあり、情報伝達ができる社会。		
原子力発電がなく、災害にあつてもすぐに再建できるシステムになっている社会。		
60代	男性	高齢者や障害者等、要援護者のことをしっかり把握できている社会。洪水や原発問題が発生したときの避難場所の明確化。「聴こえない」とはどういうことかなど聴覚障害者の状況を考慮する社会。
		避難所が校区別になっているので、どこの避難所にも行けるような社会。
		災害に強い対策ができている社会。
		広報活動が積極的に実施され、区長等を中心とした小さい組織がしっかりと作り上げられている社会。
		原子力発電所を長い間止めると次に動かす時に心配があるので、早く総点検をクリアして再稼働を行う。
災害はいつでもどこで有るかわからない。発生した時にまわりの人達にどのように伝えていくか日頃の訓練が大切である。		
例えば避難勧告、避難指示、避難命令等あるが、同じような言葉で意味とか重要度などわかりにくい。いつ逃げれば良いのか、何を持って逃げるのか。乳幼児の親は何を持って行くのか、高齢者は何を持って行くのか避難所には何があるのか自販機はあるのか、湯はでるのかなどの詳細なことが知りたい。		

年代	性別	内容
60代	男性	原発事故の場合の避難行動がわからない、もっとちゃんとした計画が必要なのではないかと。事故が起きてからでは遅いので、再稼働しないのが安心である。
		災害時、死亡者など被害者を出さない社会。
		真摯に災害と向き合うことのできる社会。
	女性	緊急に対応する行政のありかたが、逃げ腰であり、自主防災の設立自体の考え方がおかしい。
		水害の時、川がはんらんして道路に魚が泳いでた。道路ばかり広くしないで、河川整備に力を入れてほしい。
		原発のない社会。
		地域での避難訓練など限られた方達だけではなく、皆で参加できるような日に行ってほしい。
		原子力災害については各地域ごとに定期的に説明また防具等を配布するべき。
		原子力に頼らず自然エネルギーの活用にもっとお金やエネルギーを使ってほしい。
		災害はさげられないが、事後処理に不安がなく、地域力がある社会。
		学校や公民館などの公的機関は、もともと風水害の被害を受けない安全なところに設置されるべきものである。
		大雨の時、川の水が増水したときなどに、地域の人との連携がスムーズにいく社会。
		まず人の生命が守られる社会であることが第一である。私達の孫やひ孫、ずっと生命が保たれ皆が健康で助け合える社会。
		原子力災害があった時、車やバスでの移動の計画等が現在製作中であるが、いざ起こった時は全員がパニックになるので、そのためにはどうしたら良いのかを皆がもっと考えていくべきである。
70代以上	男性	原子力発電の危険性を考えると電気の節約などをみんなでやればできるはず。
		連絡網の徹底している社会。
		原子力発電のない社会。
		原子力発電所の安全対策をしっかりと行ってほしい。
		災害時に連絡体制を区長(駐在員)が伝達できる訓練が必要。
		低平地域では大雨時のクレークからの溢水、高潮による長時間の洪水被害が心配されるので避難所の増設や内水の強制排除の強化が必要である。
		自治体はその都度考えられる対応は行っていると思うが、予測できないことが起こることも多く、そこから学ぶことも多いと思う。起こりえることの予測、起こったこと(後も)の対応、二度と起こさないための対応、そして私たち住民の自覚、備えすべてが合わさった社会。
	女性	原子力発電に頼らないエネルギー政策(風力、地熱、太陽光等)に積極的対策をとる社会。「原子力発電ありき」ではいけない。日本列島は地震列島である。
		災害が起きた時にどう行動すればよいか情報が全くない。
		原子力発電が完全に安心できるような社会。
		原子力に代わるエネルギーの確保をしてから、原子力発電をゼロにする必要がある。
		地域住民に浸透するような原子力防災訓練がない。
		安心できる避難場所の確保が必要である。

(4) 「環境が保全されている社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	(自然が1年で生産した分の資源)+(人間が1年で生産した分の資源)=1年分の消費。1年ごとのサイクルで自然環境が循環し、保全できる社会。
		海や川などの自然の景観・環境が大切にされる社会。
		みんなが川を汚さない。ゴミを出さないためどうしたらよいかを知り、燃えるゴミをなるべく出さないよう、多く作りすぎず、食べ残さず、生ゴミを堆肥化する。

年代	性別	内 容	
20代	女性	山や木がたくさんあって、交通安全など心配りがされている社会。	
		ゴミ、CO2を減らす努力を行うなど一人ひとり誰もが環境を気にする社会。	
30代	男性	汚染に関する防止などの取組みにより、意識が高い社会。	
		無駄な工事が無い社会。	
		地域企業が進んで環境問題に取り組む社会。	
		自然あふれる森と共存する社会。	
		ペットボトルや食品トレーの回収場所が少ない。地域に一応ペットボトルの収集所はあるが、少なく、回収場所が遠い。	
		家庭ゴミ、粗大ゴミ、産業廃棄物などが適正に処分、処理されている社会。	
30代	女性	人間が動物達のことを尊重している社会。	
		佐賀県は自然が多いので、それをそのまま大切にできる社会。	
		みんな、環境が大切なことは知っている。まず県から、「ゴミ拾い」「公園の環境整備」を行っている姿、状況を“形”として見せていけば、おのずと、人の心は動いていくのではないかと。みんなを引き込むのではなく、関心のある人、企業を確実に取り入れることが、継続維持につながると思う。	
		原子力発電に頼らないエネルギー資源にシフトしたい。公共の建物にも再生可能エネルギーや太陽光を取り込むことが大事。	
		ゴミの減量、リサイクルの必要を小学校の時より考えて行動するという教育を行い、子どもから大人までがリサイクルなど、できることからやろうとする社会。	
40代	男性	エネルギーについては太陽光に限らず、佐賀のその土地土地に適した再生可能エネルギーを市民と共に積極的に進めてほしい。	
		環境破壊因子を取り除こうとする社会。	
		石油エネルギーを減らして自然エネルギーに代える社会。	
	40代	女性	利益優先ではなく自然を尊重した開発がなされる社会。「自分たちの町は自分たちで」という意識があり、美化、清掃活動、緑化運動に力を入れることのできる社会。
			水田のある環境。森林が、整備された環境。大雨が降った時などに有難みがわかる。
			個人、個人の小さな意識でも、継続に続けていくことだと思ふ。ごみやリサイクルでも次の世代のことを考える社会。
50代	男性	原子力発電がゼロで再生エネルギー等でまかなえる社会。	
		エコ活動や知識が学べる社会。	
		消費する中で、資源の活用を行い、リサイクルを進めること。また、リサイクルも1回のみではなく何度も行うべきである。	
		川が汚い。ゴミがたくさん浮いているところが多いので行政の力ででもきれいにしていけるべき。	
		自然破壊を最小に留め再生エネルギーを最大活用する社会。	
	もっと風が通るような環境を整え、夏暑い日にクーラーを使用しないでも生活していける環境になってほしい。		
50代	女性	緑が多く、水がきれいで昆虫や動物が暮らしやすい社会。	
		夜遅くまでお店が開いていると犯罪が増えるばかりでなく電気の使用量も増えるので、深夜営業等がない社会。また、リサイクルが全ての市町村で確実にできる体制が整えられること。	
		むやみに森林伐採をせず、山を崩したり埋め立てたりせずに、必要に応じてその時々で考えていく社会。	
		行政全体で取り組むのではなく、個人個人が主体的に自覚を持って環境保全に取り組む社会。	
		下水道が整備されている社会。	
50代	女性	何かを造るときは、その処分方法まで考えて造るような指導が必要である。	
		自然と共存でき、しかも水辺(溝、堀、川、池、クレーク)が安全であること。セメントで固めて落ちたら上がれない構造ではなく、水辺と親しめるような場所が多くなってほしい。	

年代	性別	内容
50代	女性	自然を生かした環境整備と商品を提供している企業をまき込んだごみの減量とリサイクルの推進が日常にある社会。
		原子力発電に代わるエネルギーの方法を考え整備していく。地球温暖化防止の取組みとして、各家庭のゴミ分別の意識を高める社会。
60代	男性	生活レベルは下げても自然を守る社会。
		空気・水・土壌・温暖化などと共に近年は竹が林の中に食い込んで、ここ20年程で大変な状況になっている。これら全体を管理できる社会。
		大雨や台風などの風水害で一応安心できる社会。
		福島原発事故を教訓にして自然エネルギー(太陽光発電)に変える必要があるのではないかと。普通の生活が全部壊れてしまい、安心安全の生活ができなくなる。
		災害に対する安全を確保するために、災害への備えや災害に対する安全性を高める。災害に備えた体制が構築される社会。
		中山間地の棚田が水を貯え、森林の間伐が成され、育まれた水が海へ注ぐ自然界の法則ができている社会。
	女性	市町村によって、リサイクル等一本化してない。ゴミが多すぎるので、ごみのリサイクルを行う。
		きれいな空気、安心して飲める水、農薬の心配のない食物のある社会。
		ゴミの量を減らし物を大切に使う社会。
		人間が暮らしやすいのではなく、虫や花や魚などが生きやすい社会。
		猿や猪などがいなくなれば良い。
		アスファルトを水を吸水する舗装にしてほしい。
70代以上	男性	長に立つ人がリードして守ること。
		ミカン等を生産していた畑・山の耕作地が、現在荒れ地となっているため、山野に植林してほしい。
		PM2.5が一番心配だが、防ぐ方法が見当たらない。もっと世界中に訴えるべきである。
		原子力発電や化石発電が昔話になっている社会。
		公共の河川で土砂等が堆積していても管理がなされておらず大雨等の時は危険である。
		個人、地域、自治体が協力、情報の一元化など一本化すること。
	女性	緑や森林に「手がかけられている」と感じられる環境。
		道路にタバコの吸いがらやごみのない社会。またゴミの分別、仕分け、燃えるゴミは家庭で焼却しない。
		酸素が不足しており、草や木を増やしてほしい。贅沢しすぎて、ゴミが多すぎるのでリサイクルしてほしい。除草剤をなくして草刈機にしてほしい。
		自然公園を蘇らせる取組みをボランティアで頑張っ完成に近くなっている。やればできる。すべてボランティア精神である。

(5) 「安全・環境」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容
20代	男性	有明海の開門問題は不可解なのでもっと国民が理解できるよう説明して解決してほしい。
		警察はパトロールを増やした方がいいと思う。
		費用もかかるし、環境にも良くないので、ゴミ袋をもっと小さくし、生ゴミをなるべく出さないで堆肥化する。車に大人がなるべく乗らないようにすべき。
	女性	佐賀の人は、災害への防災意識が大変低いと感じる。もっと、地域をあげて災害訓練等を行うべきだと思う。でないと、万が一の時に何もできないと思う。
		交番がすぐ近くにあるのに暴走族がいつも走っている。どうにかしてほしい。
		環境活動をもっと活発に行い、県民の意識を変えてほしい。

年代	性別	内容
20代	女性	原発をなくそうとする意見も多いが、実際日本は、原発がないと生活できないし、原発に見合った物もまだないので、絶対に原発は必要だと思う。
30代	男性	性的犯罪を防止するためにパトロールの強化をすること。
		エネルギー面でその他、嬉野・武雄・古湯温泉などの地熱エネルギー等、素材を活かすことも必要である。
		原子力発電の問題を1番に考えてほしい。
	女性	海岸に砂を入れ続けてほしい。アスファルトを遮熱性舗装にしてほしい。
		原発の再稼働を切に願います。
		歩道がない道路が多いので、歩道ができると安心して歩いたり、自転車に乗ることができる。
40代	男性	みんなが、早く情報を取得できる環境を整えてほしい。
		安全でいえば、食品の安全性もっと、検査を厳しくする必要がある。環境では、原子力発電を少なくして、もっと安全な資源エネルギーの活用、太陽光発電や水力発電、風力発電、地熱発電などの発電をもっと研究し、活用が必要である。原子力発電は100%安全ではなく、使用した核燃料の処分方法が安全ではないので、ダメです。
		自然エネルギーへの補助を拡充すべきである。
	女性	様々な分野の専門家の意見を伺い、何が正しい情報なのかを精査しなければならない。
		原子力を制御できないことも自覚すべき。人間は弱い。もっと謙虚に。
		水、土壌など、もっと積極的に検査を行ってほしい。情報が少ないと思う。
何か災害あった時、受け皿となりえる物だと思うので、ある程度自然を残した環境づくりが必要ではないかと思う。		
車の交通マナーの悪さがひどく、横断歩道で歩行者が立っていても止まらない。たまに止まった車があっても反対車線の車が止まらない。あげ句の果てには、止まった車に対して後続車が警笛を鳴らします。運転者には、歩行者が存在していないという前提で運転しているとしか思えない。		
水害に毎年のように悩まされ、多い年には2～3回浸水被害にあったこともある。100%自然災害ではなく、人災でもあると思う。		
原発0で再生エネルギー等でまかなえる社会。		
50代	男性	県又は市で、道路の管理専門組織し、道路の草刈等を計画的に行うべきだ。今の県、市道は非常に悪い。
		資源の活用においてリサイクルされているが再リサイクルのシステムが消費者に伝わってこない。ペットボトル等は何回リサイクルされているのでしょうか。
		PM2.5や光化学スモッグの減少のための対策をしてほしい。喫煙者は少なくなっていると思うが、肺がん患者が増加していることが心配である。
	女性	イノシシ、サル等の動物が増加し、町へ出没が目立つため、保護対策が気になる。
		他人事として知らんふりしてしまう人が一人でも少なくなる世の中が良い。あいさつを交わすだけでもいいから、とにかく人とかかわって生きてほしい。
		エネルギーを大切に使うこと。
		農家ではまだまだ野焼きで稲や麦を焼いており、臭いも残る。野鳥の害も多く、カラスのゴミあさりはいつまでたつてもなくなる。網も使い方を知らない人が多く、効果も少ないようだ。
		広大な平野なので太陽光発電や風力など再生可能エネルギーによる発電が可能である。
		山にはいろんなゴミ、道路には空き缶やゴミが捨ててある。捨てている人にはゴミ拾いのボランティアをさせるべきである。
		佐賀は大水に弱い。電柱地下埋没は街の美観のほか、地震・台風に対して有効である。
玄海原発について反対運動すら起きない、第2の福島にはなりたくない。子や孫に安全なエネルギーについて予算を作り、原子力発電をストップさせてほしい。誰も「想定外」でないと保証できる人はこの世にいないのですから。		

年代	性別	内容
50代	女性	我が地区は玄海原発30km圏内のため、大変不安です。緊急事態の場合の避難場所・避難方法等がまだ明確化されていませんし、家族内でも話し合いをしていません。必要だと思っています。避難については漠然としています。場所とルートをはっきり表してほしいです。
60代	男性	山林の乱開発による、台風や大雨の際の大災害(地すべり等)を防ぐ重要な政策を早急に行う必要がある。
		安全にしても環境の保全等についてもあまりも不用意に行動しているように思う。少し考えればと思うことが多々ある。
		自然災害を見通した地域開発を行う必要がある。
		防災計画は大きく二つに分けてすべきと思う。風水害等と原子力災害は違うと思う。
		原発再稼働に反対ではないが、福島原発が始まってからの議論だと思う。
	女性	ゴミの不法投棄ポイ捨て等について保育園、小学校、中学校など子どもの頃から実態を知り対策を考えるような教育も必要ではないか。
		災害時等についてのマニュアル等は作成されていて広報や新聞等でよく見るが、現実に自分の身近で起きた場合、行動ができないと思うので訓練も必要だと思う。
		高齢者が車の運転をしないでも生活できる環境づくりをしてほしい。
		太陽光発電を設置する費用は何百万とかかるため、太陽光発電の補助金があったらいい。
		例えば、食品トレーのリサイクルをしているが、トレーの大きさが個々に違い、しようと思ってもやる気がなくなってしまう。消費者ばかりに言わず、企業ももっと形を揃える等やりやすいようにしてほしい。
70代以上	男性	社会生活における人に迷惑をかけないルールづくりが必要である。
		自然環境の実態と管理の必要性を学校教育(ハイキング等)で認識させる。
		農家は農業以外での焼却はしないように徹底する。
		国が進めている原子力発電所について放射能を日本全国に撒き散らしていいものか疑問に思う。
	女性	現在全国を旅して車窓から眺める河川で筑後川程汚い河川は見当たらない、災害対策や生活水準の向上のためいろんな施策が講じられたことによるものと思われるが、どうにかならないものだろうか。
		サルなどの野生動物が多くなりすぎて農作物の被害が多くなっている。

5. 「産業」分野

(1) 「望ましい農林水産業の姿」とは

年代	性別	内容			
20代	男性	若い人達をもっと農業に参加する。もっともっと田んぼを増やし、みんなで力を合わせて農業を行う姿。			
	女性	もっと佐賀ブランドに自信を持って多方面に打ち出していいと思う。			
		道の駅が多く農林水産業をやっている人達がイキイキしている姿。 農業が世代をつなぎ、豊かな農産物が次々と生まれる姿。また、その農産物を喜んで消費者が受け入れ必要とする循環が整う姿。			
30代	男性	県と市が、しっかり営業すること。下手過ぎる。 地産地消が当たり前のように行われている上で、他県でも高く売れている状態。			
		6次産業化の充実。生産、加工、販売までを一農家でできれば、生産法人も増えるし活性化につながる。 地産地消もそうだが、もっと外への情報発信があったほうがいいと思う。			
		企業の農業経営参画で耕作放棄地の有効活用と雇用の拡大。国産材使用で森林の再生、養殖技術の振興と後継者づくり。			
		地域の食材を地域の人で消費し、満足できること。 農業・林業の後継者をもっと、出てきてくれるような環境を整備してほしい。			
	女性	農林水産業で一家を養えるだけの収入があること。 田舎の地方では、山の木が手入れが進まず、道に倒れてきそうな木や、溝の中に木の葉がつまって、水があふれたり、壊れている道も多いので、整備をもっといきわたらせる。			
		40代	男性	都市部からの潜在的な農林水産業従事希望者を佐賀によく惹きつけられるような策を練ってほしい。第1次産業がこれからの豊かな暮らしのベースになるようなアイデアと工夫を彼らは生み出すはずである。 収入や生産業等の不安定化をなくす姿。 作り育てる漁業をもっと推進する必要がある、唐津で循環型の漁業モデルを作るべき。	
				女性	野焼きをやめるよう条例を作るべき。外に洗たく物を干せない。 農業のしやすい環境と生活しやすい環境は違う。エリアをもっと分けるべきだと思う。 地産地消を大切に、他県からも佐賀の商品のよさを知ってもらって佐賀ブランドの向上がはかられていること。若い人が佐賀で農業をやってみたいと思えるようなビジョンがあること。 せっかくいい産物があるのに他に売ってしまい、地元での消費があまり行われないので、佐賀ブランドさえ知らない人がいる。時々県内の産物の販売をイベントとして行ってほしい。 食料は作る人がいなくなったらくらしていけない大事な物なので、安売り合戦するべきではないと思う。 県産農産物を手頃な価格で安心して買いたい。 他の会社同様、農業、林業、水産業を営む人々もビジネスとして経営する力を養うこと、補助金をあてすぎてダメにしている。 梨や伊万里牛などのように、「〇〇といえば伊万里」と言え、その仕事に従事していることを誇りとして自慢できること。
					50代

年代	性別	内容
50代	女性	魅力があると、若手が頑張っ活気が出てくると思う。
		田畑のオーナー制など工夫されたものはない。地域おこしのB級グルメの祭りなど商工観光課に発想豊かな民間人の起用などをしてほしい。
		高収入と自給率について国民が理解している姿。
		農林水産業を企業経営化したら、担い手の育成確保と雇用の安定が両立するし、インターネット販売で成功している企業もある。
		将来、TPPで関税が廃止された場合、日本の農業が生き残れるシステム作りを考えた、安全な食が守られる姿。
60代	男性	将来、若者たちが、農業に対する集落、地域ビジョンを考えやる気を引き出すため県は営農に対して力を入れてほしい。
		それぞれ農業、林業、水産業を職業として生活ができること。それにはそれぞれ、魅力がなければならない。創意工夫をしながら収入のある第1次産業を展開すること。
		輸入に頼り切っている農産物等があるのに田畑は荒れ放題。規制があり過ぎ、政府の政策にも問題がある。
		山は荒れ道路には車が通れない程草が生い茂っている。森林整備ができるよう、人員が必要である。
		里山の機能が回復された農村。
		林業経営者が少しでも生活が潤うように県林等利用の拡大をしてほしい。
	女性	今からの若い人達が農業、漁業について生活をしていけるような賃金体制をとっていかないと誰も後継者にはならない。
		休耕地に補助金を出さないで都会から来た人達を斡旋してどんどん農業をしてほしい。
		若者が農業や水産業をやってみようと思うようなイベントを地域で行う。
		地元の安心安全な商品を地元はもちろん全国の消費者にも知ってもらうこと。
		県内には農林水産品が沢山あるが知名度が低く残念。〇〇狩り等採る食べる加工品等の販売所の設置など、PRを重点に置き広く伝えるべきである。
		海の水をきれいにするには、山の水がきれいで海に流れるような環境が大事である。
		用水路の整備は、一般生活においても、また農業においても大変重要なことである。
安心して食することの大切さが多少失われていると思う。生産物が安いから農業離れが進んでいるのだと思う。		
70代以上	男性	木材の需要を促進すべきだ、外材をもう少し制限すべきではないか。
		農業も市町村単位で企業化し、若い人の働く場所としてほしい。
		TPP対策を勉強してもらう機会を設けて自立できる対策を研究してほしい。
		なるべく農薬を使わない米や野菜作り。
		TPPで工業と農産品を同じ土俵の上で話し合うことは無理である。自給食糧50パーセントを守ることが大切である。
		専門者でなく県内外の実務経験者を募ること。
		ブランド力のある農業生産により高収入が得られ、若い人に就労の意欲を起こさせる農業。
		やる気のある活気のある農業にするため、道の駅等で売る野菜果物等、現金になるものを作る。
	中山間地をはじめとする、いわゆる耕作放棄地を少なくし、活用する。	
	女性	農業で生活できる状態にしてほしい。米の価格が安すぎて生産者は生活できなくて工業のほうに就職して家を離れてしまっている。そして田んぼは減っている。もっと田んぼを増やして農業を活性化してほしい。
化学肥料はできるだけ姿を消してほしい。		
農業も会社組織にするしかない。		
		色々の野菜を作っても(イノシシ、アナグマ)等に食べられずに、安心して野菜等を作ることができる環境整備。

年代	性別	内容
70代以上	女性	材木を多方面に活用し山がもっと潤えばいいと思う。

(2) 「望ましい県内企業の状況」とは

年代	性別	内容
20代	男性	他県との協力やアピールをして佐賀県の良い所を知ってもらおう状況。
		県内企業は県内での需要はもちろんのこと、全国や海外へまで発展すべきだ。またアジアに近い地域なのでもっと佐賀から発信すべきだ。
		各地域に必要な施設をもっと増やすこと。
		市や県からの仕事を企業にもっと多く依頼すべきである。
	女性	佐賀県の人々が県外ではなく、県内でたくさんの方が就職し、仕事ができること。
		新しいお店だけでなく、昔から続いている店も大切にすること。
		テレビを見ていて佐賀の素晴らしい企業が紹介されている状況。
		経営者が消費者の希望に答え、そこで働く労働者も満足できる仕事ができる。消費者も多くの企業を必要とし、利用することで活気づく状況。
30代	男性	県内にどのような企業があるのかを知らせ、新戦力化を図ること。
		企業の各分野への積極的な行動、発想を持ち活況ある風土づくり。
		皆が県内で消費したいと思うお店、企業が多くあること。特産品をもっとPRして、世界へ進出すること。
		利益を出して雇用が安定しており、地域に奉仕する企業があること。
		県内で生産される物の特色を活かした、暮らしや、物づくりができる企業が増えること。
	女性	商店街など、街の中心に活気がある状況。
		佐賀から世界を虜にできる魅力ある物を作ってほしい。
		田舎の方は企業がないため、通勤に時間をかけて市内に行かなくてはならないので、県内にまんべんなく企業がある状況。
		若い人が進んで就職できる状況。
		他県の大手企業にばかり活気があり県内の中小企業の支援が少ない、県内の中小企業が活気ができるようにもっと力を入れてほしい。このままでは佐賀県の企業がなくなってしまう。
		県内の企業誘致が少ないもっと増やして、活気を出す。焼き物などをPRしていき、全国的に売り込み、もっと販売する場所を増やすための働きをする必要がある。
40代	男性	佐賀に企業をもっと誘致して若い人が働ける場が必要である。
		もっと佐賀の特産品を県外へアピールしなければいけない。
		次の時代を担う全く新しい産業の形とは何なのかを、佐賀の英知から導き出せると思う。
		ある程度選抜された中小企業に対し、個々の強化策を検討すること。
	女性	昔からある物をブランド化し、大都市に売りこむことのできる企業やITに強い企業が多数ある状況。
		車で大型店に買いものに行くことが多く、地域の店とのつながりが薄いため地元の店をもっと大切にしていこう。
		若者が県内で就職ができるように企業をもっとあればいい。
		地域のお店が元気であってほしい。
	企業誘致した後も佐賀県に企業が根付く対策を行うこと。他県に比べ県は人件費・土地代が安いので、企業誘致はしやすいと思いますが、その後が続かない。	
50代	男性	正社員で常用雇用で安定した企業を増やすこと。
		街なかの小商店は人口減などで活気がないので、郊外大型店を規制すべきである。
		企業誘致へ使う予算があるなら地場産業を振興し地元採用を増やしたほうがよい。

年代	性別	内容
50代	男性	中小企業がしっかりとしている社会。
		大企業でなくても、全国、世界から注目される特色ある企業が県内に増えること。
		県内の企業誘致を積極的に図り、雇用増加して、県外流出をさげ、環境整備を行なって住み安い県にすべきだ。
	女性	もっと企業の誘致に力を入れてほしい。
		有田焼、古伊万里、伊万里牛、七賢人の偉業、発想膨らませて、今あるものをもっと知らしめてほしい。佐賀は誇りである。
		従業員の差別をしない、個人の性格を生かしてほしい。
		若い人をどんどん雇い入れられる状況。
		企業の誘致は雇用の促進につながるが、それは地元の中小企業が苦しくなる危険性もあるので、中小企業が活気をもってやれる支援を考えてほしい。
		大都市へ若者が集中しないで済むように、地元でしかできないブランド力を生かした企業の掘り起こしを行う。
60代	男性	もっと販路を広げて、儲けて羨やましがられるような企業や事業がある状況。
		企業の特性を活かし、地元の社員雇用を優先し、地元民から認められた企業で、県外、国外とも競争できる企業であってほしい。
		大企業のグループを誘致し、その恩恵を中小企業が受けること。
		特色のある企業、魅力のある企業、努力ある企業等々で従業員が元気なこと。やりがいを持ってること。
		東京墨田の中小企業、大阪堺の中小企業の様な特色ある中小企業の育成を県内の何ヶ所で集めてしてほしい。
		地域の特性も活かした、生産商品開発を行う企業の育成や誘致が必要である。
	女性	中小企業への支援をもう少し手助けしてほしい。
		シャッター通りについて、官民一体となった活用を考えるべきである。
		商工団地ができてパートの採用は増えているようだが、若者の正社員としての採用を多くすること。
		有給が十分取れて、外国旅行等にも行かれて、途中入社もどんどんできるようになったら良いと思う。
		高速道路、鉄道、空港そして広大な土地を利用して、優秀な人材が佐賀県内に留まるような企業が誕生すること。
		企業誘致などにより若者の県外就職が少なくなり佐賀県での企業で活気あふれる状況。
		空港から各市町村への交通アクセスを向上し、佐賀空港を活用した大企業を誘致してほしい。
70代以上	男性	他県への労働人口の流出を防ぐために製造企業の誘致が必要である。
		世界のなかで冠たる物作りを行うこと。
		地元雇用力の大きい活気ある企業であること。
		強みを生かした新分野へ積極的に挑戦すること。新規事業(第二創業)へ挑戦すること。
		所詮、農業県であり、企業誘致に限度がある。もっと大学に活力を生かさせ「バイオ」など農業県から得られるエネルギーを開拓していけると思う。
	女性	一つの産業でなく、多産業が協力して集客してほしい。
		誘致した企業が当地区で就職を希望する全員を採用できるような状況。
		県で考えながら会社でも作っていくこと。
		若者が地元に残って働く企業が増えること。

(3) 「県外の人にとって魅力ある佐賀県」とは

年代	性別	内容
20代	男性	魅力的な物はたくさんあると思うので、観光事業を徹底すること。
		佐賀にしかない物がある。他の県と比べて優位(日本一の〇〇とか)なものがあること。
		自然が損なわれることなく緑豊かな中で心の温かい人が住む伝統を重んじた佐賀県。
		「そんなふるさどがあつてうらやましいな」と思われる県。
		佐賀は特産品があるので、まずは佐賀県の認知度を上げる。
		県内でいくらがんばってもインフラがなければ意味がない。
	女性	住みやすく、食べ物がおいしくて安全。安くて宿泊でき、観光地も多く、活気があり、茶などの名産品を使ったオリジナルのお土産を考える。
		歴史も食文化も、とても魅力はある。
		食べ物がおいしいこと、魅力ある観光地であること、佐賀移住での特典や佐賀だけの強みなどを、今の時代に合わせて県外に発信され続けられれば、目を向けて頂けるのではないかと。
		県外の方が佐賀にもう一度来たい、まだ遊び足りない、と思われること。若い人にもっと来てほしい。
		緑豊かで、自然を楽しめる県。また、バルーンフェスタや唐津くんちなどイベントもあるので、その魅力も知ってほしい。
		おだやかでゆっくりと時間が過ぎていく佐賀県。
30代	男性	「人」「食」「自然」だと思う。県外の方は佐賀をとてとても良いと言ってくれる。
		他県にはない特別などころを持ち、日々進化している佐賀県。
		せめて、佐賀県がどこにあるかを知ってもらおう。認知度が低すぎる。
		食など、低い価格で楽しめるものが多いこと。
		商・工・農どの分野においても1つ1つの素材を積極的にアピールする佐賀県。
		目玉の県産品や観光地がありそれを目当てに観光客が来るような県。
	女性	ゆるキャラに頼らない魅力のある県産品のある佐賀県。ゆるキャラはいらない。
		お休みを取ってでも観光に来たいと思える所があるとよい。佐賀平野を生かすことはできないのか。
		何も無いのがかえって魅力。自然なものは変に整備しないほうがいい。
		食べ物が美味しい佐賀というイメージが定着していること。ここにいけば〇〇がある、という知名度がほしい。伊万里なら伊万里牛は知られているが、他にも各地においしいものがたくさんあるので、地名+産物で宣伝して欲しい。
		美味しい物がある。田舎ではあるが住みやすいこと。
		佐賀に歴史、文化、産業など、日本に世界に誇れるものがたくさんあるので、1つ1つの伝統を大切につなげてほしい。
女性	本州とも行き来が便利になること。駅周辺に大きな商業施設、それも日本で一番大きく広い施設があり、大学も数を増やし土地の改革もしていく。山近くは畑や田や森を残しておく。若者が集まる所には人が増加していくと思う。	
	安全な風土、米や農産物等がおいしい。物価が安いこと。	
	佐賀県といえば温泉だと思うので、温泉街をクリーンにしてゆっくり休むというふうにしてはどうか。自然豊かなので佐賀はそれが一番。	
	九州＝佐賀と思われよう人、もの、場所があること。	
	唐津くんちやバルーンフェスタ等は、県外の人にも凄く人気があるので、時期をずらして観光客をもっと増やしてほしい。食べ物も美味しいし、暮らしやすいところを知ってほしい。	
	佐賀県は、歴史的に古く、焼き物の県で、もっと焼き物をPRすること。また、観光する場所を増やして、旅行に来ていただいた方に県産品を味わってもらい、また佐賀にこよと思われイベントを作る。イベントが少なく、また、PRも少ない。	

年代	性別	内容
40代	男性	住みやすく、暮らしやすい県
		考え方や求めるモノが多種多様な世の中なので、「佐賀県しかない」とか「佐賀県ならではの」モノが県外の方に受入れられればそれは魅力ではないか。
		都会のイメージは福岡にあるので、ゆっくりくつろげるイメージをアピールしたほうが、地域(温泉のみや文化のみ)等単体でのアピールが強いので、県ぐるみで共有すること。
		佐賀と聞いて即、答えが返ってくること。
		通りがかりではなく目的地となる佐賀県。
		田舎の良さが残っていること。
	女性	佐賀県は自然豊かで、災害が少ないこと。
		「佐賀＝田舎」ではなく「佐賀＝自然が生きてる素敵な田舎」になると良い。
		佐賀は平地なのでマラソン等がしやすい。さが桜マラソンが成功したのなら、もう少し観光としてのマラソンブームがあれば良いと思う。
		九州の中心商業地博多から比較的短時間で唐津・背振山周辺に足をのばせる。自然と緑豊かな山間部、広い空が続く佐賀平野で都会とは違う時間の流れを感じられる。癒される。
		適度な人口で、緑もあり、県庁付近に集まった公的機関と治安の良さ、坂の少なさ、広さがあり住みやすいところ。
		住みやすく、文化や歴史も含めて佐賀のよさがもう少し明確に伝わるような街であること。
		県内独自のブランドをつくる。
		泉質のよい温泉がありながらPRが少ない。
50代	男性	2、3回と何回でも熊本のように行きたくなる県。常に新しい観光があり、進化している。
		観光立県をめざすのではなく、何もないことを魅力とすべき。
		個性的なイメージや何かがあると思われるような佐賀県。
		佐賀の食(肉、魚、米、野菜、果物)は、他県に優るものばかりなので、このことを伝えることがうまくできたら良いと思う。美味しい食物と文化と自然が佐賀の魅力。
		自然を大切に、動物や人に親切で優しい人々が多い県。
女性	名物、つまりは美味しいものがあるところ。	
	田舎の良さを堂々とアピールしていいのではないか。	
	全国の人が佐賀県を知ってもらうには品質の良い物売り上げること。	
	嬉野温泉や古湯温泉は、もっと県が力を入れて、草津温泉などのようにしっとりした一大観光地にしてはどうか。温泉地の素敵なおところは良い。	
	佐賀にしかない、佐賀に来ないと経験できないものがたくさんあるような状況。	
	県内の人が佐賀県に魅力を感じていること。自信を持っていること。	
	自然が豊かで災害が少ないこと。	
	住みやすさ、都会にない落ち着いた生活が魅力だといいたいのので、高齢者の住みやすい県にしてほしい。	
一度訪れたら、また行ってみたいと思う場所になるため、他の人気ある所を研究し、訪れた方を心よりもてなす。来て頂いてありがとうの気持ちが大事である。		
60代	男性	全国でも「佐賀県」という県名が聞かれるようになった。果物も有名であり、牛肉も最高に美味しいのもっとPRに出向いて行くべきである。
		佐賀のイメージは田舎という感じだが、それを払拭する食品、スポーツ、教育等、全国一が欲しい。災害が少ないということ。

年代	性別	内容
60代	男性	由布院みたいな温泉地を目指し、アイデアいっぱい、住んで楽しく、観光客が通りすぎない県。
		都会の人から見ると佐賀県を知る人が少ない。まずは知名度を上げるPRが必要である。
		まずは”おもてなし”がしっかりしていること。①どこに何がある佐賀のイベントなど案内ガイド(観光ガイドなど)があること。②空港・新幹線の周りが栄えていて機能していること。
		自然環境をフルに生かした、中・長期滞在型の設備を整える。他県とはひと味違った観光地づくりを行うこと。
		保育園、雇用が良いなど、子育てしやすく、女性が生活しやすい県。
		感動や記憶に残る様な観光地にする。
	女性	食、治安、人柄のよい静かな場所。
		景観などで癒しの地である。
		住みやすさ、物価安、きれいな自然。交通アクセスの良さ、子どもを安心して育てる。大人にもやさしい街。これらが進み改善できればうれしい。
		もっと地元の人々が協力して知恵とアイデアを出し合い努力して頑張してほしい。
		都会での紹介が足りない。アンテナショップがないのはどうかと思う。
		まだ自然が残っているし、すばらしい温泉もたくさん有るので、もっともっとPRしてほしい。
		まず佐賀県の場所を知らない人が多すぎる。インパクトのある方法でまず佐賀県を知らしめる。
		PRが不足している。県、市地域でのまとまりがない。四季折々で地域の観光をまとめ集約性を持つほうがよい。
		佐賀の魅力は自然です。何も無い広々とした平野、壊されていない自然、これを売り込んでほしい。
		田舎という印象が強いのでバルーン大会のようなもっと県外の人に知れ渡るようなイベントができればよい。
		「佐賀県ってどこ」と言われないようにお隣の福岡、長崎に負けないように有田焼以外にも特産品を方言などでアピールする。
		まずは、地元の人にとって魅力ある県にすべき。
住みたい、住みやすいエリアを設け、スポーツ、文化に富み、佐賀を起点に活動する人材を生む。米、ミカン、苔、佐賀牛、清酒など県産品に美味しいものがいっぱいあるところ。		
自然に恵まれた水・緑の豊富な県。人情味のある土地柄。		
70代以上	男性	食べ物が新鮮で子どもを育てに適して総てに安全な県。
		福祉が充実しライフラインが整い、生活がしやすいこと、町が輝いていること。
		佐賀の米、嬉野茶、白石たまねぎ、れんこん、佐賀牛などブランド商品として確立すること。
		県内観光地をネットワーク化し、もっと積極的なPRをしてほしい。
		都市や海外にくわしい人を県内より選出すべきである。
		最寄りの大都市から日帰りの距離にあり、交通網も至便。自然と農水産業や窯業等がリピーターとして体験できる。
	女性	地味な県のイメージが強いが素敵な所は沢山ある。もっとアピールするべき。四季を通して楽しめる観光、食べ物などもっともっと知ってもらい、またきたいと思ってもらえる様にしていけるべき。独自でなくても隣県と協力して方法を考えるのも一つの方法だと思う。
		自然環境はもとより文化、遺産、伝統、県民性。本物は多い。人情が豊かである。
		都市化していない。自然が豊かである県。
		佐賀県には県外又は外国の観光客がよるこんで足を運ぶような観光スポットが1ヶ所も見当たらない、目玉になるような観光スポットの開発を考えるべきである。
		佐賀県は広々とした田んぼのイメージが強く、都会から来た人は広々とした所を見て気持ちがすっとすると言われる。
		海苔の養殖の産地だと思う。

年代	性別	内容
70代以上	女性	佐賀県は観光地が多く特に温泉に魅力があると思う。
		名産品、名地はそれぞれあるが、それが佐賀県と結びつかない。アピールの仕方に工夫が感じられない。
		佐賀県は県外の方にはあまり知られていないようだが他県にないすばらしい物も多くある。有田焼・唐津・バルーン・吉野ヶ里等大いに宣伝したい。

(4) 「産業」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容
20代	男性	もっとえびす像や県内産の食品をアピールする。デザイナー、プロデューサーに依頼し、おしゃれな全国や海外に通用するものに変身させなければいけない。
		佐賀県産の良い商品が沢山あるのに知らない人が多いので作業の過程や生産者の紹介する場を増やす。
		自然を活かした娯楽施設、またそれを認識するための交通インフラに力を注いでもらいたい。
		産業の後継者を多く作るために若者が残りたいまちづくりや利点を与える。
	女性	電車を利用して行けるところに若い人が楽しめる場が少ない。車がないと、どこへでも出かけられない。
		せっかくおいしい海産・農産物がたくさん獲れる環境にあるのに、それをアピールする力があまりないのが残念。もっと県内外の人達に知ってもらえる工夫をしたほうが良い。
30代	男性	どこにも負けない産業プロジェクトを実施すること。
		ビジネスマッチング、商談会がカギ。行政から数多く場を提供すれば必ず良い方向にいくと思う。
		観光地の整備と点と線を結んだ観光ルートのPRが必要である。
	女性	産業佐賀は、他県にくらべて、産業では認知度が低く、もっとPRが必要です。歴史的産業が衰退しているので、もっと文化的、歴史的を利用し、伝統工芸に力を入れメイドイン日本で、外国に輸出するべきである。
40代	男性	人口が増えると産業が活性化するのではないかな。
		佐賀県の一番やるべきことは雇用対策である。
		ネット環境の整備が重要である。
		一部のグローバル企業ばかりに富が集中する消費税には県として徹底的に反対してほしい。日本の雇用の中心である中小企業を守らないと地方は衰退するばかり。
	女性	佐賀は田舎で何も無いというイメージだが、関東に海苔を送ると感動されるなど食べ物に関しては優れたものに恵まれていると思う。米・肉・酒などもっと上手に売り込むといいと思う。
		自然の豊かさを保つため空気をよごさない産業がさかえると良いと思う。
50代	男性	観光地はいろいろあっていいが、駐車場が少なすぎて行くのをためらうことがある。もう少し無料で駐車できる場所があれば皆行くのではないかな。
		佐賀一県でとらえず、九州全体で見ると、地産地消、観光、全てにおいてとてもバランスが良いと思う。
		せっかく優良企業やその土壌があるのに、その分野での専門知識を活かしきれていないので、もっと、九州内の範囲まで視野に入れて研究と企業の提携を考えてみてはどうか。
		あまり競争しなくてもいいと思う。これくらいで、いいのではないかな。
安心・安全・新鮮な食材が豊富などをもう少し県外の人にPRしてはどうか。		
佐賀県のよい所、他にない特徴が活かされていない気がする。		
佐賀県は農林水産を基盤とした第1次産業県であるのに、その基盤が揺らいでいるように思う。		
社内旅行、同窓会、女子会等、県内、県外の人向けに美味しい佐賀の食事＋プチ観光ができるツアーの企画があったら良いと思う。		
県外流失を防ぐため、雇用確保を最重点で進めるべきである。		

年代	性別	内容
50代	女性	県産品のブランド化をすすめるとともに、どこで入手できるかを明示する。各市町村のHPをみれば、おすすめの商品と共に入手時期、入手可能なネット販売業者へのアクセスができるようにする。官民連携した活性化につながる。
		県内の企業だけでは限度があるので、県外からも誘致をして活気ある県をつくってほしい。
		タクシー会社と提携したり、安い価格で利用できる小型バスをなんとか整備してほしい。
		原発事故以来、関東では安全を確保するため、ネットで購入する人は増えています。県内大豆加工品の味を関東向けに変えるなどすると、一気に市場は拡大すると思う。
		米・フルーツ・牛肉は県外に進出してほしい。ゆるキャラも頑張っているようですし、ゆるキャラを使ったグッズの考案をしてみてください。
60代	男性	食文化を発展させ、長崎街道の砂糖文化博覧会開催する。また、佐賀空港を中心に道路整備し、都市への利便性を高め、海土交通とのマッチングを行う。
		佐賀の農業は継続に悩んでいると思う。全国に先がけて改革できるよう次世代の若人が引き継ぎできるような早期の育成を望む。
		恵まれた農水産物が沢山あるので、これらを更に全国区に押し上げる営業活動を全県で強力に活動する。
		農産物直売所が増えている。私もよく利用する。こういう生産者から直接、消費者へという形が増えていいと思う。
		大企業誘致より佐賀県の特色、持ち味の農林水産業の更なる充実発展に一極集中することを望む。
	女性	おいしい物を安く、安心して、満足する所がない、わざわざ他県まで出掛けて満足して、帰って来る。努力が足りない。
		最近テレビ、他で佐賀県の事を色々目にする。これからは認知度も少しずつ上がってくるのではないかと思います。
		地元で就労できる企業がないので、働ける場所があれば若者も残るし、地域が活気付くのではないかと。
		佐賀県の知名度が低いと思うので農産物、観光を宣伝してほしい。
		佐賀県人がもっと誇りを持つことが必要である。
交通の要所でありながら、通過県に甘んじている様に思う。地理的有意性を生かした取組みが欲しい。		
70代以上	男性	観光も、吉野ヶ里をもっとPRすべき。有名作家に吉野ヶ里＝ヤマタイ国の本を書いていただき、テレビドラマ化するなど。
		県内で生活している人口を増すために、土地の住み分けなど農業と企業のバランスを取る必要がある。
		有田の陶器市、佐賀牛、呼子のイカ、吉野ヶ里、嬉野温泉、蕨野の棚田、波戸岬、七ツ釜、いろは島等々いい所やおいしい物も沢山あるし、他県に劣っているとは思えない。
		生産地を積極的に紹介していくことも大切である。
		個人農業を集約して企業化させ、雇用につなげる。
		農家の私達には家をついでくれる若者が減っている。若者達が残って頑張ってくれるような行政を行ってほしい。
	女性	本県の道の駅は地場産品が少ないので集客力が弱い。観光業を「唐津供日」や「有田陶器市」のような一過性でとらえずリピーターとして体験してもらう必要がある。
		国策で器を使う食事を奨励し、安全で強く美しい陶器の文化を強調してもらいたい。
		嬉野温泉や呼子のイカなどもっとPRしてほしい。
		農水産地に恵まれていると思うが政治力が足りない。

6. 「雇用・労働」分野

(1) 「望ましい労働環境」とは

年代	性別	内容
20代	男性	中小企業では、経験者しか採用しない場合が多く、経験のない非正規や職歴のない者でも働ける環境ができること。
		家庭に入った女性が再就職するのが難しい。封建的な土地柄がそのまま表われている。加えて高齢者も含めて働きたい人がすべて働ける環境。
		働きたいと思う人が誰でも一定の試験を受けて会社の正規社員で働ける。
		企業の受け入れが少ない。若い人が働ける所がもっとあれば県外へ就職することもない。
		ニートでも働く技能が身につけられるような施設があること。「働かないと生きられない」と思い知らせないとダメ。
		第一は人間関係が良好に保たれる。女性も高齢者も働きやすい条件。社員を大切にする。労働条件を会社は守る。
	女性	職場が子を持つ母親に理解があり、急な休みなどに対応できる。
		企業側が、今の世の中に合った企業形態に変えることも必要だと思う。特に個人経営は世間知らずが多い。
		就きたい職、住みたい場所がそろっていること。
		能力に左右されず、やる気のある人を雇用している状況。
		若者は、粘り強くやりがいを感じる仕事につき、子持ちの女性は、子どもを安全に育てつつ希望する時間内に働ける環境。
		仕事ができるのであれば、給料をあげるべき。サービス残業をなくす。 有休などの使用に理解があり、みんなが元気。サービス労働がない。
30代	男性	能力、経験もあると思うが、差別なく労働ができること。
		長時間残業が少なく健康的に働ける環境。
	女性	女性の場合、家庭との両立が必要となるため、男性にも同じ状況で子どもに対する休みの取得がしやすくなればよいと思う。
		妊娠してお腹が大きくなると、お客様に迷惑がかかると言われ退職を以前させられたので、子どもが産める安心の職場があってほしい。
		子育てをしながら仕事をする時、周りのフォローがある環境。まだまだ理解されておらず苦しい状況です。
		障害あり、なしに関係なく企業すべてにチームで仕事ができる環境であってほしい。
		非正規雇用が増えているので、正規雇用での就職先が地方にも選択肢が増えることが理想的だと思う。
		転職することが悪いことだとは思わないが、何度も職を変えずに少しは一つの所で頑張れるような環境。またはそういった人材の育成。
		土、日、祝日完全週休2日制。昇給、賞与が毎年ある会社。
		正社員の中でも長時間、短時間など、一人ひとりのライフスタイルに合わせた労働環境や子どもが病気だったり、家族の介護など家族の状況にも合わせた労働環境。
40代	男性	私も理由がありUターン組ですが、まず定職につくことがなかなかできませんでした。年齢の問題(就活時48歳)もありましたが、これだけ仕事を選べないとなかなかUターンの人数は増えるとは思えません。
		お互いのニーズに合った労働環境。子育てをしても働きやすい環境。
		仕事があって、給料が高くて、自分の能力が発揮できること。
	女性	働く場所が少ない＝働けない人が大勢いる。若年層は勿論ですが、中・高齢者が働く場所をください。
		経済的に安心な生活はとりあえず働く場所があることで、受け入れる企業が雇用の条件とかがきびしくて入り口が狭いことにあると思うので人の人柄とか適応性とかを広くみてあげてほしい。
		職業訓練で学べる職種が少なく偏っている。再就職できるようにニーズに合った職業訓練を充実させてほしい。
		働く上で男女が平等であること。

年代	性別	内容
40代	女性	時給がもう少しアップすればよい。
		男女差だとか、年齢にこだわらず、適した所でムリなく働ける状況。休日体制や労働時間が代表例。1人が責任を背負いすぎないことも含みます。
		人間らしい生活ができる状況。休日が取れて、残業がコントロールされていること。民・官ともに週一は早帰り等の日を作り、家族との夕食があたり前にとれる環境にしてほしい。
50代	男性	働ける場があること。出産・育児休暇が整っていること。
		働いていない人がやる気をおこせる労働環境。若者やまだ若いシルバーの方々。
		自分自身が生まれ育った町に住みたいと思った時に自分に合った仕事があること。
		企業が安い労働力を求めて海外へシフトし過ぎる。若者への賃金支払いが少なく、活気がない。
		各人それぞれの個性や資質をそれぞれのレベルに応じて生かせるような労働環境。
		労働に見合った賃金が支払われパワハラセクハラ等が無く常に安定した気持ちで働ける場。
	女性	共働きで子どもがいる若い夫婦にとって、子育てしながら2人の能力が発揮できる環境を平等に与えてほしい。
		子どもが小さいうちは育てる大人に対する労働状況を考慮する。そしてその時期が過ぎたらまたその労働力を如何なく発揮できること。
		シルバー人材や定年後の人のあらゆる職種の人がどこにいらっしやってどこにお願いするのか、また、登録するのかなどハローワークとは別にシステムを作してほしい。
		50歳をこえると職安の仕事も減り、選択できない状況です。支援をお願いします。
		必要な場所に必要な人材といけばいいが、どんなにスキルUPしても働ける場が少なすぎる。
		女性は30歳を過ぎると、パートでしか雇ってもらえない。時給は低い、ボーナスもない。子どもを育てながら生活はきびしすぎる(ひとり親です)。
60代	男性	子育て世代(女性)への支援、保育所等。
		高齢者でも障害者でも能力があればいくらでも働ける場があることが望ましい。
		望んだ企業に入社した社員が十分社員教育を受け自己を伸ばせる企業が良いと思います(社員が2~3年で辞める企業では教育への資金も使えないので)。
		能力や適性に応じた仕事を選べる資料や相談の窓口が役場にある。
60代	女性	今現在息子はUターンで派遣で働いていますが、以前は正社員で働いていたのに何年働いても希望も持てないでいます。頑張っている人にはそれなりの評価のできる会社を育ててほしいと思います。指導して頂きたいです。
		60歳以降は再就職がとっても難しい、もう少し門戸を開いてください。
		障害者が働くための相談できるところがほしい。女性でも高齢者でも働く以上は、中・小の企業であっても、賃金が年に一度は上がるシステムがほしい。
		佐賀県は企業が少なく、また、正規の社員にもなれないことが多く、不安となる。安定した職場を望む。
		住まいの近くに職場があること。最低賃金をもっと上がること。非正規職員をなくすこと。
		働ける場が少ないというか低賃金のため生活できず、親に依存している若者が多いので自立した生活できる賃金を出すべき。
70代以上	男性	これからますます高齢者が多くなってくるという。だが、高齢者は元気な人が多い。働きたいなら低賃金でもよい、短時間労働は可能だ。
		自分が身に付けた技術や頭脳を十分発揮できる企業が身近に(県内)あること。
		佐賀県は働く所が少ない。賃金が低い。交通費が出ない。
		積極的に女性が進出できる職場であること。

年代	性別	内容
70代以上	男性	若者が不安を解消できる職場作りをしてほしい。
		自分の好みや意欲で労働し、それが、他人から受け入れられる環境。
	女性	働ける場が少なく特に高齢者が働く場がない。
		県外に出なくても色々な職業があって所得の良いこと。 今は会社も能力主義になっているので、能力のない人は可哀相です。そういう人を差別しない世の中を望みます。

(2) 「雇用・労働」分野全般についての意見・提案

年代	性別	内容
20代	男性	日本ではルールを外れた者や失敗した者を自己責任の一言で片づけ、全て個人の問題で終わらせようとしている所に疑問を感じる。よく中小が人手不足と言っているが、要は安い給料で教育する必要がなく酷使できるスーパーマンのような人物しか採用するつもりがない所が問題だと感じる。これだけ若者の非正規化が進んでいるのに、経験のある老人を再雇用し、増々若者の働く場所が奪われている。この国は老人ばかり優遇して若者をないがしろにする先のない国だと思っている。
		もっと仕事の紹介があればいいのと思う。
		賃金の面でも他県に比べると少ないと思う。
		就職するにしても会社等まで車が必要、会社によっては駐車場もなく公的な交通機関も遠いため就職条件に難がある。
	女性	企業についての情報をもっと知れる場がほしい。
		働く場所が少ないので若者が他県へ出てしまうと思う。若者が少ない＝地域の活性化はむずかしい。
		職業訓練が少ない。事務系、工業系しかない。
		良い人材を活かすためには、学校での教育をまずしっかり固める必要があると思う。 佐賀県は特に給料面が安すぎると思う。
30代	男性	目標・使命感のある仕事の整備が必要。
	女性	子育てをしていて、仕事をする場合保育園へ預けていますが、病気になった時預けることができないので、病後保育をできる所をもっと作ってほしい。本来自分が見ることができればよいが職場の方の理解が得られない場合どうすることもできない。
		どんな職種でも、仕事と家庭の両立がしやすくなるようにもっと女性の意見を取り入れてほしい。
		佐賀県内では、まだまだ賃金が安く、福利厚生も整えてない所も多く、働いていて、体を壊すことも多いと聞きます。雇用も派遣やパートが多く、正社員制度がまだまだ少なく、所得が増えず、苦しんでいる家庭も多いので、もっと労働環境を整えてほしい。相談する所がわかりづらい。
40代	男性	ハローワークに出している企業はもう少しきちんと審査すべき。
		労働に対する、若者のイメージが良くない方に定着している。(ドイツでは中学生から将来、自分が就く仕事の選択をし勉強をし、職人を育てているので、若いうちから将来の仕事を考えて育成を行ってみたいは。)
		佐賀県内の各自治体が姉妹都市関係を結んでいる都市との人的交流・移動を積極的にすすめては。
		企業誘致の面からでもネット環境整備は大前提。
	女性	私の場合ですが、1人目出産後5ヶ月で仕事復帰させられ、2人目出産後3ヶ月で復帰させられそうになったので退職せざるを得ませんでした。現実には皆こんな感じだと思います。公務員以外は。
		子どもが病気の時はどうしますか？と聞かれる。4時間から6時間くらいの労働ができればよい。
		ハローワーク特区になっていますが、ハローワークの時間外相談時間が1時間カットされ不満です。18時までの受付ですと全く相談に行けません(在職中の人は相談するなということですか?)。以前は19時まで受付、現在は18時まで受付です。特区の割には何の活動もしていないように感じます。
		年齢に関係なく無料で職業訓練を受けられる。 1人に対して1.5人分などを要求しすぎるから余計に女性が働けません。3人で2人分くらいが丁度いいのでは？時給制ならなおのこと、単価が同じなら働く人が休みやすくなった方がいい。

年代	性別	内容
40代	女性	個人的な主観的な意見ではありますが、給料のアップがあまり期待できない労働環境であれば、せめて休日がとれて毎日夕食が午後8時前に取れるといった健康的な仕事の環境を整えてほしい。忙しいこと、残業すること、成果重視を美德とする意識を全体が変えてほしい。余裕ある人員配置を企業にお願いしたい。(一般企業社員で体をこわし闘病中の夫を持つ妻)
		5年前に引越しをしてきました。佐賀は給料が低く4週8休という所が多いです。山の日なる祭日ができるのですが、祭日の休みがもともとないので、なんの関係もありません。佐賀に来て、良かったなと思えるところがありません。忙しいばかりで休みも減りました。年休使えないです。(使って良いといいながらとれない雰囲気)時間外はあたりまえという所も多い。
		募集があっても賃金が低い。保険がない等。働いても豊かになれない。だから優秀な人材は県外へ流れるのでは。
50代	男性	働ける場所が少ないことが労働する側の条件も待遇も悪くする、企業への誘致も対策のひとつでは。
		ハローワークで探しても「形」だけの情報が多く感じられる。本当に採用に向けて登録しているのか疑問。
		大企業でなくても、元気な中小企業がたくさんあればと思う。
	子育てのことで考えれば夫の収入だけで暮らすことができ婦人は子育てに努める。そうなれば夫の収入が増えなければなりません。しかし中小企業では賃金の増は見込めません。そうなると婦人は働きに出ます。子どもが生まれず少子化になるデフレスパイラルは少子化対策が急務です。そのために子育て世代に対し援助することになる。高齢者に対する高額年金等から予算を回し親世代への援助に変えるべきです。親世代へ応援する企業には補助金などの手当が必要と思う。	
	社会環境が、高校を卒業すれば都会へ就職という雰囲気になっている。特に大学生は。	
	労働時間が長すぎてやる気を失っていたり、評価につながらないことが多い気がするので、改善していく。	
女性	外国人の就労にきた環境をもっと良くするべきだ。	
	都会の大学を出ても帰郷しての仕事がない(専門分野をいかせるような仕事)。	
	学生は普通の教科科目の授業も勿論、大切ですが、役に立つ資格免許も取得して卒業すると、今問題になっている若者の貧困の問題を乗り越えられると思います。	
	何十年働いても非職員、賃金面その他諸遇の違いに不満あります。年数を重ねるごとに少しでもベースアップ、ボーナスもそれなりにもらえるような雇用状態であってほしい。	
60代	男性	佐賀県には良い企業が少ないと思う。若者にとって魅力ある企業が多くなれば県全体としての活気も上がると思う。
		ニート対策として職業訓練を実施し、企業誘致を推進し、若者に働く楽しさを体験させる。
		求人環境が改善したといえても、まだまだ労働者の立場は弱い。県は雇用条件等の監視は今より厳しく見守ってほしい。
	労働組合が無い会社においては、賃金、労働条件が悪く、サービス残業、サービス休日出勤むりやりさせられている。私は運よく労働組合のある会社だったので労使とも理解があり今、現在も嘱託で働かせてもらっています。	
	女性	子どもを親から離したらいけない。小学3年生位まで女性の労働時間に配慮してほしい。
		雇用側は、就業時間を工夫して頂きたい。満足されている雇用者が多過ぎる。子どもを増やせとか、無理難題。
仕事は探せば何かしらあるとは思いますが人それぞれ仕事に対する思い(好み・条件)があるためうまくいかない部分も多くあると思う。しかし60歳以上の人にはもっと体に優しく数多くの雇用があれば、60歳定年でも不満(労働・65歳からの年金等など)や不安は少なくなると思う。		
若者は一生懸命なのです。バブル世代の人のようにぜいたくも知らず、働く楽しみも知らず、ただ食べて行くだけの仕事ではいつかはりつめた糸は切れます。昔みたいに年長者が指導して育ててくれる仕組みは必要だと思います。会社に入ってから教育の時間が育てる時間が少なすぎて即戦力にならないと就職試験や面接で落とされて来る若者が多いのに日本の将来に不安を感じます。		
自分で働いて得た金で生活するという基本部分の教育を強力にすべき。		
給料も安く解雇もしやすくするためか派遣やアルバイトパートとして採用する企業も多く「企業は人なり」という言葉があるがこれでは人は育たないのではないかと思います。		
今はシニア世代で働くことができないからわかりませんが、以前はパートでも希望する時間を短くしたりして多くの人材を雇ってほしいと思いました。		

年代	性別	内容
70代 以上	男性	若い人材が県外流出しなくて済むよう雇用力のある企業誘致に力を入れる。 佐賀市を境に、南部はおもに企業化された農・漁業を、北部東部はおもに物作り企業及物流企業と住み分けできないか。
	女性	定年になると嘱託として雇用が給料は見事に減ります。仕事の内容は全く変わらないのに。昇給は無。働く意欲がなくなります。

7. 「その他国際化など」について

(1) 「だれもが国際的な視野を持ち、外国人と共生できる社会」とは

年代	性別	内 容
20代	男性	海外と常に行き来できて交流できる社会。仕事のみならず視野が広がり思考が柔軟になる。言葉が要らない芸術マンガ等の国際交流が良い。
		標識を、英語表記のものにしてほしい。外国人の視点で見ると、今のままの表記では、場所が分かりにくい。
	女性	学生間の交流、身近な国際交流がもっと必要。音楽や文化を通じた国際交流ももっと活発に。
30代	男性	グローバル化(英語教育、文化を学ぶなど)。
		外国人をめずらしい目で見ず、全ての人が平等で差別なく過せる社会。もっと国際的に積極的に人と接することが出来る環境が必要だと思う。
	女性	海外展開、興味をもちお互いをメリット、デメリットがわかった上で協力していける社会。 外国人誘致、外国人とふれあえる機会を多くする。 外国の言語や文化を理解し、差別しない。(競わない。)
40代	男性	ALTが学校に来るようになっていますが、月1回とかでは少ないのでは。
		お互いを尊重しあえる社会、互いの文化背景に理解をしめす。 国際化する前に、おたがいの文化交流が必要で、日本の伝統を国際的にも、広めることにより、日本への感心が増える外国人の方を増していく必要がある。
	女性	生活の場に国際的な言語があふれている社会。 外国人労働者の雇用。 海外からの渡航者をもっと受け入れる体制作りをすすめる必要がある。身元調査をしっかりしておけば安心かも。 将来国際社会で活躍できる人材育成のためコミュニケーション能力を身に付け対等に渡り合える。 実用的な英語学習。 国際化とは、日本を知り、他の国々の文化を知り、理解し、混り合うことです(思います)。今の日本の国際化とか視野は、外国かぶれの段階だと思います。混り合わせた視点を持った方が育ってほしい。 自分たちが佐賀に暮らす外国人だとしたら何を欲し、どうしてほしいかの視点から出発し、それと住民をつなぐ方策を考えてほしい。
50代	男性	国民が英語や中国語等を使って簡単なコミュニケーションができ、地域社会の行事や取組みに相互参加できること。 近所に外国の方々が住んでいたり、公民館などでその人がわかりやすく講座を開いたりして、もっと身近に感じられる社会。外国人の雇用はとて素晴らしいと思う。 言葉でやりとりするため誰もが英語を学べる社会。外国人の方が日本語を学べる社会。 外国人との習慣や考え方の違いを理解し、お互いの違いを受け入れて共生すること(最初は知らなくても、違いが分かった時にお互いが受け入れることができれば良いのでは)。
		国際交流団体がもう少し多く、活動しやすい社会。 在住している外国の人に会う機会がないことが問題なのでふれあえる社会を。 国際的な視野を持つことに興味を持ちたくなるような教育体制が大切で、そういう感覚を持った人が、教育現場に必要なではと。 国際人が優れているように感じますが日本人はもっと優れています。日本人としての誇りを持つようしてから外国人と共生すべきです。 他国を理解し学ぶことが大事。そのための若者海外派遣の環境を整えてやるのが大切。
	女性	佐賀大学では、学生の受け入れ、市内でも韓国語を話す方々が自然に買い物をし、表示にも3ヶ国の案内がある。レストランメニュー表などにもあれば、もっとよいのではと思う(海外ではレストラン等も表示がある)。 子どもの時から、外国の事に感心を持たせ、日本とはまったく違う生活習慣があることを理解させておく。

年代	性別	内容
50代	女性	英会話を気軽に学べる場があれば良いと思う。
		小さい時から語学の学習をして、交流を増すべきだと思う。
		たくさん子ども達が留学できる機会があればいいけれど費用がかなりかかるので、あきらめている家庭もあるんじゃないのかな。何とかできないか。
		小学校から、英語は外人教師が入っていますが、それは視野にはつながりません。留学生、また定住した方、海外経験者との交流の場を増やし、言葉を知識で、国際的な視野を持ち、共生できる社会。
60代	男性	低学年生より語学を学び、また、他国の文化を学ぶこと。
		外国からの出稼ぎ的な人々は近くにいますがなかなか共生までいかず、うちとけない状態です。
		スーパー等ではよく外国人を見かける。時には話しかけたい思う時もあるがやはりできない。外国人が日本語で話してくれれば。
		外国人は何を考えているか解らないという、たぶん誤った認識があると思う。まず、そういう偏見を払拭しないとイケない。
		これまでの慣習(地域性)で外人を受け入れきれない風土が根強い。市町村、県がもっと親しみやすい環境を作っていかなければならない。
	女性	外国で暮らすことは大変なことなので、外国人に来てもらうためには、外国人が住みやすいエリアを設け、公的機関で住居を提供し、そこを起点にいろんなところで働いてもらう。
		それなりの勉強をしてないと、興味もわかないし、こわいと思ってしまうよね。子どもの頃から機会を持てるようにした方が良くと思います。
		外国語が話せないと共生できないので外国語の講座が有れば良いと思う。
		お金とかではなく本当に海外留学がしたいと思う子ども達に補助金があれば良いと思います(奨学金ではありません)。
		外国人に対して、いじめるとか差別しない社会。鳥栖市での外国人に卵をぶつけるなどの犯罪がおこらない社会。
いくつかの国の留学生を受け入れホームステイをしました。全然大変ではありませんでした。もっと県民が意欲をもって取り組んでほしい。何事もチャレンジです。		
70代以上	男性	私の周りに外国人はいない。接する機会もない。外国人を理解し好きにならないと共生はできないと思う。
		幅広い年代層を佐賀県内に呼び込み、広い分野での国際交流をしたらよいと思う
		中学から大学までの10年間で大多数の人が海外留学をし、国際的な視野を広める制度が有る社会。
		外国の人と県内で会うのが多くなった。簡単な会話を交わすことができるようプリントなどで教育できないか。
	女性	まず第1に言葉の問題だと思う。お互いの思いが通じてこそ視野も開けると思う。
		ホームステイでの交流を積極的に企画、実行、交流を深める。 外国人の方のホームステイはごく一部の社会でしかなされていないように思える。

(2) 「だれもが個性や能力を発揮できる社会」とは

年代	性別	内容
20代	男性	障害の有無や性別など関係がなく、個人が活動できる差別のない社会。
	女性	男女の差が少ない、能力を認めてもらえる。
		新しいことを学ぶことができる場所がすぐ近くにある。
		学生の頃にいろんな体験をもっとできるようになり、どんな仕事に向いているのか探せるきっかけを作ってほしい。
	自己主張がはっきりでき、幼い頃からいろんな分野を学び喜んでもらうため、能力を発揮できる社会。一人ひとりが自信をもって何かを発揮できる社会。	

年代	性別	内容		
30代	男性	仕事と家庭の両立と働きやすい環境づくりができた社会。		
	女性	それぞれ互いを尊重しあうことのできる社会。		
		自分の力を発揮したい、しようと思えるような人材が育成できる社会。 男性と女性では、仕事をまかせる内容や役職にも、格差があり、もちろん収入にもひらきがある。男性ももっと家庭の仕事をしてほしいと思う。		
40代	男性	相手を否定せずまず認める社会。成功でなく一人ひとりの成長を尊ぶ社会。		
	女性	生まれた環境や経済状態に左右されず、大学まで進学できる社会。収入の保障。小・中学生時代からのさまざまな職業体験・生き方について考える機会が与えられ、多様性が尊重される教育がなされている社会。		
		専業主婦で子育てに専念という時期があってもいいと思うが、世の中、女性が働きやすい環境となり、国民年金等の扶養者控除などの制度がなくなれば主婦でいられなくなる。子ども達のことをもっとしっかり見てほしいと思う。		
		まだまだ学歴社会重視。もっと個人の長所を広げることを重視してほしい。その人をみてもらいたい。		
		政治の場に、男女同数の議員をおくことを法制化する。		
		女性ばかりが、子どものために、仕事を休まないといけない。もっと男性も協力すべき。		
		優秀な女性が増えているので、女性というだけで、軽く見られることをしないでほしい(男女平等)。		
もっと女性の意見をとり入れ、かたよりのない社会。 地域的に昔ながらの考えが根強い。まだまだ男性中心の社会だと思う。				
50代	男性	失敗に寛容で、何度でもチャレンジできるような雰囲気のある社会。チャレンジすることが得するような感覚の持てる社会。		
		田舎ほど男性有利になっている。DVは行われているのは事実。ただ、マヒしている家族が多い。 生きている以上、人は誰かの役に立ちたいと思いを持っている。その思いを今までの常識にとらわれず、一人ひとりに仕事や役割が持てるようにしていく。		
	女性	本人が希望する職業に就ける社会。 家族構成員が少なくなっています。子どものこと、親の介護、進路、DV、夫婦、近隣、病気のこと、まず相談しやすいシステムがあれば、そこから専門を利用するという窓口がほしい。		
		男女平等。正社員・パート関係なく能力がある人を認める。 男性でも女性でも個々の能力を認め、他者に対する思いやりの心をもって様々な物事に挑戦できる社会。		
60代	男性	女性が何人も子どもを産んでくれてありがとうと感謝できる社会。		
	女性	県政に任せるのではなく自分から探して協力していくことが大切だと思います。 今の世の中はめまぐるしく時間に余裕なく1日をせかせかと過ごしているように思える。ゆとりを持つ社会になれば少しは違ってくるかも。 相手を尊重しお互いに理解し合い、認め合い、助け合う社会。 文化の伝承や地域の行事等、ほとんどが老人の参加で年のいった人の意見で決まっている。若い人の参加を！ 主人は「夫は仕事、妻は家庭」という意識の人です。でも私は主婦ですが、いろんな活動をしたかったけど、子どものこと、親のこと、近所のことなどで精一杯でした。家族でも意見が合わないこともあります。一人ひとりが相手が何をしたいのか知ろうとする気持ちが必要です。 まだまだ女性が政策や方針の決定に参画できていない。それを認める社会になってほしい。 男は男として女は女としてやれることと、男女区別なくできることを認識すること。 男女平等という意識が更に徹底されなければならないだろう。人間、生まれながらに同等という意識が育つためには、家の作り・子育ての在り方から変革されねばならないだろう。		
		70代以上	男性	学校教育の中に、父や母を尊敬し、兄弟姉妹や仲間と共存する修身教育が必要ではないかと考えるに至った。
				個人の特技を生かすための教育、研修が必要。

年代	性別	内容
70代以上	男性	労働や社会活動の環境に男女の格差が無く、また若齢者や高齢者はそれなりの社会的責任を持った活動機会がある社会。
	女性	夫の給料で生活できて妻は安心して家庭を守っていくこと。能力がある女性は自由に能力を発揮して下さい。家庭との両立できず変な社会になってきた。

(3) 「その他国際化など」全般についての意見・提案

年代	性別	内容
20代	男性	パワハラ・セクハラをなくすには男性(特に中高老年)の意識改革が必要。世代交代しないと難しいとあきらめている。
	女性	日本はまだ閉鎖的なコミュニケーションなので、国をまたいでもオープンに接するべきだと思う。もっと強制的でも良いので外国人と接して、広い視野でコミュニケーションをとれば、日々の生活も見方が変わってくる。
30代	男性	国内のことを勉強して、そのことを交流などを通じて外国の方に教え、また、その逆もあればいい。(交流・留学を増加させる。)
	女性	英会話カフェ(中国語、韓国語)など、気軽に寄れて少し会話が楽しめる店が佐賀にもあれば、若い子も興味がわくのでは。
		佐賀県在住の外国人が少ない。観光にも来ない。
		女性の負担がまだまだ大きく、職場や地域などの理解が進み、みんなが平等にやりたいことを実現できるようになればと思う。
	日本は、外国からみても男性と女性の職場での格差が多く、男性は家庭の仕事に対して、楽で簡単というイメージで、女性が楽と思われている。女性は家庭の中というイメージがまだまだ多い。そのため、就職する際、結婚していると不利になることはしばしばあり、正社員ではむずかしいので、もっと女性の活用と男性にも理解が必要です。	
40代	男性	無理に国際化する必要はないと思う。
	女性	県内の施設・道路上の表示・商業施設の表示など英語を併記することを徹底させる。(まちがった英語を使わないのは当然。実際に変な英語を多く見かける。)
		国際化は必要なことだと思う。もっと英語にふれる機会があればよい。
	日本の風土、地域のカラーが現状のままだと難しい問題。	
50代	男性	自分たちのくらしている社会が一番で優れていると考えすぎていることが他の国や個性的な人を下に見ている県民性があると感じる。それでは国際化なんて無理では。
		今の佐賀で国際化が必要なのかな。観光のため？
	女性	国際化を目指すならもっと英語を話せる人を増やすべき。
60代	女性	国際交流がある時は一部の人だけではなく平等に参加させるべき。
		留学・ホームステイのため海外へ行く場合、そして逆に受け入れの場合に助成金や補助金等をするによりグローバル化につながると考えられるものではないでしょうか。DVについてはDVまでに何かしらSOSがあるのでそれに気づいてやるべき。
		外国人との接し方教室でも開いたらよい。(言葉よりも、マナー、習慣など)
		低学年から学力中心の教育ではなく、命、地域、共生、労働など生きていく上での教育をした方がいいのでは。
	佐賀はまだ女性は家庭という意識が強いようです。市議員や県議員は女性が少なすぎる。外国の人達のその国の食事を教えあう、イベントなどがあるといいのでは。	
	まだまだ佐賀は男性優位が家庭や職場で目立つと思う。男女を問わず1人の人間として尊重する社会になってほしい。	
	会話し合えなければ意志の疎通ができないので、やはり外国語を話せるように訓練したり、学習できる所がほしい。	
70代以上	男性	地方に行くほど女性蔑視の意識が強い、もっと人権教育が必要。
		大学の国際化の推進。

年代	性別	内 容
70代 以上	女性	ボランティアで留学生を受入れたりしてるが、娘達に語学を学ばせにいかせる場所がない。 ドイツみたいに小さい時からしっかりした教育をやる、まず我が国日本をよい国にしてから考えたらよい。

8. 「県政情報の発信」についての意見・提案

年代	性別	内容	
20代	男性	県情報といっても量が多いし多岐の分野に渡っているのでこんな所からこんな情報が得られるということもTVラジオネット(フェイスブック等)で流してもらおうと有難い。 放送局のニュース番組で県政の情報発信コーナーを設ける。	
	女性	年配の方ももちろんだが、若者にも気軽に楽しく情報を知れる媒体が増えれば、佐賀に興味が高まると思う。	
30代	男性	県職員の取り組み方、コラムがあればよい。 TVラジオSNS等を利用して世代別に分けて情報発信(若人はLINE、年配の方はTV等など)。	
	女性	ケーブルテレビはあまりみないのでは？民放の20時から22時までのスポットで「さがケンちゃんねる」週1とかの方がもっと目にふれると思う。 もっと、充実した、県民だよりにしてほしい。	
		子どもができてフリーペーパーに目を通すことが多いので、そういう所にも県政情報を発信したらどうでしょうか。この調査を通して県政に目を向くことができたので定期的にこういう形で県政に目を向けてもらうというのは有効だと思う。	
		県政情報がわかりづらい。もっといろいろな年代にあわせて、わかりやすく情報を発信してほしい。	
40代	男性	SNSの活用。	
	女性	県民だよりの充実。 社会的にインターネット社会なので仕方ないかもしれないが、情報公開をインターネットばかりにしてほしくない。 欲しい時に情報を見れるホームページを充実させてください。 もっと手軽にフリーペーパーなどで、目につきやすい物がいいです。スーパーや施設においてあると意外と見るかもしれません。	
		男性	テレビが良いと思う(見てる方も分り良いから)。 県民だよりはまいち。 月ごとの県内での催しもの、イベント情報、見物情報(見どころ)の早目の発信。
		女性	玄海原発に関する情報をなるべく沢山正直に流してほしい。保守的すぎる佐賀県ですが住み続けたい県なんです。 フリーペーパーなどの小冊子を佐賀市だけでなく県全部に配ってほしい。 市報も最近読むようになったが県民だよりはあまり。やはりテレビの方が、かつてに入ってくるかな。民放の情報番組をもっとふやして下さい。福岡のはたくさんありますが。
60代	男性	“しきさい”等の文字の大きさは、情報を多く入れたいのは分りますが、現在より小さくはしないで頂きたい。 SNSなどにすべてが変化しつつあるが、この状況には、あまり賛成ではなく、市報、町報、新聞などの配布物も捨てがたい。 情報収集は新聞、テレビ等が主であるが、インターネットで議会も時々できれば常任委員会の方を見聞きたい。 県民だより「しきさい」の伝えようとするものが理解できない。	
		女性	イベントの情報は駅等人々が目にしやすい場所に早めに看板等で知らせてほしい。どんどんの森等でも。 展示会や美術館などこも月曜日が休み。期間の中に1日だけでも開いている日があってもいいのではないかと思う。だからなにも見たり聞いたりできない。 今は何かというとホームページを見てくださいといわれます。インターネットをしらない人間には全然イベントなどを知ることがありません。ホームページにのせていればよいという考えがあるのではないですか。 選挙のときだけでなく、知事が直接であったり、公報担当者(議員であったり、県職員等)による公報を県内10ヶ所ぐらいで年に1~2回は開いてほしいものだ。

年代	性別	内 容
70代 以上	男性	主要政策については「県政だより」等に特集あるいは連携として詳述してほしい。 県議会情報が少ない。

9. 県政に対する意見・提案

年代	性別	内容
	男性	子どもの医療費等に力を入れてほしい。高齢者の方を大切にするのはとても大切です。同じくらい子どもたちも大切に考えてほしい。
		県外の様々な企業の誘致をぜひ積極的に行ってほしい。佐賀の知名度アップや新しい観光地の開発等。
		企業誘致に力を入れてほしい。道路を増やしてほしい(高速道路)。
		雇用に力を入れてほしい。交通機関の整備、特にローカルバス・さが桜マラソンのようなイベントを増やして全国にアピールしてほしい。
		活気のある県づくりに力を入れてほしい。まず人口減少が問題だろうが結婚して住みたくなる県日本一を目指してほしい。少子化問題は職場問題だけではない。結婚のあり方、子どもの産み方にある。フランス、コスタリカの社会制度を学んで封建的な佐賀を変革してほしい。我々も頑張ります。
		障害者の病状や現状を相手の立場を理解し対応してほしい。職員が無知だったため、助成金を得られなかった。
20代	女性	幼児が遊べる場所(屋内)をもっと作ってほしい。
		保育園の充実化に力を入れてほしい。通勤族で頼れる人もいないので、子どもを預けられる環境を整えてほしい。
		小児科を作ってほしい。(毎日、「8時から17時まで」診てくれる)
		まず、若者の働く姿勢を整えるため、「仕事に対する考え方」をもっと学校や家庭で教えてほしい。または、環境を作って一人の大人として育てるべきだと感じる。そして、広い視野をもつため、国際的分野を学ぶ時間を子ども達に与えていければ、活々できる大人が増えるのではないかと思います。
		①バスを増やしてほしい。②まちの道路の排水をもっとよくしてほしい。本当にお願ひします。元清和高校のところの道路が広がるのがうれしいです。早く工事を終わってほしい。
		駅にたまる中・高生への対処を強化してほしい(未成年のたばこ・飲酒、駅を汚す、駅を利用する人々をにらんだりする態度)。
		県内で就職できるところを増やして、やむをえず県外就職する人を少なくしてほしい。結婚したり、子どもを産む時に会社を辞めなくてよい仕事場を増やしてほしい。
		イベントをもっと行ってほしい(佐賀の魅力をアピールできるような)。楽しめる場所が少なすぎて遊ぶ時は県外へ行くのでもっと充実させてほしい。結婚(出産)に理解のある企業が少なすぎる。
		この県はマイナーすぎる。県や市を上げて全国に名を出すべき。県職員も市の職員ももう少し力を入れるべき。何のための観光課だ。あと災害の時の対策など、幅広い年齢層まで行き届くようにすべきだ(私が知らないだけ?)。
		暴走族をどうにかしてほしい。虫の少ない公園を近くに作ってほしい。駅前には少ないし、うす暗い所が多い、観光地を増やしてほしい。特産品を安く購入できるようにしてほしい。B級グルメを作る秘訣を聞きたい。
電話対応が横着。不快感がある。		
佐賀市税等、働いても納税できない低所得者に対して給与の差し押さえ等はやめて頂きたい。支払いできるなら払えるのに生活に困る。		
30代	男性	保育料が高く感じられる。所得税の階層の幅を小さくしてほしい。
		企業誘致、ビジネスマッチング、高齢者介護施設の運営力アップ、指導(介護施設の倒産があっている)高齢者は増加しているが施設(受入れ)が足りない。しかし、一部の施設の運営が厳しい。色々矛盾がある。
		原発問題を進めてほしい。有田焼を復活させてほしい。その一環として有田焼400年祭は成功させてほしい。
		個人的には原発再稼働賛成なので早期に再開してもらいたい。福祉と雇用に力を入れてほしい。
		少子高齢化核家族化を捉えた政策。福祉の充実 高齢者、障害者や女性が働きやすい社会。各相談窓口の充実。
		市町村、県が色々な面で元気になることを望む。福祉、医療にたずさわる人の賃金(特に介護)を増加するよう望む。仕事量に対し賃金が低くこれから先、子育て出産後の生活に不安が強く感じる。
もっと、佐賀県をアピールしてほしい。正直、ずっと住みたいと思わない。		

年代	性別	内容
	男性	市民税が高く、生活に支障が出る。
		県外・外国の情勢に注目し、県内独自の県政をしてほしい。そして、全国ナンバーワンのまちづくりができるとともに、劣化ではなく、日々進化する佐賀県であることを希望します。県職員を中心に、佐賀県民は魅力的で、素敵な方ばかりです。
		佐賀空港など一方的な交渉、佐賀宣伝のため中国行ったり、先の見込めないことに対して、金の使い過ぎのように見える。
		子どもの医療費、以前のように300円×1回1病院にして下さい。子どもが多いと意外と出費になります。できれば小学校6年まで無料にしてほしい。
		不妊治療の助成金を増やしてほしい。高度医療が佐賀で受診できれば良いと思う。子どもの医療助成をなるべくのばしてほしい。
		保育園の待機児童の解消。
		子育て支援。子どもが安心してのびのび遊べる場所、トリムを作ってほしい。遊ぶため県外に行くことも多いため。子ども医療費の整備。
		ひとり親への支援と雇用に関して力を入れてほしい。
		伊万里市の公共交通機関をもっと整えてほしい。子どもとお年寄りが自分で動けず、親が送迎で拘束されて仕事もできない。特に伊万里市松浦町。
		結婚出産をしてようやく佐賀県のあり方を感じるようになってきた。小さい子どもが安心して遊べる施設飲食店道路整備を期待する。また小さい子どもがいる母親の働く環境が良くなればと思う。
		県内で働きたいと思い、東京からUターンしてきましたが、県内での賃金の低さや働き口の少なさで、少し後悔している部分もあります。Uターンで戻ってくる若者を増やすためにも労働条件や賃金の充実が図られるよう願っています。
		今は保育士を退職し専業主婦をしています。また保育士として働くつもりです。家事、育児との両立を頑張る女性に対する支援に力を入れてほしいです。保育士の雇用、労働についても力を入れて頂ければ嬉しく思います(賃金を上げるなど)。
30代	女性	障害への周知(発達障害への理解)。発達障害を受け入れ雇用する企業を増やす。
		子育て支援に期待します。小・中・高の教育体制、環境の充実。佐賀県PR(他県での)。
		交通の便利をよくしてほしい。PM2.5対策として全学校にエアコンを設置してほしい。最低賃金の引き上げ。
		子育て、福祉、障害者に力を入れて支援してほしい。生活保護の人達の見直しをしてほしい。お金をムダに使ってほしくない。本当に困っている人達に有効に税金を使ってほしいと思います。
		女性が活躍できる場をたくさんつくってほしい。親子が元気にすごせるよう環境を整えてほしい。地域のつながりをつくるきっかけをつくってほしい。
		福祉・医療・子育てでは力を抜かず、すべての人が住み良い県を目指してほしい。現状が悪いとは思っていないが、都市よりは少々何事もスタートが遅いと思う。一部だけの地域で全国より早い取り組み等(小学生のタブレット等)もあるが、それが良い方向へむかうとは思えない。
		魅力ある佐賀県にしてもらいたい。観光客が来たくなるような場所や施設作りに力を入れてもらいたい。人が集まれば必ず活性化できる。学校も勉強しやすい環境(温暖化なのでクーラーなど)を作ってもらいたい。九州初の目玉になるようなこと(企業、お店、ビル、遊びの施設など)があると良い。
		小中学校の学習環境の整備充実(一貫体制で見守られる地域づくり)。福祉に力を入れてほしい。
		もっと、福祉や雇用、伝統工芸に力を入れてほしい。高齢者、障害者へのサポートが必要。高齢者、障害者の雇用をお願いします。まだまだ雇用されていない人も多く、労働条件も悪い方も多い。転職・就職のサポートがまだまだ足りていない。職業訓練の活用が必要。スキルアップが必要。佐賀伝統の工芸品にも力を入れてほしい。PR、イベント、販売する場所の確保、田舎の地方での、道路、歩道、溝の補修工事もしっかりしてほしい。壊れてくずれています。
		もっともっと佐賀をアピールしてほしい。佐賀を知らない人が多すぎる。住みやすい街なので、観光客が増えるのは嫌だが、良いことをアピールするのは良いと思う。
		魅力度ランキングでは最下位に近いけど、住んでいると住み心地は最適です。前例とかバランスとかよりも、思いきった政策がほしい。“教育に力を入れます”“医療に力を”と一つ目玉になるものがあると、うちの県はこれに力を入れてるのか、ここが良くなるのかと分かりやすく、県政がもっと見えてくると思う。見れば注目するようになるし、他県へのアピールにつながる。武雄市はうまいなと思う。
		免許証きりかえの場所が遠すぎる。近くでできるようにしてほしい。基山から川久保は遠すぎる。

年代	性別	内容
30代	女性	県内に福祉の施設は増えてきているので、人材が増えるような工夫が必要。
		県職員の給与、賞与、手当が気になる。多すぎるのではないかの疑問等。職務内容、年齢別に応じたものなのか。
		こういったアンケートの協力にも時間がかかっています。アンケート結果やそれに対してどう働いたかをきちんと報告すべきです。それが県職員になった方の職務ではないでしょうか。今後楽しみです。
40代	男性	学校教育に力を入れてほしい。小学校の授業で、生徒が授業中に室内をウロウロ歩き回っているのも不思議、やかましく怒らない教師も異常。学校をもっと聖職の行われる聖域に作り直してほしい。
		羽田便は格安化してほしい(福岡・長崎の方が格段に安い)。非正規公務員の労働環境の悪さを改善してほしい。せめて労働基準法を適用させてほしい。
		子ども達が色々なことに、興味を持てるようなイベントや授業を増やし、県内の各産業や特色、特産品をもっと知って、将来、県外に出ていかず県内で活躍する人材を育ててほしい。
		子どもやこれからをになう若者が「佐賀は楽しい」と自信をもっていえる観光(レジャーランドや動物園・都市化)に取り組み、帰佐した人にも楽しかったいつでも帰りたいと思う環境を整えてほしい。新幹線も導入し、佐賀駅を活気あふれるところになりたい。「佐賀はなんもなかやん」って言われたくない。
		何でも競争入札にするのではなく企業の特色を活かせるようにしてほしい。安価でやれば質が落ちるのは必然だと思う。
		民間企業より人材派遣、民間企業の意見等を反映していただきたい。あいさつをできない方が散見されるので改善していただきたい。
		県の規模や県民の生活の実情に応じた県政を行ってほしい。目新しいことや目立つことではなく、佐賀県に本当に必要なことにお金を使ってほしい。県庁はトップダウンで風通しが悪いと聞くので、県職員が自由に意見を言えて、議論できるような環境になれば、もっと県民の声が届くようになるのではないかと思う。
40代	女性	幼稚園代を軽減してほしい(補助してほしい)。
		講座などの時、託児ありだと小さな子をもつ親の参加も増える。先日同和教室の方へ行った時、子と離れる時間のため参加したと言われた。一人での育児中一人になりたい時私も参加したことがある。親のためにもいろんな点で託児ありの講座をしていただけたらと思う。
		本当に平等であると言える社会づくりを心がけてほしい。福祉を受ける人達でも「本当にできない」のか、しなくても済むから「しない」のかを見極めてもらいたい。真面目に働き、納税している人もいれば社会的弱者を装って、働こうとも考えていない人もいるのは事実だと思う(高齢者であっても努力し、働いて納税している人もいます)。真に助け合いの社会というのであれば、一人ひとりが役割をもち社会貢献する仕組みづくりをしてほしい。
		小、中学校で問題行動を起こす生徒が多いと思う。それに対しての先生の対応が見て見ぬふりだとか、情熱を持った先生が少ないように思う。家庭の協力を得られない場合でも子ども達のことを大事に思って、頑張してほしい。
		県立、私立高校の中退者が多いと聞き、周りにも何人か知っている。中退する前に、十分な悩みの相談、学業を続ける方法の支援があれば卒業まで勉学に集中できたのではないかと思う。カウンセラーの利用も有効に活用されていない気がする。問題が大きくなる前に、少しのことでも相談でき解決できるシステムが必要。
	女性	大雨時の佐賀駅周辺の排水対策を早急にお願いしたい。
		福岡行きのバス(西鉄)は充実しているので通学、通勤に助かっている声をよく聞くが、市内はなかなか本数が少なく利用したくても不便で料金も高く感じる。渋滞やクリーンな面から見ても市営バス他のみならず県でも安く利用できる乗物があれば(人口的にも無理でしょうが)。
		佐賀に住み始めた当初、今まで生活していた県外に比べ、福祉、子育て等が、遅れていると感じた。今は、少しずつ改善いただき、佐賀で暮らせてよかったと思う。ただ、車がないと不便で、お年寄りの方々には住みづらいのかなと思う時がある。
		車の対歩行者の交通安全意識の向上。47都道府県で最も快適に車の運転ができる県のように、反対に言えば車至上主義だということです。どこへ行っても駐車場は広く確保されていますが、公共交通機関でのアクセスが悪い場所、時間なども多いです。あえて自家用車を規制するようなことも考えてみてはいいですか。
		安心、安全な住環境に力を入れてほしい。常襲水害の被害の対策を1日も早く望みます。前例が無いからと何もしないということは、その被害から目をそむけ、耳をふさがれているようで。雨が降るたびに、心配で安心して夜も眠れない住民がいることを知っておいて下さい。
佐賀県は1次産業がメインなので頭をつかって稼ぐことのできる農業経営者を育成して下さい。		

年代	性別	内容
40代	女性	県に望むことは、労働賃金を上げてほしいのとブラック企業を抜きうちで調査しこらしめてほしい。声に出せないが企業に泣いている従業員はびっくりするほど多くいるため。
		雇用の安定。中小企業、地元企業の活性化が県の活力につながると思う。若者が安心して佐賀に残れるよう、高齢者の生活を家族や地域で支えられる佐賀県を目指してほしい。佐賀県が大好きです。
		小さな県だからこそできる、魅力的な取組みに期待しています。学校給食を地域の産物にする、海に流す洗剤は石けんにする、などなど、子どもや孫に今より良い環境を渡しましょう。
		障害者雇用に本腰を入れて取り組んでほしい。県庁の中に民間から多くの人材を入れて、活性化してほしい。学校の先生を増やして、少人数指導を進めてほしい。教育にもっと力を入れなければ佐賀の将来に希望がもてない。
		佐賀県は子どもの数が多いほうなので、もっと福祉、医療に力を入れてほしい。子どもの医療費の見直し、予防接種(インフルエンザ)など無料化を。子どもが走りまわられる芝生の公園をもっとほしい。福岡のベッドタウンになれるくらいの取組みをお願いしたい。
		去年、熊本より転居してきました。以前から佐賀という「何となく目立たない県」というイメージがあったのですが、県内のいろいろな所へ出かけるようになり、自然豊かな佐賀の環境がとても好ましくいやされるものだ実感しています。九州外から訪れる観光客にも福岡から一足のぼして佐賀のよい所を見ていただけるよう、アピールに力を入れてほしい。
		佐賀県全般に言えることですが、自県のアピールの仕方が非常に消極的。個性は大切なので他県(特に福岡)のマネをしてほしいとは思わないが、東京や海外の人から特産品や新しい取組み等について尋ねられた時、回答に困ることがある。(自県のこともよくわからないということです)もっと積極的に外へアピールすべき。
		学生が勉強したい時に申し込むお金の借入れ方法をもう少し簡単にできたらいいです。
		1つの相談に対して、担当があるのはわかるが、「〇〇へ行ってください。」と何カ所もまわったり、こちらが欲しい情報が得られなかったりする。わからないことが申し訳ないような担当の人の対応も困る。
		接客態度など小さなことを考えず、県全体のことを考えて下さい。県の計画をたて、実現できるのは県の人しかいません。ゆたかな自然、雇用、教育、文化が充実した佐賀県を維持、発展させて下さい。
行政は縦割りに固執しすぎ。できることがあればそれぞれの垣根を越えた活動ができるはず。それと無駄な施策も多いと思う。やっつけて気付けば修正してほしい。		
このアンケートを県政に活かしていただくことを希望する。また、県政の取組みがすべての市町村で同じようになるように支援してほしい。		
50代	男性	福祉サービスの情報をわかりやすく発信してほしいです。
		老健施設を増やしてほしい。
		『安全』に力を入れてほしい。原発、空港等。
		観光客が減りつづけている。観光地もイベントなどの工夫で今一度、取り戻し計画をしたほうがいいと思う。なぜ、ディズニーランド、ユニバーサルの客は減らないのか、何回、行ってもイベントが違うのであきない、また行こうと思う。
		下水道の整備を早目に進めてほしい。スポーツ施設の整備を進めてほしい。
		子どもの増加が最大の急務です。老人ばかりでは経済も何もありません。子どもが生まれればお金が動きます。消費が増えるのです。そして生活援助を行うのです。大人になって働くようになったら税金で返してもらうのです。20年から30年計画で少子化対策を行うことです。子どものいない集落は悲しい限りです。
		今後高齢化になり農業を行う人がいなくなり若い人の県外へ行くことを止めることも難しいでしょう。今後佐賀県はどうなるのかと思います。どうしたらいいのか考えられないので取り組んでほしい。
		税金の使い方。将来税収が減ることが予想されるので今よりも税金が高くなるのが心配。税金の使い方を真剣に考え節約してほしい。
		市町村合併で地域間格差が生じている。合併後どの市町も観光に力が入ってない、県は特に九州自然歩道の標識などの整備に力が入っていない。道路の管理は業者に委託するのではなく、専門部署を設け計画的に作業すべき(草刈等)。
		県境のため、県主催のイベント、講演会等の開催が少なく参加する機会が少ない。県中央の情報が得にくいと感じる。
県職員の接客態度が悪い。理由は、最低知っていなければいけないことをすぐに連絡をまわすことが多く見られるため。接客を勉強すべきと思う。最低のことはもっと勉強すべきであると思う。		

年代	性別	内容
50代	女性	老人の福祉は、良くなっている、だけど働く女性の宅児関係等児童クラブ等、もっと、人員の収容拡大を願います。
		不妊症の女性が多いので、国からの補助をもう少ししてほしいと思う。子どもが欲しくも、できない女性が多いから。
		認知症対応の受け入れ施設をもっと増してほしい。
		なかなか県庁に行くことがないのでわかりません。母子父子の子ども達の学業の援助がほしい(塾など)。生活保護は国民年金より高くなってはいけないと思う(以前聞いたことがあるから)。生活保護、母子手当の不正受給者はどうにかしてほしい(市役所職員はあてにならない)。
		高齢者医療制度に不安があり、現在同居の親を認知症のためやむなく施設に預けているが、費用が高額で、年金で足らず、家より出費している。少し安くないか。これから先、生活していく上でとても不安である。
		若い子育ての家族が安心して生活できる県にしてもらいたい。福祉ばかりじゃなく健常者の方にも目をむけてもらいたい。税金の使い方も、もう少し考えてもらいたい、不公平です。
		佐賀県すべてに共通するのは人材のレベルアップだと思うので一番力を入れてほしいのは教育です。ちゃんとした大人を育てることが良い社会になる一番の近道だと思います。
		不登校にも対応できる環境を学校に作ってほしい。
		毎年水害がありますが、同じ繰り返しのでももう少し整備してほしい。
		大きな市だけでなく町・村がもっと活性化するような取組みをしてほしい。
		カラス対策。
		交番のパトロール強化、単身赴任で男性が居ない家族が多いため(夜間)もパトロール強化。高齢者も利用できるようなプールがほしい。公道を私道化するのは止めさせてほしい(駐車場)。
		子ども達が安心・安全に暮らせる家庭・社会であってほしいと第1に希望します。児童の相談が増加しており心を痛めています。家庭のあり方も問題です。今の子育て中の親を育てた私達の世代が力足りずだったのでしょか。
		県内での就職、雇用を充実させてほしい。佐賀県内では、企業が少ないとか仕事がないとか私の時代から言われてきていた。当然のように上の子は他県へ就職して『どんな事があっても地元には戻りたくない、なぜなら何も(広い意味で)無いじゃない』と言う。
		農業にもっと力を入れてほしい、予算など計上してほしい。後継者ができやすい環境づくり。道路と川の堤防の改修を急ぐ。
		環境のよい県なので、それをもっと生かしてほしい。魚業、林業にも力を入れてほしい。
		人材の県外流出がもったいない。また、地域の活性化のため若者が残れる佐賀にしてほしい。佐賀で働く若者をふやしてほしい。
		県や市町村単位でのボランティア登録制度を作ってください。退職後役に立ちたいと考えている人は私の友人でも多いです。県独自の制度を作り、あたたかい佐賀県をめざしたいです。もちろん、私も登録します。学校の学習補助員など。
		福祉に力を入れてほしい。介護の仕事は重労働のうえ低所得のため辞める人が多い。労働に合った給与をもらえるようにしてほしい。人手不足のため満足なサービスが受けられないため老後に不安のないようにしてほしい。何人も安心して老後を送れるようにしてほしい。また、企業を誘致し若者が佐賀に住めるようにしてほしい。
		県政にあまり関心を示せないのが実情です。関心を持ってない私自身に問題があると思いますが、関心が持てるような工夫努力もお願いしたい。
社会のさまざまな制度で、知っている人は得、知らない人は損となっている(年金相続給付等々)。説明があっても言葉が難しく理解しにくい。手続きをする時期等知っておくべき最低のことは一般誰でも周知できるようにしてほしい。		
昔の決め事を現在でも引きずっているために要望を言っても、変わらない。職員のすべてが給料のため働くだけで、市や町を変えようと思う人がいない現状である。		
県、市職員の窓口業務を行う方は(特に市民課)、もっと業務に対する内容を理解している人にしてほしいです。何度も出向いたり、質問に対して答えがなかったりしたことがあります。不愉快でした。		

年代	性別	内容
60代	男性	鳥栖方面に県の文化施設及び行事が少ないように思う。
		佐賀は福岡県の隣であり、今後交通網の整備等を推進して、北九州の輪郭都市として成長できる可能性を秘めています。その観点から、環境整備に取り組みたいと発展するものと確信します。
		鹿島太良地区は道路行政で見れば陸の孤島化をしている。道路の税金から言えば少ないと思う。有明湾岸道路も鹿島市内まで乗り入れるようお願いしたい。また湾岸道路へ佐賀大和インターへの接続をお願いしたい。高速道路なしでは企業誘致できない。税金を払いたくないような道路行政である。
		海岸工事で耐用年数30年を越えた鋼材使用工事ヶ所が多数ヶ所あります。10年以上前から言って来ましたが今はどうでしょうか？大事故が起きないうちにチェックをお願いします。
		すばらしい自然(海・山・平野)をまず大切に守ってほしい(有明海の再生、唐津の白砂手入れされた森林)。自然と対極にあるのが、原発。原発が一番恐ろしい。原発はやめてほしい。
		農林業発展。過疎化になっていくのが心配。後継者育成に努力してもらいたい。
		地域では60歳以上の雇用がむずかしく雑仕事ばかりです。しっかりした内容の経験を積んだ人材の仕事など求人情報をお願いします。福岡などに比べれば少ない感じがします。
		若い人達の定住を進めるため、企業誘致、雇用先の確保を図ることが、地域の活性化、少子化に貢献すると思う。公務員の方も地域の宝です。採用を増やすことも活性化につながると思う。
		県内に若者が家庭を持ち、定住できる職場の確保。企業誘致や農林業への支援拡大。
		佐賀県のイメージが残念ながら何もありません。活動的なものが何も感じるできません。
	女性	団塊の世代として今から15年～20年経ったら老人がいっぱい、個人年金、福祉、毎日の生活(病院、買い物、他への交通機関)、来年10月にはまた消費税10%になる可能性大となり、今後非常に不安要素が増えてきます。今の国では大不安、佐賀県として10年先、20年先を見据えた各対応は？住みたい県日本一を目指して。
		市町村合併後を見直してほしい。中央主義になっている。
		県の財政のムダをなくしてほしい新幹線など。
		特別な用事がないと県庁に出向く機会がないが、もっと気軽に足が運べるよう、ロビーをもっと県民に解放された感じにしてほしい。
		高齢者が希望を持てる佐賀県であってほしい。若者が夢を持てる佐賀県であってほしい。子ども達が幸せを感じる佐賀県であってほしい。労働に見合う「対価」が低すぎるように思う。県民の真の声にもっと耳を傾け弱者に寄り添う県政を希望する。
		県職員(市町職員を含む)は、公務外でも地域での活動にも積極性を持って取り組んでほしい(公僕であり、初心を忘れずにリーダーシップの発揮を)。議員(県、市町を含む)も同じ。当選した時の志を履行するように。
		医療機関が利用しやすくしてほしい。
		1人世帯でも入居できる公営住宅を増設して下さい。
		本当に子育て支援をよろしくをお願いします。若いお母さんが働きながら子どもを育てるという基準をもっと広くしてほしい。一年の育休後は夜勤、残業があり、1歳の子どもはあちこちに預けられ、どうしても預ける所がない人は夜間保育へ。一日に親子で過ごす時間が4時間程度では良い子は育たないと思います。親にとっても子が大事。子にとっても親が大事。小さい時からの信頼関係こそが子どもの心を豊かにできると信じます。保育所が子育て場所にならないように、佐賀県の子育て支援に期待します。
		延長保育等せず子どもと一緒にいられる時間の環境を作ってほしい。せめて、小学校低学年がいる母親・父親には、子どもにかかわる時間を十分にもってほしい。職場の協力を得て収入面も考えてほしい。もっと暮らしやすい佐賀県、日本一の佐賀県を目指してほしい。
福祉に力を入れてほしい。福祉施設への入居待ちの老人が、解消されるよう望みます。年金の範囲内で、入所できる施設を増やして下さい。		
福祉に力を入れてほしい。障害者が作業する場所が少なく工賃が低い事で本人に意欲があまりわかないこと。		
公営プールがほしい。		
鉄道が不便と感じている。		
僻地の生活をこれからどうして生きていくのだろうと思うと心配(自動車を運転できるうちはいいが高齢者になり運転できなくなった場合が心配)。		

年代	性別	内容
60代	女性	片寄った地域開発ではなく、施設の分散等でどこにでも活気が出るまちづくり地域づくりを心掛けてほしい。
		地震や台風が多い佐賀県で本当に原発が大丈夫なのか。
		特に梅雨時や台風シーズンには、住居、田畑、国道通学道路等100mm位の雨で浸水し八方ふさがりとなり、町でも一番危ない地区です。このような所に目を向け対策を講じてほしいと願っております。
		農林水産業に力を入れて下さい。環境の保全も合わせて佐賀を売り出してほしい。
		今から高齢者がふえるばかりなので高齢者だけの職場とか多くあったらいい。
		若い力が県外に出ないようにもっと大きな職場作りに力を入れてほしい。
		障害者が安心して働ける職場がほしい。
		老後の通院にはとても不安を感じている。福祉に力を入れてほしい。また、若者が安心して働くことができるよう企業等誘致してほしい。
		今回のアンケートの意図とは離れますが、福祉施設で働く人のがんばりにも目を向けた取組みを希望致します。障害、老人、保育など雇用主の努力と、働く者の精神力がもっと豊かな生活へと反影されますことを願っています
		原発に変わる代替エネルギーに係る企業の発掘、支援をしてもらいたい。婚活にさらに力を入れ子育て支援等女性に優しい社会をつくり住みたい県として少子化問題解決につなげてほしい。女性の登用よりも夫がもっと妻を支える仕組づくりをしてほしい。
		1年前に県外から越して来たものですが情報源がなく不自由しています。県民だよりや市報、町報などでいただけるのですか。
		佐賀県の人口が減らないように魅力ある県に！大きな祭りやイベントなど県外に観光アピールしてほしい。
		2050年には日本の人口は半分になると言われる中で、将来の自分の子ども達への希望のある佐賀県づくりを願っているところです。国への発信も願うところです。年金にばかり、将来もらえるかどうかの中で、今の老人のを支えているのですから。自分達がもらえなかった分将来の子どもらへと思います。
		さるに困っています。どうにかありませんか。
		佐賀に根付いた文化や食物などまだまだ全国に知名度が発信されていないと思う。長崎と福岡にはさまれ小さくなっている県民性が伺える。堂々と佐賀人であることをほこりに思してほしい。
		今住んでいる所は、総じて生活し易い所だと思っています。でも最近、ちょっとした事件等を耳にすることがある。もちろん県政に望むことは大であるが一人ひとりの自立した考え、行動、他を思う気持ちを育てる、物では無く心の部分が育つことをしてほしいと思います。
		箱物を作ってもそのあとの活用やイベント、PRの不足により観光等で訪れる人が増加していない。
		県より委託先の事業所の対応が悪いと思います。遅すぎるのもっと早い対応を望みます。やる気がなさすぎ。いつもイライラします。
		税金(県民の働いておさめた)を無駄に使わないでほしい。
		もっと情報公開してほしい。特に政務活動費など県民が一生懸命働いて納めている税金の収支報告、原発に関することなど。先日TVで議会改革ランキングで佐賀県が最下位と知り驚くと同時に佐賀県ってそんな県なんだ、と思った人もいるだろうと情けなかった。情報を公開することでいい加減なことではできないので「今日より明日を必ず良くする」という施策には必要なことだと思う。県が本当に明日をよくしたいという信念があるなら声だけでなく行動に移してほしい。期待しています。
県図書館カードが使えなくなるととても残念に思っています。是非検討してほしいと思います。		
一か月の生活費として最低でも25万(2人)が必要です。税金、社会保険、介護保険等引かれる金額が多く楽しく生活できる余裕がない人がとても多いです。私も含め外出するのに伴うのは支出。引きこもりの退職者が多くなると思います。税金等の軽減をしてほしい。		
佐賀県を良くしたいという志の高い人を採用して。学生の時等、ボランティアやスポーツいろんな経験を多くやって来た人はアイデアも多いと思う。学力だけでは社会に通用しないと思う。		
お昼休みに行った時怒ったような態度をされた。他県からも来客はあるかと思う。どうか佐賀県の「顔」であることも忘れず接客して頂きたい。		
若い人が働ける職場を確保し活気のある「佐賀」をつくっていただきたい。長期計画をたて地道に推進していただきたい。		

年代	性別	内容
70代以上	男性	私は78歳です。アンケートを書いているうちにバカバカしくなりました。「今より明日がよくなる」なんてとんでもない。市役所から通知が来るのは介護保険、後期高齢保険の値上げの通知。年金で細々とくらしても年金は下がり、税金は上がり生活のメドが立たない毎日です。これから良くなるのでしょうか？
		第三子以上の子どもを多くして活性化してほしい。
		後期高齢者保険料を安くして下さい。
		1人住まいであるので、介護が必要になったときに、高齢者がすぐ入れる施設の充実を図ってほしい。
		介護福祉の見直し。ムダが多い介護施設等の利用料金の制度。
		社会福祉の充実。長期入院患者の社会復帰は全国的課題となっていますが、社会復帰社会参加の意欲を促し生きがいを期待できるハードソフト両面からの支援が望まれる。社会復帰訓練施設特に心身障害者の自立社会参加の支援のための。
		下水道工事が終わってアスファルト仕上げをやってもらっていますが、なるべくなら、県道、市道、町道等、タテ割り行政ではなく、1つにまとまってキレイにやってもらいたい。
		道路整備に関して視察して、しっかり対処してほしい。市内全域、鳥栖駅周辺。
		前年度の県民税金が4000円、今年度は6500円に上がっている。なぜか年金は下がり生活が苦しい現状。妻が身体障害者であり買物や病院に行くのに車がないとできないが、油代が上がり苦しい。
		佐賀県全体をきれいにしてほしい。今住んでいる所は川が汚い。横浜から引っ越して感じたことは、市全体、県全体が汚い。永久には住みたくない。
	新幹線について肥前山口～武雄温泉駅を高架にしてほしい。回覧物・個人配布チラシ等で無駄な物が多く、税金の浪費と思う(赤い羽根、緑の羽根、日赤シール等も同じ)。	
	武雄市長の活躍、有田焼、佐賀牛、呼子のイカ等都会でも知られているが、佐賀県の知名度が低い。また、県内の道路標識・案内板が少ないので、利用しにくい。	
	①企業の誘致②諫早(長崎の水門は畑を作っている人が困ると思う。塩の被害で畑は作られないと思う。漁業の人も年齢が年とっているので職業としてやっていけるだろうかと思い悩んでいる。)	
	本県は豊かな自然とそれを開発活用した産業が身近にある。学校教育でこれを体験して県民に郷土の誇りを認識してもらおう。大都市圏に1時間以内で交通網の整備で更に至近になった。その有利性を更に効果的に活用する方策を考えていくべき。	
	1.横断歩道の横に立っていても数台の車は通過する(無視する、止まらない)。交通ルールやマナーをしっかりと見つめ直してほしい。2.第2のふるさととして佐賀は最適(安心した医療、食物、住居、健康づくり等)です。将来的に高齢者タウンをつくり全国のモデルとして日本中から集めてはいかがでしょうか。そのためにも、葬、墓のカウンセラーを充実させさらに安心してらせるシステムをつくり、実行する。	
	佐賀のおいしいもの、観光資源をもっとPRすべき。佐賀も大阪みたいに都構想みたいのをやったら。	
	真剣に人口が増える方策を考えてほしい。子育てという前に子どもが生まれる方策をとって下さい。	
	女性	年金生活をしている私には、きびしい毎日です。毎年のように年金が下がっているの、これから先のことが心配。県としても年金が上がっていくための力を出してほしい。
	福祉に力を入れてほしい。特に病院等が遠く大変です。先生(Dr.)が不足している、応診等をしてほしい。自動車に乗れないし、バスもステップが高く乗れない。	
	どんどん増え続ける高齢者が安心して老後を過ごせるよう福祉に力を入れてほしい。佐賀県が他県に比べ、一番住みやすく、活気があふれる県になっていくように県でもしっかり努力をしてもらいたい。	
在宅介護の場合に医師の往診を充実してほしい。特別養護老人ホームの増設。		
教育に力を入れて下さい。教育委員、校長は一般の人からして下さい。先生、校長、教育委員となれ合いで何にも良い方向にいかない。一般の人の子どもの教育ですから、教育者だけでは解らないところばかり。自分達の好きなようにやっている。		

年代	性別	内容
70代 以上	女性	高齢者が気軽に利用できる文化施設やスポーツ施設を増やしてほしい。
		近くにお店がないため買物に不自由。交通の便が悪くて年寄りには住みにくい。
		県中心より遠隔になると情報(例・文化面や好きなスポーツコンサート等の)が入ってきても交通手段や時間的なことがネックになって行きたくても行けない。もっと末端の地方でも開催されればと思います。
		交通機関に力を入れてほしい(バス)。計画的な道路整備(雑草)。
		これまで商工会館1Fにあった県物産館が移転に伴いなくなりました。ぜひ市内に県物産を大々的に扱う店を作ってほしい(レトロ館や諸富昇開橋そばのみやげ物産店ではものたりない)。
		県外からでも佐賀に住みたくなるような町にしてほしい。大企業を誘致して活気ある佐賀にしてほしい。
		市民にこと細かい情報とか、今後色々な面で、情報を伝えてもらいたいと思っています。
		高齢者人口の増大、生産者人口減少の時代が到来するのを見据えての政策を期待している。